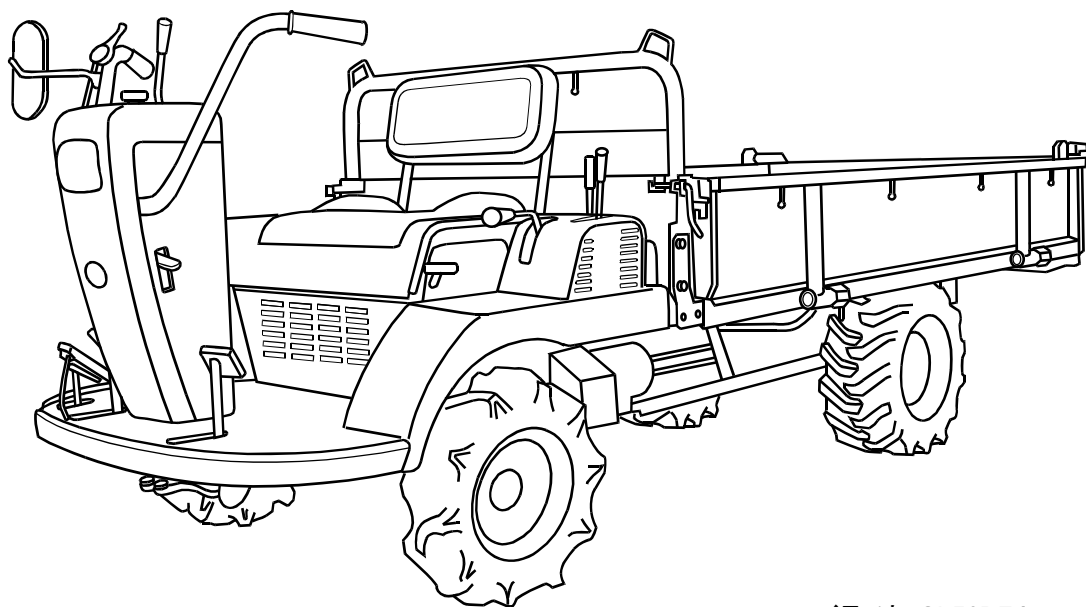


ホイール型運搬車

取扱説明書

SL51

SL56



イラスト：SL56DEA

ご使用の前に必ずお読み下さい。

atex

はじめに

- このたびは、(株)アテックス ホイル型運搬車をお買上げいただき、まことにありがとうございます。
- このホイル型運搬車は、小型特殊自動車です。この車の所有者となった方は、小型特殊自動車の登録申請を行い、ナンバープレートの交付を受けてください。(6 ページ参照)
- この取扱説明書は、ホイル型運搬車を使用する際にぜひ守っていただきたい安全作業に関する基本的事項、また、ホイル型運搬車を最適な状態で使っていただくための正しい運転・点検・整備に関する技術的事項を中心に構成されています。
- ホイル型運搬車を初めて運転される時はもちろん、日ごろの運転・取り扱いの前にも取扱説明書を熟読され、十分理解の上、安全・確実な作業を心がけてください。
- この取扱説明書は、いつでも取り出して読むことができるよう大切に保管してください。
- ホイル型運搬車を貸与、または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書をホイル型運搬車に添付してお渡しください。
- なお、品質・性能向上あるいは、安全性の向上のため使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容及びイラストなどの一部が本ホイル型運搬車と一致しないことがありますので、ご了承ください。
- もし、おわかりにならない点がございましたら、ご遠慮なくお買上げいただきました販売店にご相談ください。

- 取扱説明書の中の **⚠重要** 表示は、次のような安全上、取扱上の重要なことを示しています。よくお読みいただき、必ず守ってください。

表 示	重 要 度
⚠危険	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示しています。
⚠警告	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示しています。
⚠注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示しています。
重要	商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しています。よく読んで製品の性能を最大限発揮してご使用ください。

- この取扱説明書では、同じシリーズの各型式・区分の運搬車について併記してあります。お買上げいただいた運搬車の型式・区分名を機体に貼付してある銘板で確認され、該当する部分をよくお読みください。

型 式	仕 様
S L 5 6	4 輪／4 輪駆動（パートタイム）
S L 5 1	4 輪／後 2 輪駆動

区 分	装 備 内 容
A	平荷台・枠三方六角水平
E A	平荷台・枠三方六角水平・セルスタータ
D A	油圧ダンプ・横枠六角水平
D E A	油圧ダンプ・横枠六角水平・セルスタータ

目 次

重要安全ポイントについて	2
安全表示ラベルの注意	3～4
小型特殊自動車としての取扱い	5～7
安全のポイント	8
安全な作業をするために	8～23
保証とサービス	24
各部の名称とはたらき	25
各部の名称	25
スイッチの名称とはたらき	26～27
操作レバー及びペダルの名称とはたらき	28～35
その他部品の名称とはたらき	36～37
運転前の準備	38
運転前の点検について	38～39
運転のしかた	40
運転操作の要領	40～50
積載要領	51～52
油圧操作	53～54
点検・整備	54～65
各部の調整	66～87
手入れと格納	88～89
不調時の対応のしかた	90～96
農作業を安全におこなうために	97
一般共通事項	97～99
移動機械共通事項	100～101
サービス資料	102
主要諸元	102～104
外観図	105～106
配線図	107～108
主な消耗品	109
索引	

重要・安全ポイントについて

1. 運行前には、
必ず始動点検を行ない、特に重要な保安部品（ブレーキ等）は、
確実に整備します。

2. 農道を走行するときは、
スピードを落とし路肩に注意します。

3. 圃場へ出入りするときは、
スピードを落とし畔に直角に走行します。

4. 機械の清掃・点検及び調整をするときは、
必ずエンジンを止め、荷台降下防止をします。

5. 補助者と共同作業を行なうときは、
合図をし、安全を確認します。

6. ダンプ作業を行なうときは、
周囲の安全を確認します。

7. 荷物を積むときは、
積載重量を守りバランスよく、また荷動きしない
ようしっかりとロープ等で固定します。

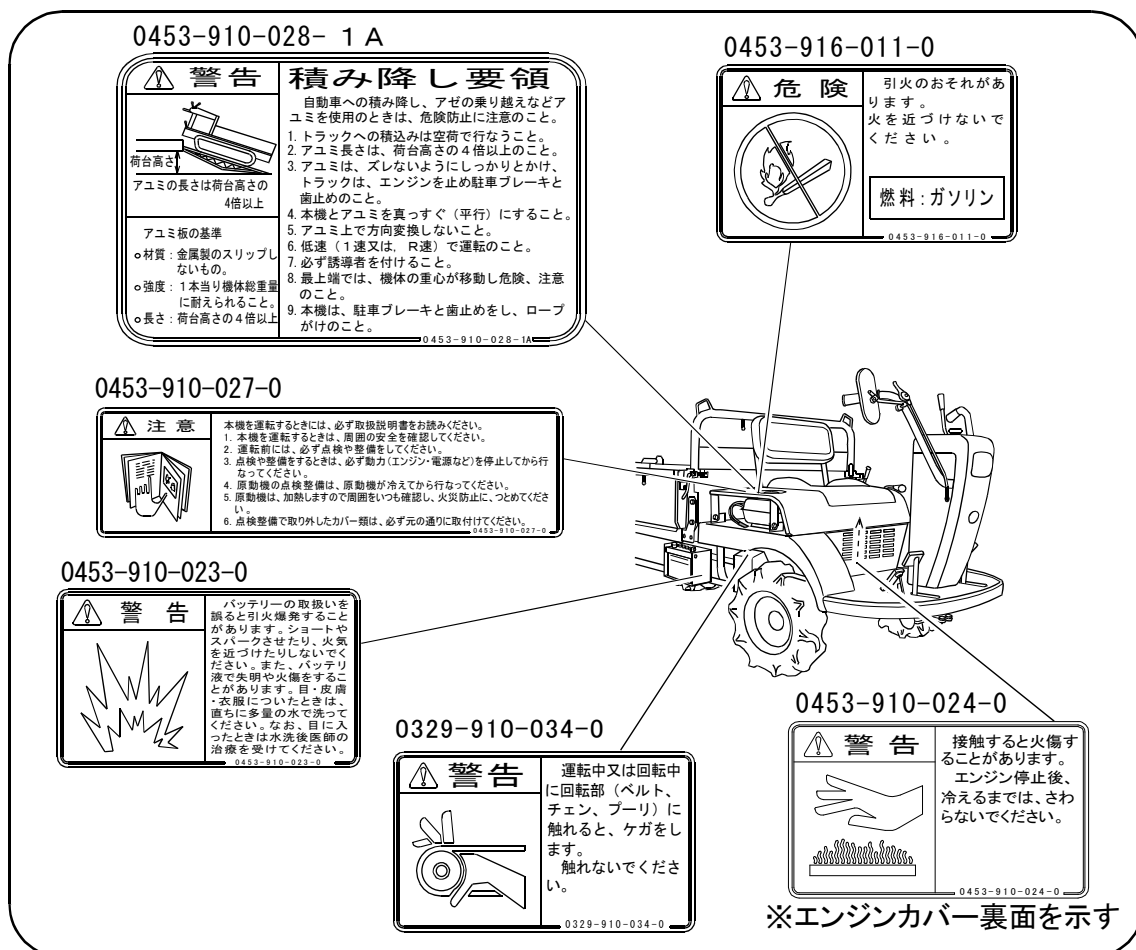
この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは上記の通りですが、これ以外にも本文の中で安全上是非守っていただきたい事項を  **重要** を付して説明の都度取りあげております。
よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願い致します。

安全表示ラベルの注意

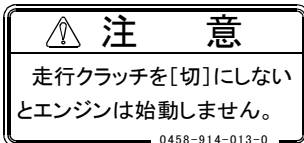
- 本機には、安全に作業していただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。必ずよく読み、これらの注意に従ってください。
- 安全表示ラベルを破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼りかえてください。安全表示ラベルは、お買い上げいただいた販売店へ注文してください。
- 汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。
- 安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に安全表示ラベルもお買い上げいただいた販売店へ注文してください。
- 安全表示ラベルには、洗車時に直接高圧水をかけないでください。

安全表示ラベル貼付位置

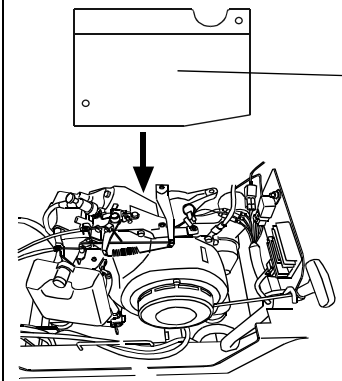


安全表示ラベル貼付位置

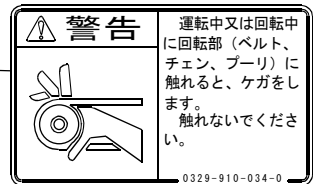
0458-914-013-0



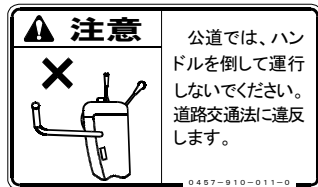
※エンジンプーリ上のカバー



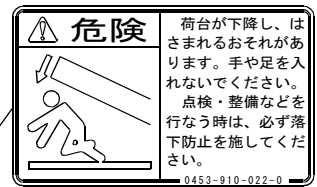
0329-910-034-0



0457-910-011-0

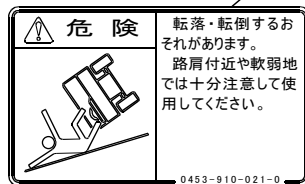


0453-910-022-0

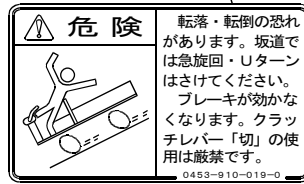


(D, DE型)

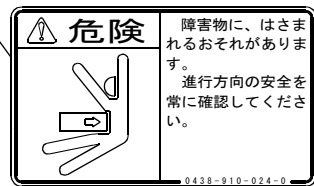
0453-910-021-0



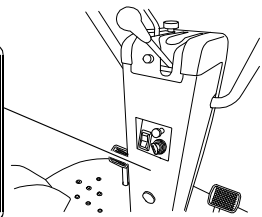
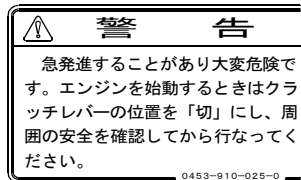
0453-910-019-0



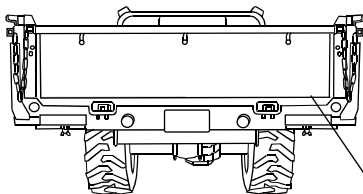
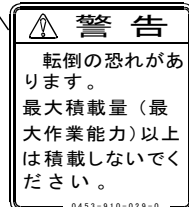
0438-910-024-0



0453-910-025-0



0453-910-029-0



小型特殊自動車としての取扱い

重要

●この運搬車は小型特殊自動車（ホイール・キャリヤ）として、道路走行車両の型式認定を受けております。ご使用の際は以下の点を遵守してください。

■小型特殊自動車とは

小型特殊自動車は、法で定められた右記の条件を満足していなければなりません。次のようなことは絶対にしないでください。

- ① 運搬車各部構造の改造
- ② 型式の異なるエンジンの搭載
- ③ 届出タイヤ以外のタイヤの装着
- ④ 各封印部分の開封

これらの改造変更は「不法改造」に該当し、違法行為となり一切の保証はいたしませんのでご注意ください。

車体の 大きさ	全長	4.7m以下
	全幅	1.7m以下
	全高	2.8m以下
最高速度		15km/時以下
原動機の総排気量		1500cc以下

■市町村役場への届出とナンバープレートの取付

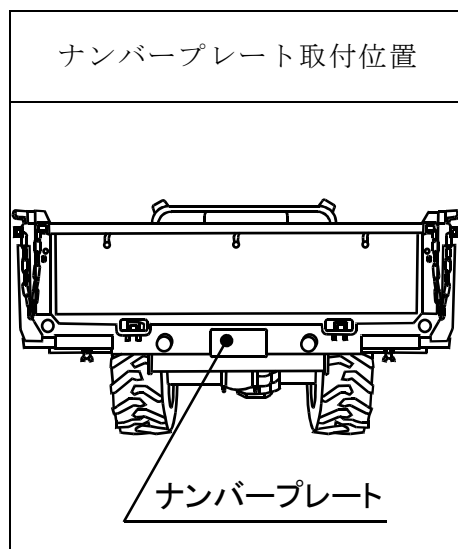
①この運搬車の所有者となられた方は、市町村条例の定めにより市町村役場に届出て、ナンバープレートの交付を受けなければなりません。（6ページ参照）

②届出には小型特殊自動車取得証明書

（「お買い上げいただいた販売店」で準備いたします）と軽自動車税および印鑑を添えて提出してください。

なお、届出の手続きは、市町村により多少異なることがありますので、詳細は「お買い上げいただいた販売店」にご相談ください。

③交付されたナンバープレートは、運搬車後部のナンバープレート取付場所に確実に取り付けてください。



小型特殊自動車としての取扱い

■小型特殊自動車登録申請の手引き

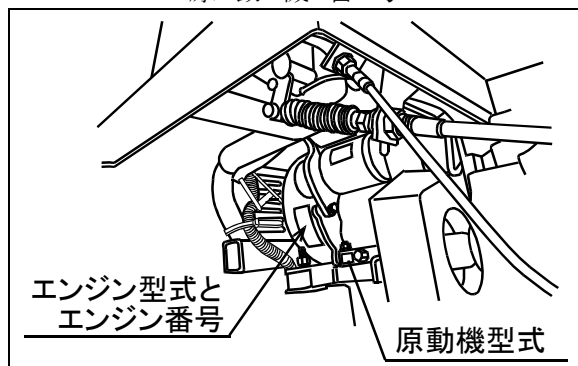
この車の所有者となった方は、市町村役場において小型特殊自動車の登録申請を行い、ナンバープレートの交付を受けてください。

(詳細な手続きは市町村役場窓口でお尋ねください。)

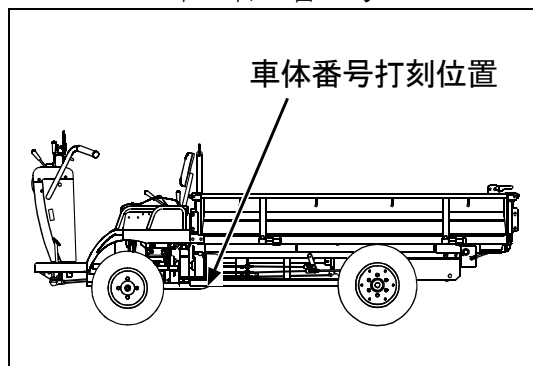
<市町村役場の登録申請書記載事項>

項 目 \ 機種型式	S L 5 6	S L 5 1
搭 載 エ ン ジ ン	カワサキ F J 1 8 0	
種 別 用 途	小型特殊自動車	
車 名	アテックス S L 4 2	
型 式	アテックス S L 4 2	
年 式	年式は購入された年を記入してください。	
原 動 機 番 号	エンジン番号を見て記入してください。	
原 動 機 総 排 気 量	1 7 9 c c	
車 台 番 号	車台番号はフレーム左側に打刻しています。	
型 式 認 定 番 号	特 2 2 0 3	
形 状	ホイール・キャリヤ	

原 動 機 番 号



車 台 番 号



■運転免許証の携帯

このホイール型運搬車を運転し、公道を走行する場合は、小型特殊自動車を運転できる運転免許（小型特殊免許、普通免許、自動二輪免許など）が必要です。公道を運転中は、必ず運転免許証を携帯してください。

■保険について

小型特殊自動車は、自動車損害賠償責任保険に必ず加入してください。また、万一の交通事故補償に備えて、任意保険に加入しておかれることをお勧めします。

■積載しての公道走行

この運搬車（ホイール・キャリヤ）は、農地等において、肥料、農産物等の運搬作業を行なうことを主目的とした自動車です。積載しての公道の走行は認められておらず、道路交通法に違反します。絶対に行なわないでください。

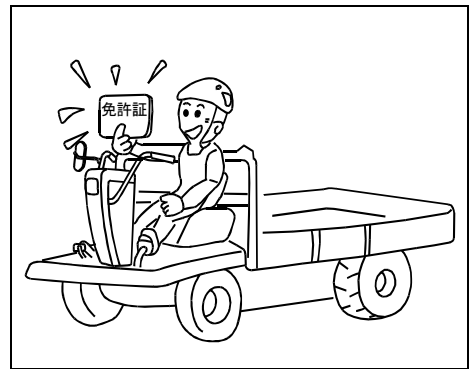
安全のポイント

安全な作業をするために

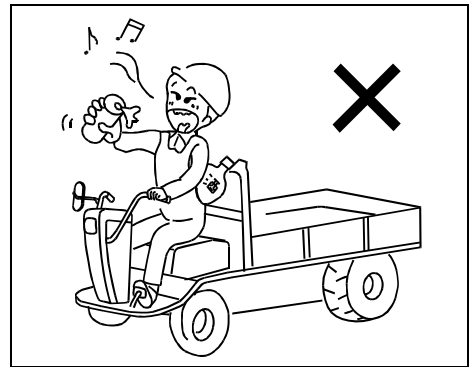
本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行なってください。

■運転者の条件

- (1) このホイール型運搬車を運転し、公道を走行する場合は、小型特殊自動車を運転できる運転免許が必要です。公道を運転中は、必ず運転免許証を携帯してください。

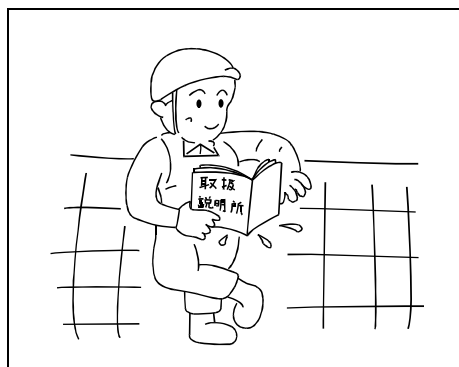


- (2) 飲酒時や過労ぎみの時、運転・作業をしてはいけません。このようなとき運転を行うと誤操作などで思わぬ事故を引き起こします。また、飲酒運転は道路交通法違反となります。
運転・作業をするときは、必ず心身とも健康な状態で行なってください。

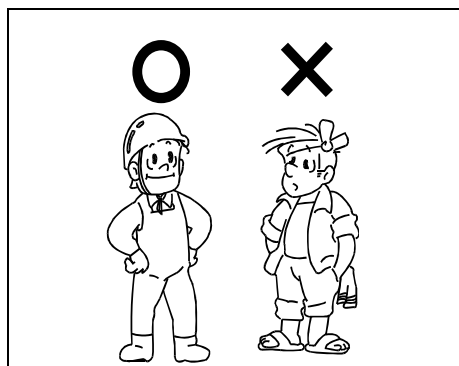


■作業前に

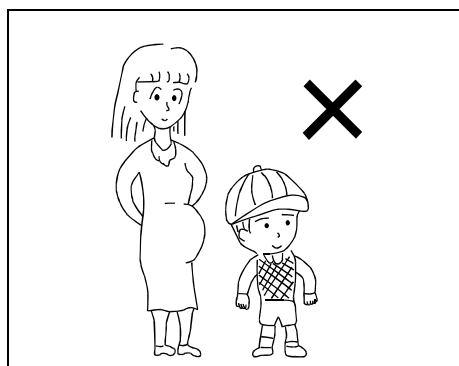
- (3) この「取扱説明書」をよく読むことから始めてください。これが安全作業の第一歩です。



- (4) 服装は、作業に適したものを着てください。服装が悪いと、衣服が操作レバーなどに引っ掛かったり、靴がスリップしたり大変危険です。

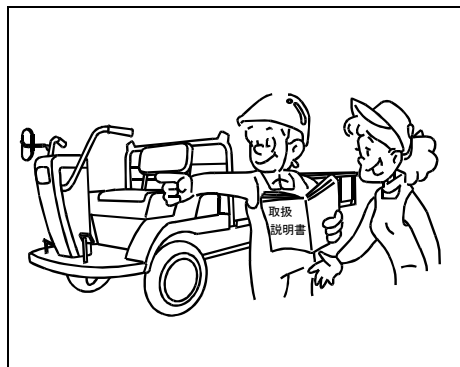


- (5) 妊娠している人、18歳未満の人、免許証を持っていない人は、運転をしないでください。



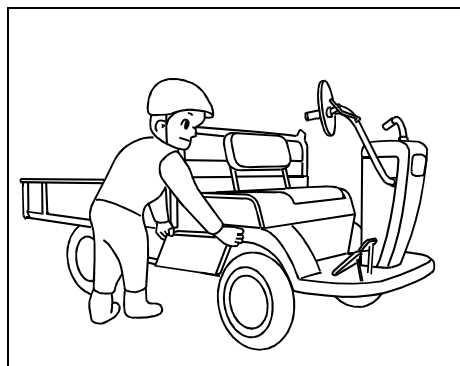
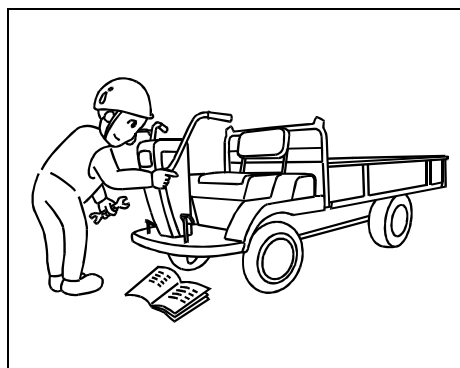
■人に機械を貸すときは

- (1) 機械を貸す時は、運転免許証の必要性、取扱いの方法をよく説明し、使用前に取扱説明書を熟読するよう指導してください。借りた人が、機械の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。

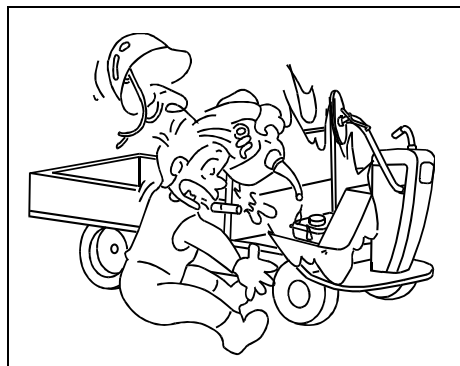


■運転を開始する前に

- (1) 無理、無駄のないゆとりのある運転計画をたてましょう。無理な運転計画は、あせりなどから思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- (2) 運転する前に、この取扱説明書を参考に必要な点検を必ず行なってください。点検を怠ると、ブレーキの利きが悪かったりクラッチが切れなかったりして、走行中や作業中の思わぬ事故につながります。
- (3) 安全カバー類が外されたままになっていないか確認しましょう。外されたままエンジンをかけたり、運転作業を行なうと危険な部分が露出して大変危険です。

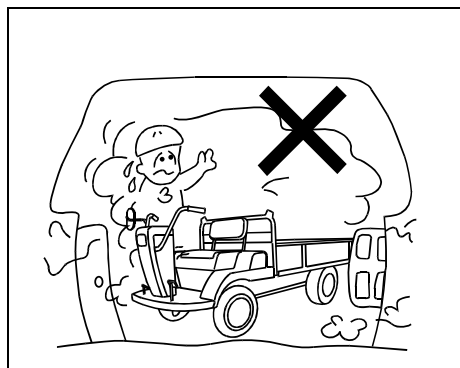


- (4) 燃料の補給や潤滑油の給油・交換をするときは、くわえタバコなどの火気は厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になります。



■エンジンの始動と発進

- (1) 室内でエンジンを始動するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行なってください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。

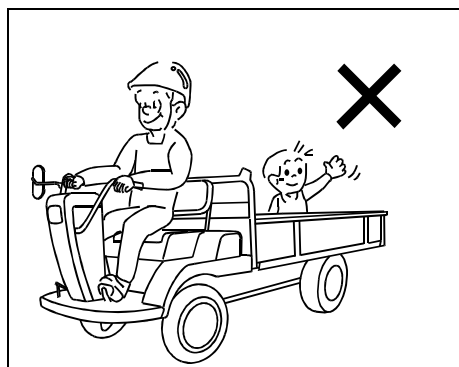


- (2) エンジンを始動するときは、走行クラッチレバーは「切」位置、ブレーキレバーは「駐車」位置にして行なってください。また、万一に備えて変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行なって下さい。



■走行するときは

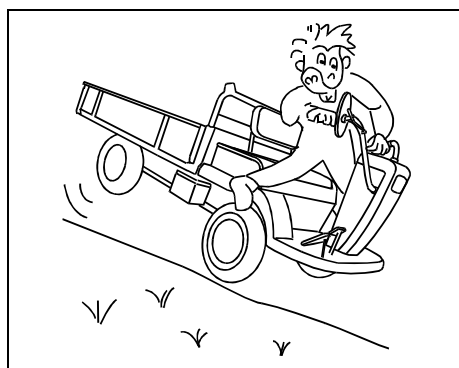
- (1) 本機は1人乗りです。いかなる場合も、荷台などに人や動物を乗せないでください。急旋回、重心の移動等により大変危険です。



- (2) 凹凸の激しい道路・軟弱地盤・側溝のある道や両側が傾斜している道などで走行するときは、路面状態、積載状態に応じた安全な速度で運転してください。これを怠ると衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。

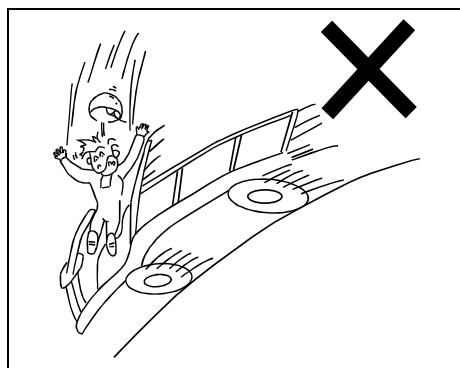


- (3) 傾斜地は、まっすぐに昇り降りしてください。斜面をよこぎると転倒する恐れがあり大変危険です。

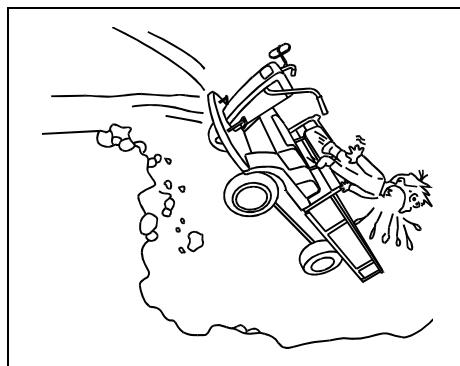


安全のポイント

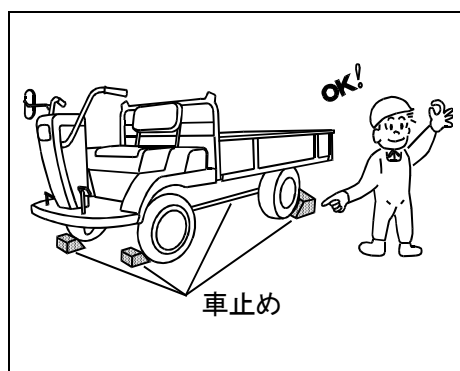
- (4) 坂道を下るときは、変速レバーを「1速」、走行クラッチレバーを「低速」にし、エンジンブレーキを効かせて走行してください。坂道の途中で走行クラッチレバーを切ったり、変速レバーを中立位置にしないでください。また、フットブレーキの多用は、ブレーキを傷めるとともに、スリップやブレーキの効きが悪くなる原因となり大変危険です。



- (5) 軟弱基盤では低速で走行し、急加速・急旋回および停車はしないで下さい。
- (6) 側溝のある農道や両側が傾斜している道を走行するときは、速度を落として十分注意して走行してください。路肩が崩れて転倒したりして大変危険です。



- (7) 本機から離れるときは、エンジンを停止し駐車ブレーキをかけ、変速レバーを「1速」に入れ、車止めをしてください。また駐車するところは、広い地面の硬い安全な場所を選んでください。機体が自然に動き出したりして大変危険です。

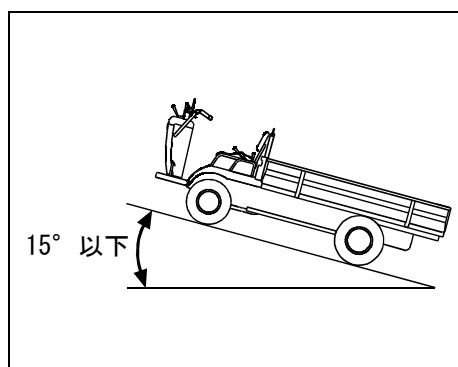


安全のポイント

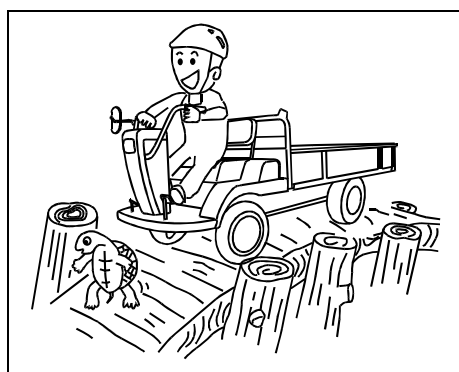
- (8) 本機を草やワラ等可燃物の上に止めて空吹きをししたり、エンジンを高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより、ワラなどに着火し火災の原因となる恐れがあります。



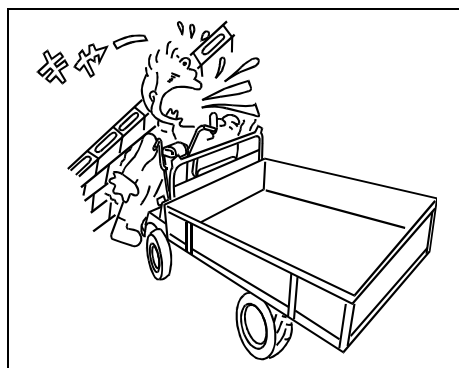
- (9) 15° 以下の傾斜地で使用してください。
また傾斜地での積載量は、300kg 以下にして走行してください。15° を越える急傾斜地では走行しないでください。



- (10) 木橋等重量規制のある所を走行する場合は、重量規制を守り、ゆっくりと静かに走行してください。

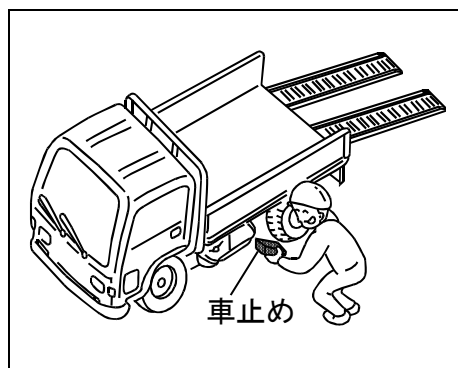


- (11) わき見運転や無理な姿勢で運転をしてはいけません。特に歩行運転時は、周囲の障害物にはさまれる恐れがあります。

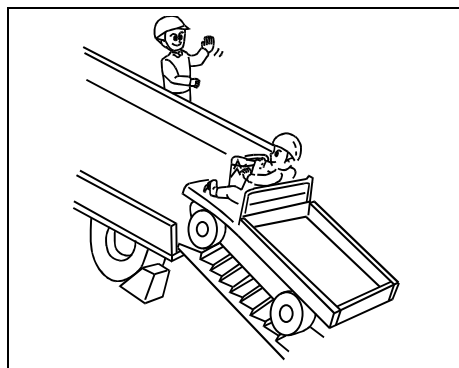


■トラックへの積み込み・積み降ろし

- (1) 積み込むトラックは、エンジンを止めて、変速を「1速」または「R速」位置にして、駐車ブレーキをかけ車止めをしてください。これを怠ると、積み込みや積み降ろしの時、トラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。

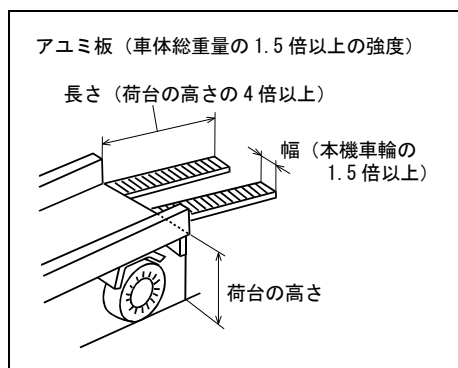


- (2) 誘導者を付けて、周囲の安全を十分確認して行なって下さい。また、機械の直前や直後には絶対に立たないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。

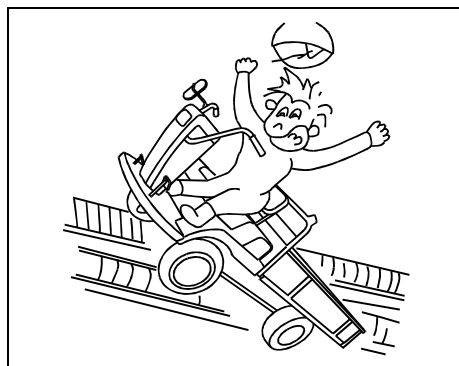


安全のポイント

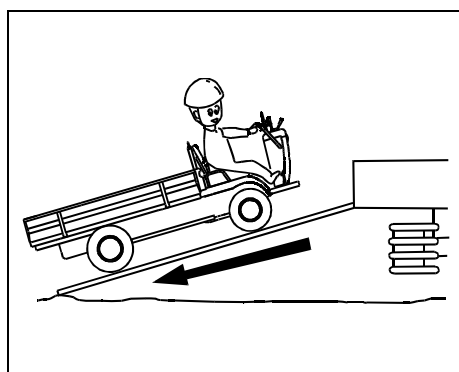
- (3) 積み込み・積み降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定めて、積み込みは、「前進」、積み降ろしは「後進」でゆっくりと行なってください。これを怠ると、転落事故の原因となり大変危険です。



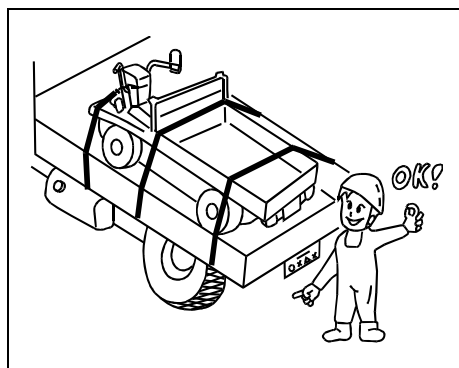
- (4) 積み込み・積み降ろし中は、フットクラッチペダルを踏み込んだり、走行クラッチレバーを「切」にしたり、フットブレーキペダルを踏み込んだりしてはいけません。ハンドル操作を誤ったりして、落転事故の原因となり大変危険です。



- (5) 万一、途中でエンストした場合は、すぐにフットブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にフットブレーキペダルを緩め、いったん道路まで降ろし、改めてエンジンを始動してから行なってください。

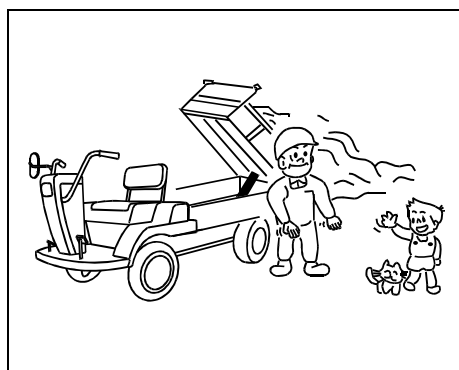


- (6) トラック等で運搬するときは、本機の駐車ブレーキをかけ車止めをして、必ずロープ等でトラックの荷台に固定してください。また、運搬中は不必要な急発進・急旋回・急ハンドルをしてはいけません。機体移動して大変危険です。



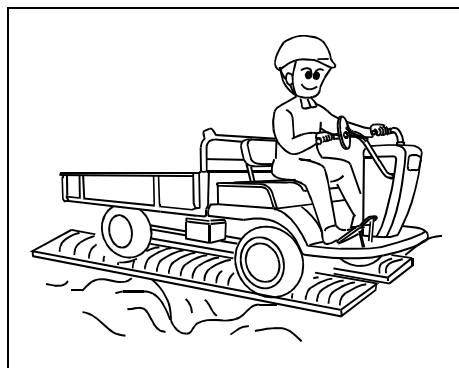
■作業中は

- (1) ダンプ作業など、作業を開始するときは、周囲の安全を確認し、特に補助者とともに作業をするときは、ホーン等で合図してから行なってください。怠ると、傷害事故の原因となり大変危険です。

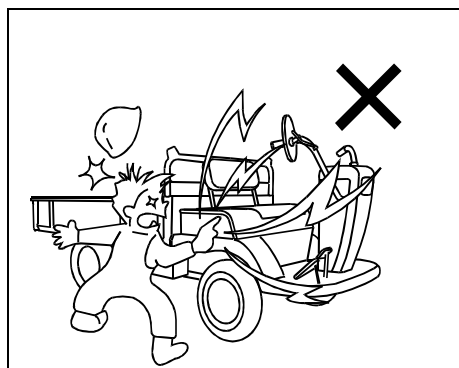


- (2) 畦の高さが高いところでの圃場の出入りでは、必ずアユミ板を使用してください。使用しなかった場合、衝撃で機械を破損させたり、傷害事故の原因となり大変危険です。

(アユミ板の角度は 15° 以下で使用してください。)

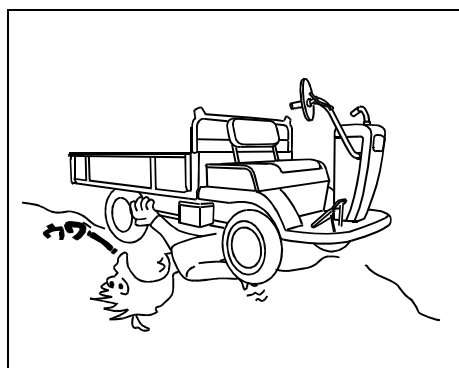


- (3) 回転部やエンジン・マフラー等の高温部・バッテリー端子等の通電部など危険な箇所には、手を触れないようにしてください。傷害事故の原因となり大変危険です。

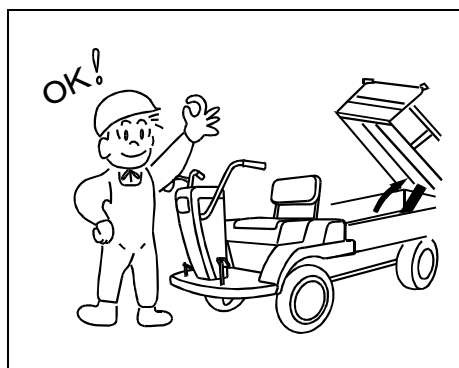


■点検整備

- (1) 点検整備するときは、明るく平坦な広い場所で行なってください。これを怠ると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

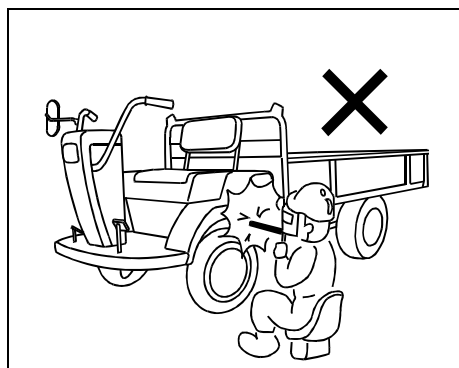


- (2) 必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて行なってください。荷台をダンプしての点検整備の際は、荷台降下防止策を施してください。怠ると、挟まれたりして大変危険です。

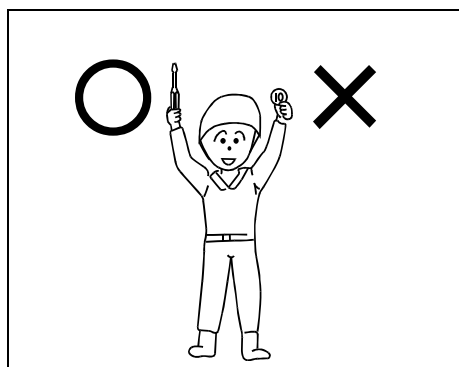


安全のポイント

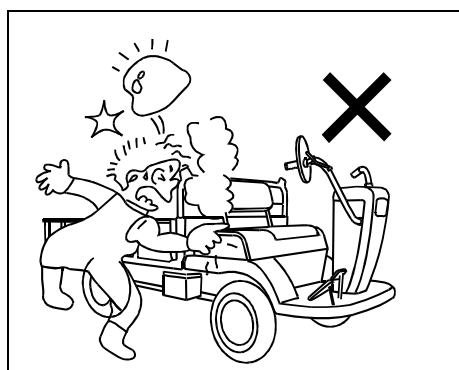
- (3) 機械の改造は絶対にしないでください。
機械の故障や事故の原因になり大変危険です。



- (4) 適正な工具を正しく使用して行なってください。間に合わせの工具で行なうと、整備中の傷害事故や、整備不良による思わぬ事故を引き起こし大変危険です。

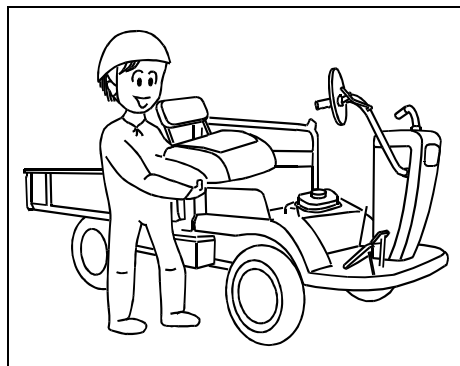


- (5) エンジンを切つてすぐに、点検整備をしてはいけません。エンジン等の高温部分が、完全に冷えてから行なってください。怠ると、火傷などの原因になります。



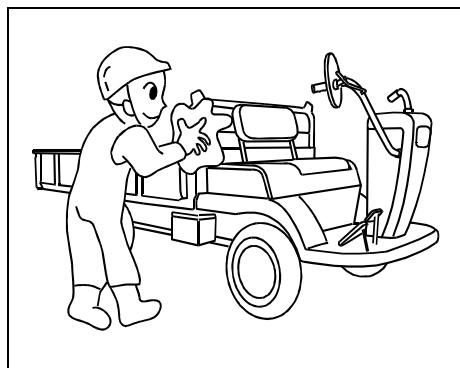
安全のポイント

- (6) 点検整備で取り外した安全カバー類は、必ず元の通りに取り付けてください。回転部や高温部がむき出しになり、傷害事故の原因となり大変危険です。

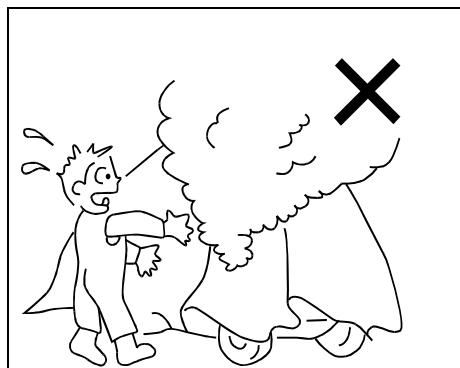


■保管・格納は

- (1) 動力を停止し、機体に付着したドロやゴミ等をきれいに取り除いてください。特にマフラーなどエンジン周辺のゴミは火災の原因となります。必ず取り除いてください。



- (2) 子供などが容易にさわれないようにカバーをするか、格納庫に入れて保管してください。カバー類をかける場合は、高温部が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにカバー類をかけると火災の原因となります。

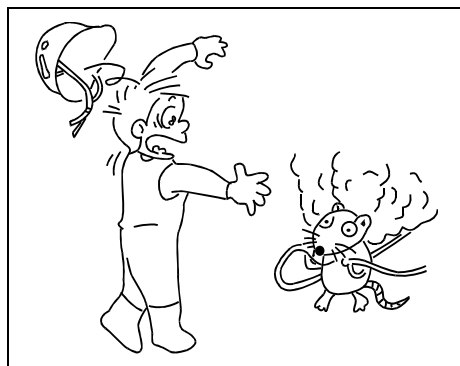


安全のポイント

- (3) 長期間格納するときは、燃料タンクや気化器内の燃料を抜き取りましょう。燃料が変質するばかりでなく、引火などで火災の原因となり大変危険です。

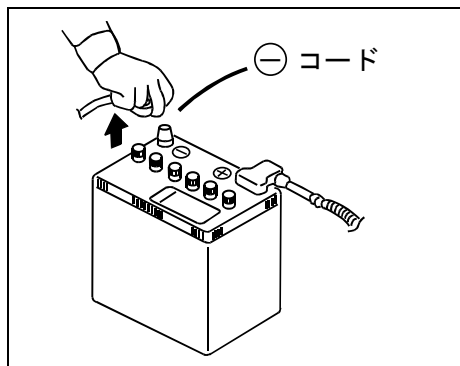


- (4) 長期間格納するときは、バッテリーケーブルを外しておいてください。外しておかないとネズミ等がかじってケーブルがショートし、発火して火災の原因となり大変危険です。



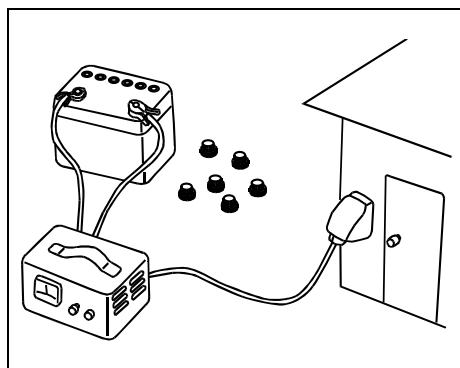
■電装品の取扱い

- (1) 電機配線の点検および配線接続部の点検は必ずエンジンを停止し、キースイッチを切りバッテリーの⊖コードを外して行なってください。これを怠ると火花が飛んだり感電したり思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

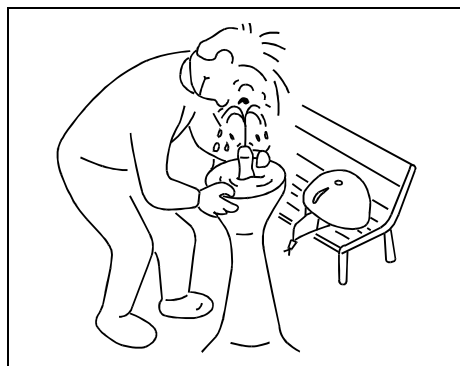


安全のポイント

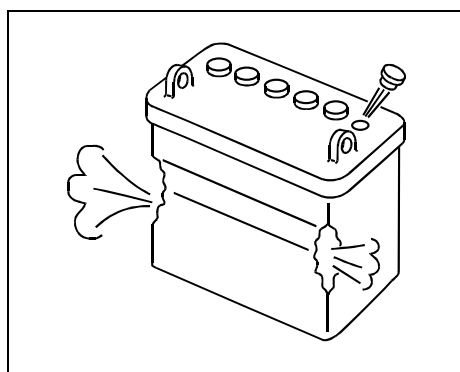
- (2) バッテリーを取り扱う時は、ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は風通しのよいところでバッテリーの補水キャップを外して行なってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。



- (3) バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。体や服につけないようにしてください。失明や火傷をすることがあり大変危険です。もしついたときは、多量の水で洗ってください。なお、目に入った時は水洗い後、医師の治療を受けてください。



- (4) バッテリー液が下限以下になったまま使用を続けたり充電を行なうと容器内の各部位の劣化の進行が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となる恐れがあり大変危険です。



■ブースターケーブル使用時の注意事項

ブースターケーブル使用時には、危険のないように取扱ってください。

- (1) バッテリーの補水キャップを取外してから接続してください。補水キャップが取外してあれば、万一引火しても爆発力は低下しますので、被害は少なくなります。
- (2) ブースターケーブル接続前には、エンジンを停止してください。これを怠ると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。
- (3) ブースターケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。通電容量が小さすぎると、ブースターケーブルが熱をもったり、焼損したりして危険です。

保証とサービス

■新車の保証

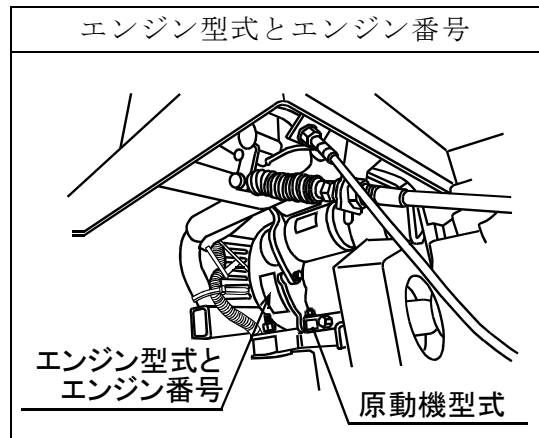
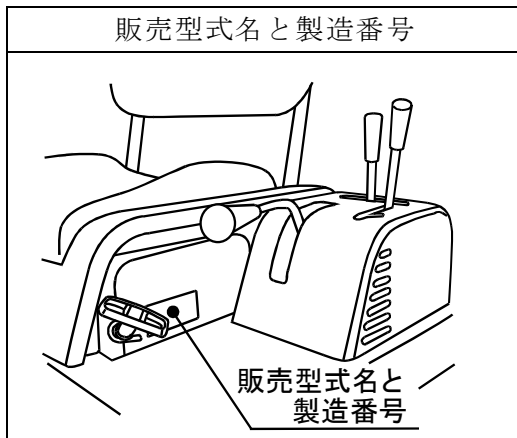
この製品には、(株)アテックス保証書が添付されています。詳しくは、保証書をご覧ください。

■サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点、及びサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または指定サービス工場へお気軽にご相談ください。

その際、

- (1) 販売型式名と製造番号
- (2) エンジン型式とエンジン番号を併せてご連絡ください。



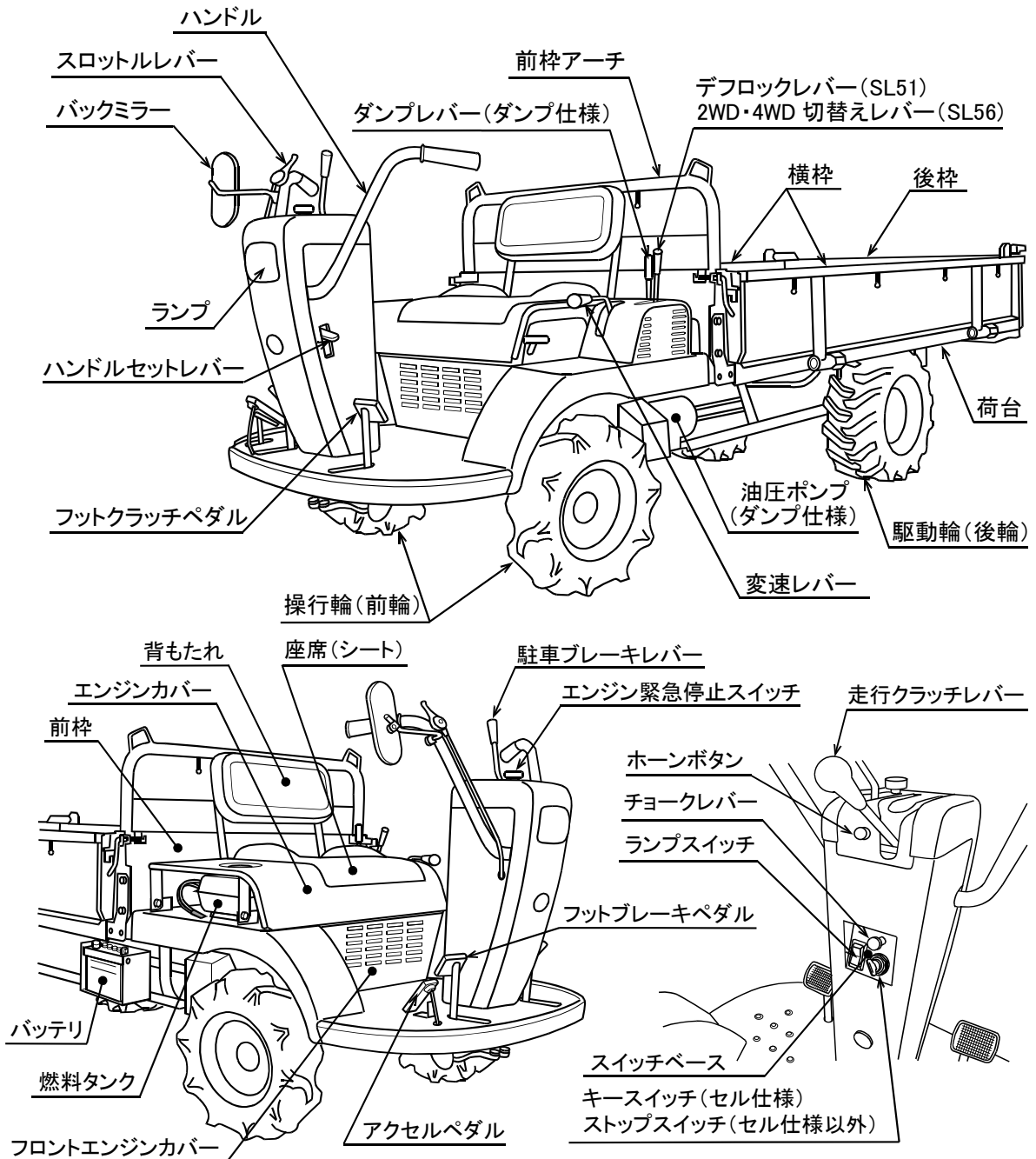
■補修用部品供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後7年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

各部の名称とはたらき

各部の名称

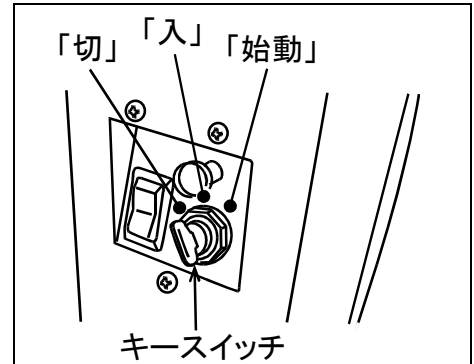


※イラスト：SL56DEA

スイッチの名称とはたらき

■キースイッチ（セル仕様）

「切」……………エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置。
「入」……………エンジン回転中の位置。
「始動」……………エンジン始動する位置。
手を離せば自動的に「入」位置に戻ります。

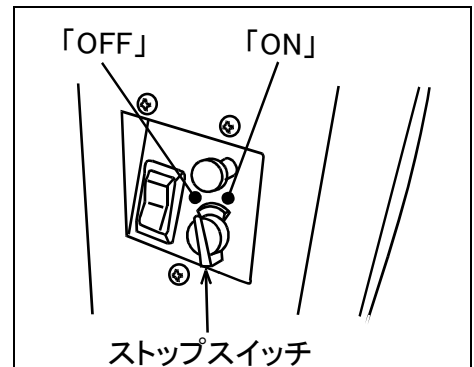


重要

●キーは確実に奥まで差込んでから回してください。奥まで差込んでいない状態で回すと、キーが折れたりキースイッチが破損したり、不具合につながります。

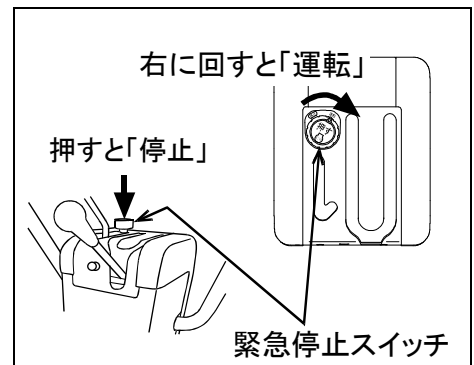
■ストップスイッチ（セル仕様以外）

エンジン始動時は「ON」位置にします。
「OFF」位置にすればエンジンが停止します。



■エンジン緊急停止スイッチ

スイッチを右に回すと「運転」に入ります。
「運転」の状態でスイッチを押すと
「停止」になり、エンジンが停止します。



重要

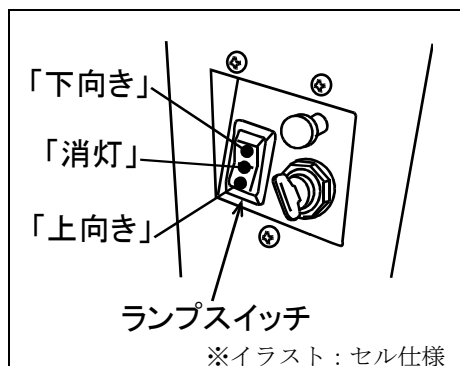
- エンジン始動時は、エンジン緊急停止スイッチが「運転」位置にある事を確認してください。「停止」位置にあると、セルモータは回りますが、エンジンは始動しません。
- 運転中等の緊急時は、エンジン緊急停止スイッチを押せばエンジンは停止し、作業装置なども停止しますが、そのままの状態では機体にブレーキがかかっていませんので、すみやかに駐車ブレーキレバーを操作し、駐車ブレーキをかけてください。

■ランプスイッチ

- OFF ……ヘッドランプ消灯位置
-  ……ヘッドランプ下向き照射位置
-  ……ヘッドランプ上向き照射位置

重要

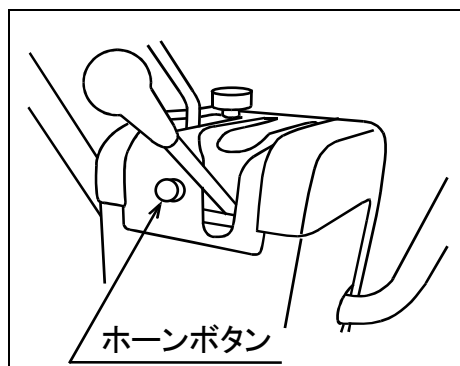
- セル仕様は、ランプ点灯時でも、キースイッチを「切」位置にすると、ランプが消えます。エンスト等によりエンジンが停止し、キースイッチが「入」位置の場合には、ランプは消灯しませんので、消し忘れのないように注意してください。
- セル仕様以外では、ストップスイッチの「ON」「OFF」に関係なく、ヘッドランプを点灯させることができます。エンジンを停止した状態で、長時間ヘッドランプを点灯すると、バッテリーあがりの原因となります。



■ホーンボタン

セル仕様……キースイッチを「入」にして、ホーンボタンを押すと警音になります。

セル仕様以外…ストップスイッチの「ON」・「OFF」に関係なく、ホーンボタンを押すと警音になります。



操作レバー及びペダルの名称とはたらき

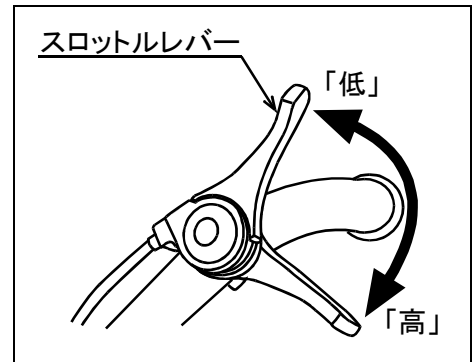
■スロットルレバーとアクセルペダル

●スロットルレバー

スロットルレバーはアクセルペダルと連動しており、エンジンの回転数を制御するレバーです。主にダンプ作業時に使用します。

低……エンジン回転数がアイドリング回転数まで戻ります。

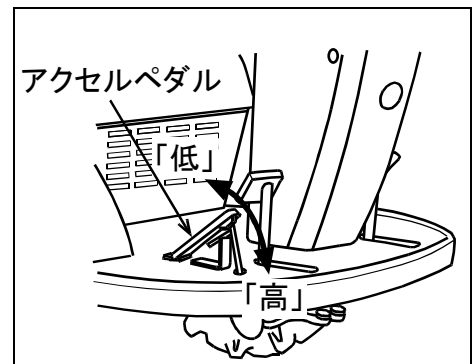
高……エンジン回転数が最高回転数まで上がります。



●アクセルペダル

主に道路走行時に使用します。

- ・ペダルを踏み込むとエンジン回転数が上がります。
- ・ペダルから足を離すとエンジン回転数がアイドリング回転数まで戻ります。



警告

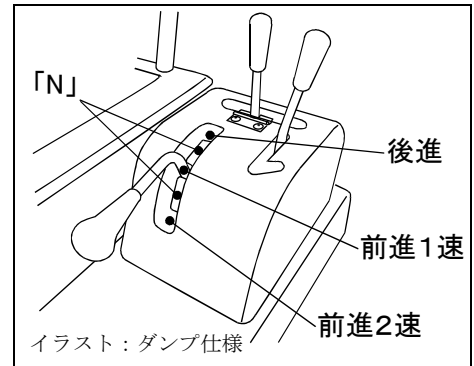
●スロットルレバーを高速にしたままだと、アクセルペダルは高速のまま動きません。道路走行時は必ずスロットルレバーを低速にしてください。

■変速レバー

・変速レバーの位置

1	前進 1 速
2	前進 2 速
R	後進 1 速

前進 2 段・後進 1 段の変速ができます。



重要

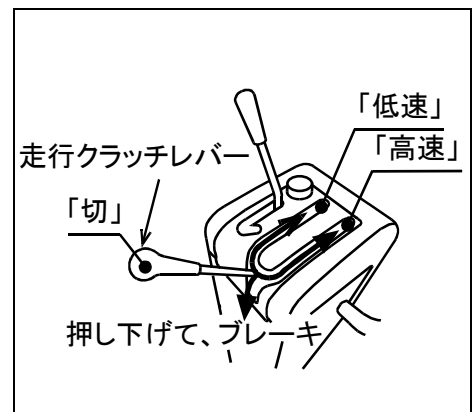
- 変速レバーの切替は、必ず車両が停止した状態で行ってください。
- 変速レバーの無理な操作は、トランスミッション内部破損の原因となります。絶対にしないでください。
- 変速レバーがスムーズに入らない場合は、走行クラッチレバーが「入」の状態です。フットクラッチペダルをちょっとだけつなぎ、すぐに踏み込んで再度変速レバーを操作してください。

■走行クラッチレバー

走行クラッチレバーを「低速」または、「高速」位置に入れると、エンジンの回転がVベルトにより、トランスミッションに伝達されます。

変速レバーとの組み合わせにより、前進 4 段・後進 2 段の変速ができます。路面状態・積載量等の条件にあった変速位置を選んで走行してください。（走行中でも「低速」⇔「高速」の切り替え操作ができます。）

走行クラッチレバーは、ブレーキと連動しており、「切」位置より下方向へレバーを押し下げることによって制動操作ができます。



変速レバー	走行クラッチレバー	最高速度 〔km/h〕
1 速	低	2 . 9
	高	4 . 7
2 速	低	8 . 1
	高	1 3 . 0
R 速	低	2 . 4
	高	3 . 9

重要

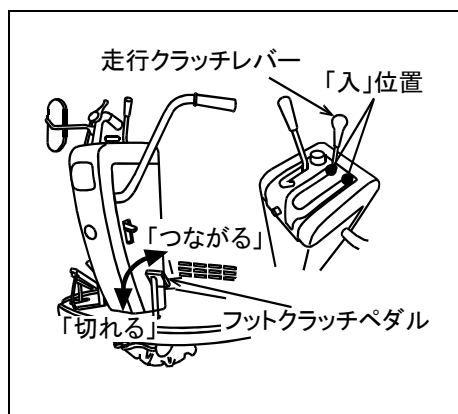
- 走行クラッチレバーを入れ、フットクラッチペダルを踏み込んでからチェンジ操作を行ない、フットクラッチペダルをゆっくりと戻すとスムーズに発進できます。
- 変速レバー「2速」位置で、高速側へ走行クラッチレバーを入れ発進するとエンストを起こす場合があります。エンストをする時は、まず低速側で発進をし、増速した後、高速側へ切換えてください。
- 走行クラッチレバーが入っていると、エンジンは始動しません。エンジンを始動する時は、必ず走行クラッチレバーを「切」位置にしてください。

■フットクラッチペダル

- ・ 走行クラッチレバーを「入」位置にした状態でフットクラッチペダルを踏み込むとクラッチが切れます。
- ・ フットクラッチペダルから足を離すとクラッチがつながります。

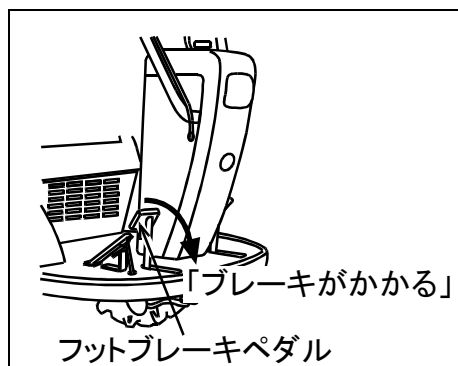
重要

- クラッチペダルは、切るときは早く、つなぐときはゆっくりと操作してください。



■フットブレーキペダル

フットブレーキペダルを踏むと、後輪にブレーキがかかります。



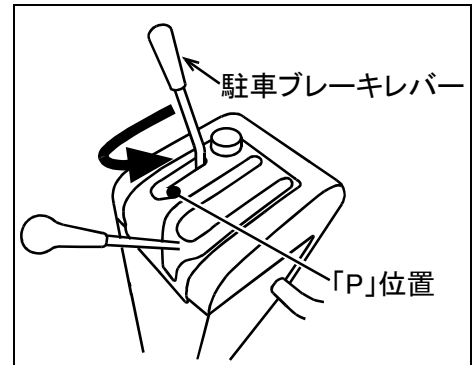


警告

- 坂道走行時など常時フットブレーキペダルを踏んでいると、ブレーキの磨耗が早く、ブレーキの効きが悪くなり、衝突・転倒事故を引き起こす恐れがあります。ブレーキは良く効くよう、必ず定期的に点検してください。

■駐車ブレーキレバー

駐車ブレーキレバーを「P」位置に入
ると、駐車ブレーキがかかります。

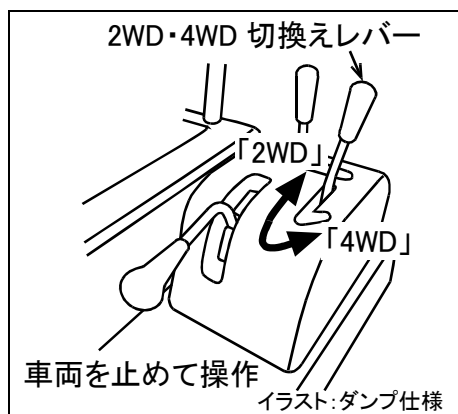


警告

- 駐車時、停車時には必ず駐車ブレーキを確実にかけ、車止めをしてください。これを怠ると車両が自然に動きだしたりして大変危険です。
- 駐車ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキを痛めます。
- 乗車時に制動、停車する場合は、必ずフットブレーキペダルを使用し、駐車ブレーキレバー、走行クラッチレバーは使用しないでください。これを怠ると衝突事故や転倒、転落事故などの重大な事故を引き起こす恐れがあります。

■ 2WD・4WD 切換えレバー（S L 5 6 の全仕様）

レバー操作により、後輪駆動（2WD）と4輪駆動（4WD）の切換えができます。



重要

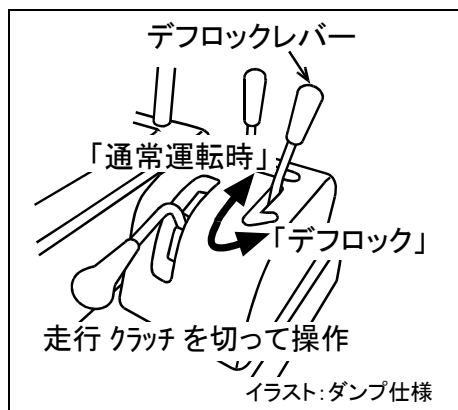
- 2WD⇔4WDの切換えは、車両が停止した状態で行ってください。走行中に切換えると、2WD・4WDの切換え部が破損する恐れがあります。
- 乾燥した路面の走行は必ず2WDで走行してください。乾燥した路面の4WDでの走行は、タイヤの早期磨耗につながったり、伝動系のトラブル発生や燃料消費量が多くなることがあります。
- 軟弱不整地や後輪がスリップする様な場合に4WDを使用してください。
- 急な下り坂では4WDを併用してください。前輪にも制動力が伝わり、タイヤのスリップを最小限にすることができます。
- 切換レバーを「2WD」位置にしても、すぐに切換わない場合があります。そのような時は車体を2～3m前後進させると「2WD」に切換わります。

■ デフロックスレバー（S L 5 1 の全仕様）

軟弱不整地や後輪の片方がスリップして走行できない場合に使用します。

重要

- デフロックスレバーを操作する時は、必ず走行クラッチを切ってから操作してください。
- 通常走行時には、デフロックスは使用しないでください。（レバーを「切」位置にしておいてください。）



■ダンプレバー（各型式のダンプレ仕様）

レバーロックを解除し、ダンプレバーを操作すると、荷台がダンプレします。

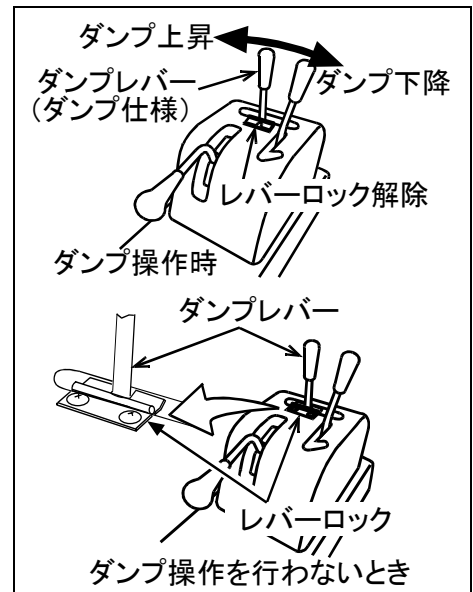
●操作方法

車両前進方向に向かって

荷台下降……ダンプレバーを左に倒す
（手前に引く）

荷台上昇……ダンプレバーを右に倒す
（車両座席側へ押す）

中立（ダンプレ操作行わないとき）…中央



警告

- 荷台が下降し、はさまれる恐れがあります。手や足を荷台下に入れないでください。
- 点検・整備などを行うときは、必ず荷台降下防止策を施してください。
- ダンプレバー操作を行わないときは、必ずレバーロックをかけてください。
- 走行中のダンプレ操作は、油圧装置の破損につながるばかりでなく、ハンドル操作の誤りを引き起こし大変危険です。絶対にしないでください。
- 荷台と、座席背もたれの間に腕をはさまれる恐れがあります。ダンプレ操作は必ず車両から降りて行なってください。

⚠注意 ●ダンプレバー操作は、上昇・下降いずれの場合も、必ずエンジンをかけた状態で行なってください。ダンプレバー状態からエンジンをかけないで荷台を降下させると、シリンダ内部が真空となり、正常な動きが損なわれます。また、油圧ポンプのエア抜き穴よりオイルが噴き出す恐れがあります。

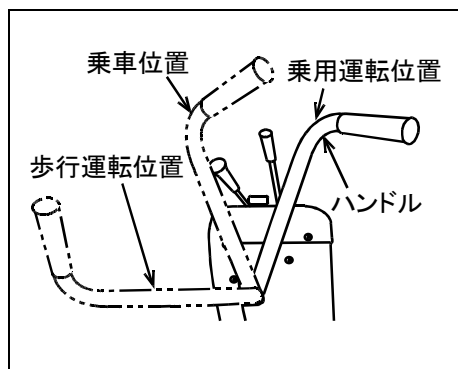
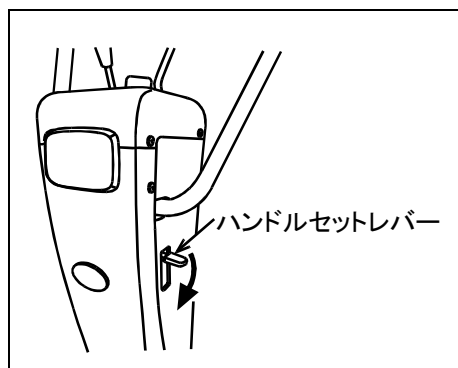
- 重要** ●ダンプレバー下降状態からダンプレバーでダンプレバー上昇操作しても、油圧ポンプのリリーフ弁が作動（ピーという音がでる）して、ダンプレバー上昇しない場合は、荷物の積み過ぎですので、荷物を減らしてください。
- また、20秒以上連続でリリーフ弁を作動させないでください。リリーフ弁が作動したら速やかにレバーを中立位置に戻してください。油圧ポンプの破損につながります。
- 周囲の安全を確認し、駐車レバーをかけダンプレバー操作を行なってください。
 - 足場の悪い所や、傾斜地でのダンプレバー操作はしないでください。

■ハンドルセットレバー

ハンドルは、次の3つの位置に切り替えができます。

- ①乗用運転位置・・・車両に乗車し運転するときに使用します。
- ②乗車位置・・・・・・車両に乗り降りするときに使用します。
- ③歩行運転位置・・・車両から降り、車両前方で作業するときに使用します。

- ハンドルセットレバーを操作して、ハンドル位置を切り替えてください。





注意

- 公道では、ハンドルを倒して運行しないでください。道路交通法に違反します。

重要

- ハンドル切換え後は、ハンドルを上下に動かしてみて、確実にロックされているかを確認してください。
- ハンドルが歩行運転位置のときは、走行クラッチレバー「低速」位置でのみ使用できます。安全のため高速側へのレバー操作はできません。また、「高速」位置にレバー「入」のときにハンドルを歩行運転位置へ操作すると、「切」位置までレバーは戻ります。高速側への無理なレバー操作はしないでください。故障の原因となり危険です。
- 下記表の通り、ハンドルが歩行運転位置かつ変速レバー2速位置では安全装置が働いてエンジンはかかりません。または、エンジンは停止します。

セル付（各型式のセル仕様）

- ・セルモータは回りますが、エンジンはかかりません。異常ではありませんので、セルモータを回し過ぎないでください。セルモータ焼き付き等トラブルの原因となります。

リコイル（各型式のリコイル仕様）

- ・エンジンはかかりません。リコイルスタータを引き過ぎないでください。リコイルロープの切断等トラブルの原因となります。

変速レバー位置 ハンドル位置	1 速	2 速	R 速（バック）
乗用、乗用運転位置	○	○	○
歩行運転位置	○	×	○

○…エンジンはかかります。

×…エンジンはかかりません。

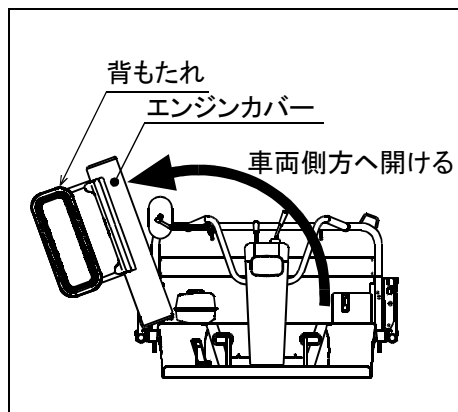
その他部品の名称とはたらき

■エンジンカバーとフロントエンジンカバー

●エンジンカバー

エンジンカバーを開けると掃除や点検・整備が容易に行なえます。

背もたれの下部を持ち、ゆっくりと車両側方へエンジンカバーを開いてください。



重要

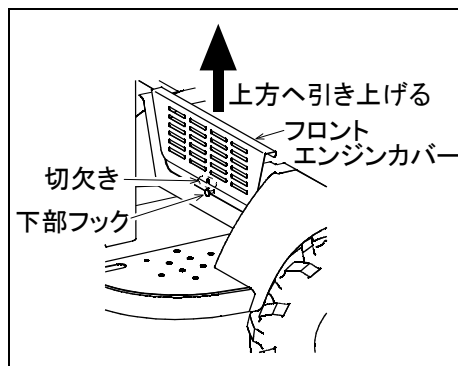
●エンジンカバーを開け、点検・整備等を行なうときは安全を確認して行なってください。

- ①車両を平坦な広い場所に置く。
- ②駐車ブレーキをかける
- ③エンジンカバーが完全に開ききっている状態にする。

●フロントエンジンカバー

フロントエンジンカバーを取り外すと、フィルタポット内の清掃等、エンジンまわりのメンテナンスが容易に行なえます。

- (1) エンジンカバーを開けます。
(エンジンカバーの項を参照)
- (2) フロントエンジンカバーを上方へ引き上げて取り外します。
- (3) メンテナンス後の取り付けは、取り外しの逆の手順にて行なってください。

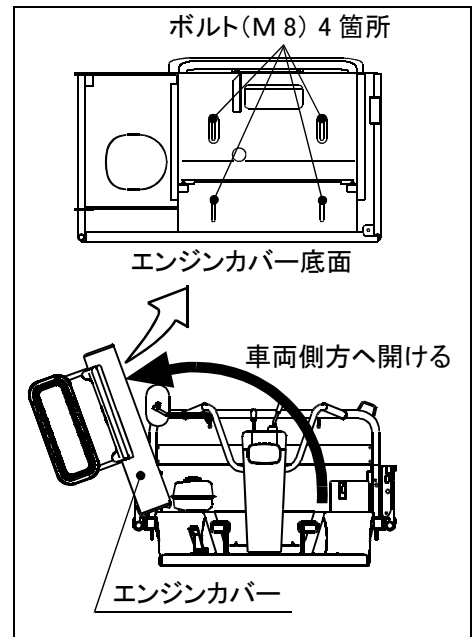


※ フロントエンジンカバーはハメコミ式です。取り付けの際はフロントエンジンカバーの切欠きを下部フックに確実に差し込み、しっかりと押し込んでください。

■座席（シート）

座席の前後位置は標準位置（出荷時は一番後ろにセットされています。）から前方に50mmの範囲で調整可能です。運転される方の体格や好みに応じて座席位置を調整してください。

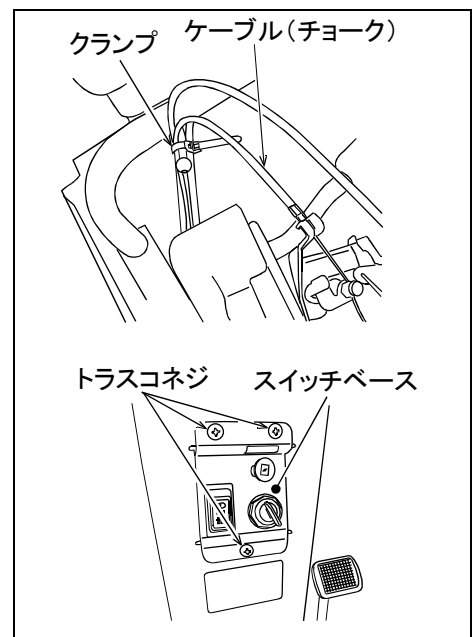
- (1) エンジンカバーを開けます。
（エンジンカバーの項参照）
- (2) エンジンカバー裏面の座席を固定しているボルト（M8）4箇所を緩めます。
- (3) 任意の位置に座席をセットし、(2)で緩めたボルトを、確実に締め込み、固定してください。
- (4) エンジンカバーを閉じてください。



■スイッチベース

スイッチベースをハンドルフレームから取り外すと、ハンドルフレーム内の、ケーブル交換などメンテナンスが容易に行なえます。

- (1) エンジンカバーを開けて、ケーブル（チョーク）のクランプを外します。
- (2) トラスコネジ（3箇所）を外し、スイッチベースを取り外します。
- (3) メンテナンスを行なった後は、元の通り組み付けてください。



運転前の準備

運転前の点検について



警告

●必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、荷台をダンプさせたときは、荷台降下防止策を施してから行なってください。急ると、手や衣服が巻き込まれたり、挟まれたりして大変危険です。

■始業点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
始業点検は毎日欠かさず行なってください。

点検は次の順序で実施してください。

(1) 前日、異常のあった箇所

(2) 車体を確認して

- エンジンオイルの量、及び汚れ……………57・58ページ
- 燃料フィルタの水、沈殿物の点検……………57ページ
- フロントデフオイル漏れの有無（SL56の全仕様）……………59ページ
- 油圧ポンプのオイル量、および汚れ（ダンプ仕様）……………60・61ページ
- 油圧駆動ベルトの張り具合、損傷（ダンプ仕様）……………73ページ
- 走行ベルトの張り具合、損傷……………69・70ページ
- バッテリー液の量……………64・65ページ
- タイヤの空気圧、及び摩耗・損傷……………84ページ
- エアクリーナの清掃……………エンジン取扱説明書
- 燃料は十分か、燃料キャップの締め付け
- タイヤなどの足回りのボルトやナットの緩み
- 車体各部の損傷、及びボルトやナットの緩み
- ナンバープレートの汚れ、損傷

(3) 運転席に座って

- フットブレーキペダル、フットクラッチペダルの遊びと作動……………7 2～7 5 ページ
- 駐車ブレーキの作動……………3 1・7 7 ページ
- 変速レバーの作動……………6 8・6 9 ページ
- バックミラーの汚れ、損傷

(4) エンジンを始動して

- スロットルレバー、アクセルペダルの作動……………6 6～6 8 ページ
- ランプの点灯……………2 7 ページ
- 排気ガスの色、異常音……………エンジン取扱説明書
- ホーンの作動……………2 7 ページ

(4) 徐行しながら

- ブレーキの効き……………4 9・5 0 ページ
- ハンドルの操作荷重、振れ、取られ、遊び

運転のしかた

運転操作の要領

■ 燃料の給油

⚠ 危険

- 燃料を給油するときは、くわえタバコなどの火気は厳禁です。引火・爆発・火災の原因となります。
- 給油時は、車両を水平な場所に駐車させ、必ずエンジンを停止した状態で行なってください。
- 給油はエンジンとマフラーが冷えてから行なってください。
- 燃料を入れ過ぎないようにしてください。入れ過ぎると、燃料が漏れ出し、火災の原因となります。
- 燃料がこぼれた際には、速やかにふき取ってください。

重要

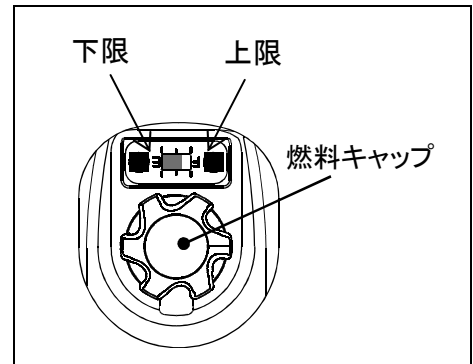
- 劣化した燃料やゴミなどの不純物が混入した燃料を使用しないでください。エンジン不調の原因となります。

(1) ガソリンを給油してください。

重要

- 燃料は、燃料ゲージの「上限」以上入れないでください。燃料が「下限」に近づいたら、早めに給油するようにしてください。

(2) 給油後は、燃料キャップを確実に締めてください。



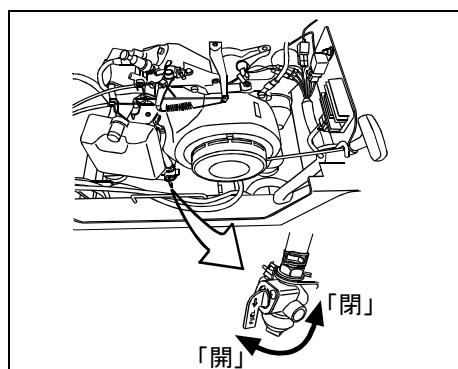


警告

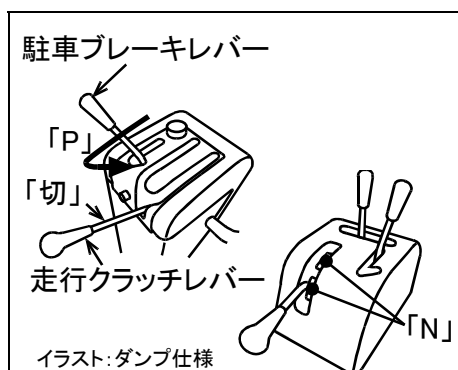
- 室内でエンジンを始動する時は、窓や戸を開けて、換気を十分に行なってください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。
- エンジンを始動するときは、必ず、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行なってください。これを怠ると、急発進したりして大変危険です。

■エンジンの始動

- (1) 燃料の量を確認し、燃料コックを開けます。

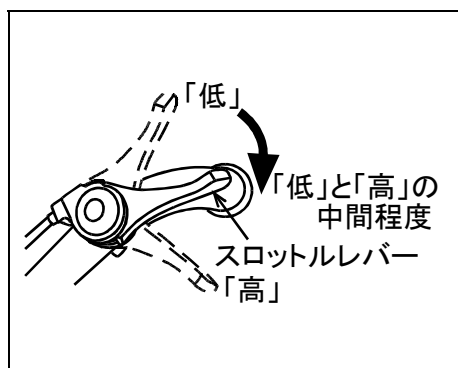


- (2) 駐車ブレーキがかかっている事と、走行クラッチレバーが「切」位置になっていることを確認します。



- (3) 変速レバーを中立「N」位置にします。
- (4) エンジン緊急停止スイッチが「運転」位置になっていることを確認します。

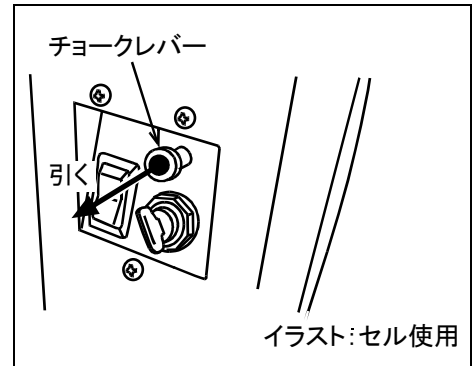
- (5) スロットルレバーを「低」と「高」の中間位置まで上げます。



- (6) 低温時やエンジンが冷えている場合は、チョークレバーを引いてください。

重要

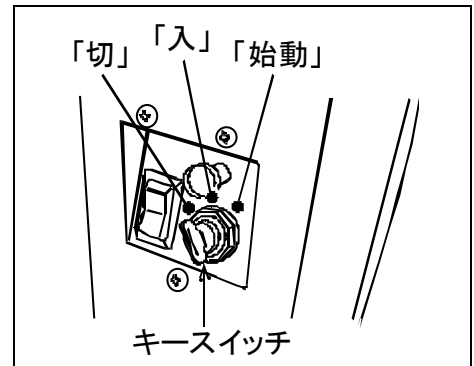
- エンジン始動後は、チョークレバー及びスロットルレバーを必ず元の位置に戻してください。スロットルレバー操作時にはアクセルペダルでエンジン回転数を下げることができません。



- (7) エンジンを始動させます。

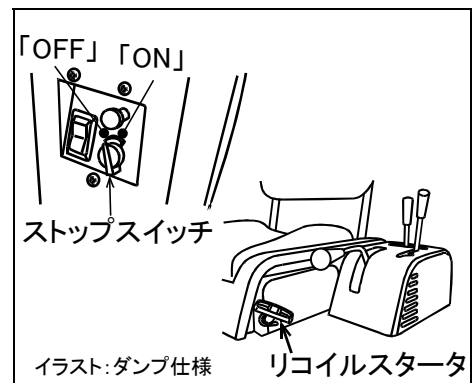
セル付 (各型式のセル仕様)

- キースイッチにキーを差し込み、キーを「始動」位置に回転し、エンジンが始動したら、ただちにキーから手を放します。
セルモータが回らない場合はキーを「入」位置に回し、リコイルスタータで始動させることができます。



リコイル (各型式のセル仕様以外)

- ストップスイッチを「ON」位置にします。
- リコイルスタータを一気に引きます。この時、リコイルスタータは引ききらないようにしてください。また、ゆっくりと元に戻してください。



- (8) チョークレバーを引いて始動した時は、
エンジンがかかったら徐々に戻します。

注意

- 暖機運転中は、必ず駐車ブレーキをかけておいてください。
これを怠ると、機体が自然に動き出し大変危険です。

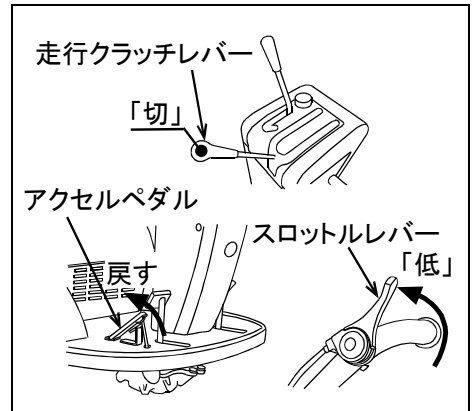
重要

- エンジンの暖機運転をしないで走行・作業をすると、エンジンの寿命が短くなります。3～5分程度の暖機運転をしてください。
 - セルモータを10秒間回しても始動しないときは、30秒程休ませてから再操作してください。連続使用するとセルモータ破損の原因となります。
 - エンジン運転中に、キーを「始動」位置にすると、セルモータが破損します。絶対にキーを回さないでください。
 - 本機は安全の為、始動安全装置を備えています。次の条件ではエンジンが始動しない構成となっています。
 - (1) 走行クラッチレバーが「入」位置に入っている場合。
 - (2) ハンドルが歩行運転位置であり、かつ変速レバーが2速位置となっている場合。
- ※セル付（各型式のセル仕様）では、キーを回すとセルモータは回りますが、エンジン始動はしません。故障ではありませんのでセルモータを回し過ぎないように注意してください。

■エンジンの停止

警告 ●接触すると火傷することがあります。エンジン停止後、冷えるまでは触らないでください。

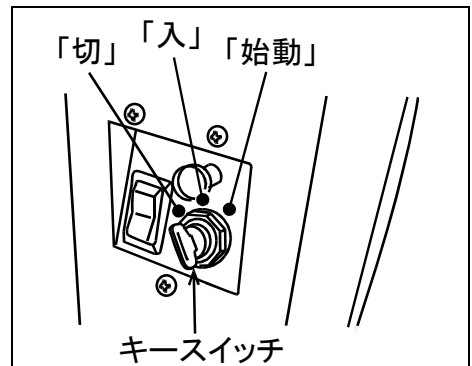
- (1) 走行クラッチレバーを「切」位置にし、アクセルペダルを戻し、スロットルレバーを「低」の位置に戻してください。



- (2) エンジンを停止します。

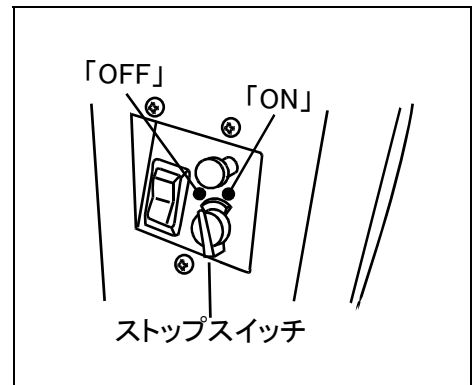
セル付 (各型式のセル仕様)

- キースイッチを「切」位置に回し、エンジンを停止します。
エンジン停止後は必ずキーを抜いてください。

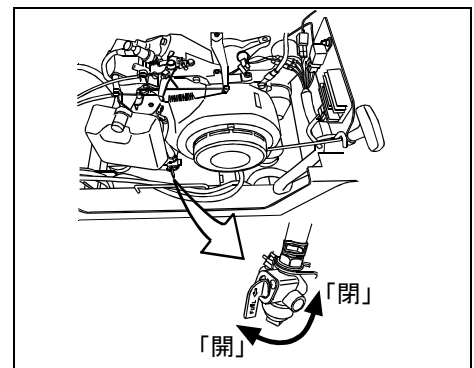


リコイル（各型式のセル仕様以外）

- ストップスイッチを「OFF」位置にしてエンジンを停止します。



- (3) 燃料コックを閉じてください。



重要

- 万一、故障し、エンジンが停止しない場合は、燃料コックを閉じて燃料がなくなるまで放置してください。
- エンジンを高回転のまま停止しないでください。
- 運転後は、アイドリング回転で1～2分程度無負荷運転を行ってからエンジンを停止してください。特に長時間運転後は、アイドリング回転で3～5分程度、無負荷運転を行ってからエンジンを停止してください。

■発進・走行・変速のしかた



危険 ●転落・転倒の恐れがあります。路肩付近や軟弱地では十分注意して使用してください。

●障害物にはさまれる恐れがあります。特に歩行操作時は、進行方向の安全を常に確認してください。



警告 ●道路を走行するときは、必ずアクセルペダルを使用してください。スロットルレバーで高速のまま走行すると、急に減速できず危険です。

●フットクラッチペダルは、ゆっくり離してください。急に離すと急発進して危険です。

●運転中または、エンジン回転中に回転部（ベルト・プーリ等）に触れるとケガをします。触れないでください。

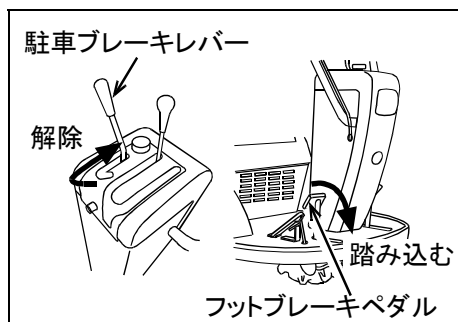
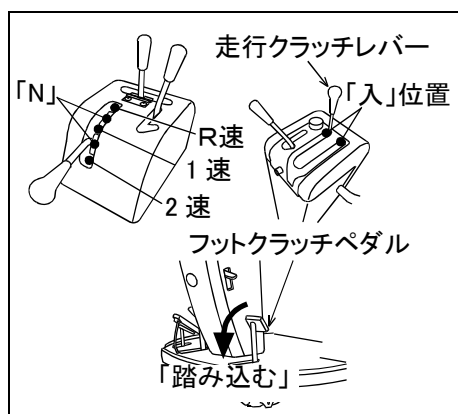
●発進・走行のしかた

- (1) 変速レバーを「N」位置にします。
- (2) 走行クラッチレバーを希望する位置に入れて、フットクラッチペダルを踏み込んでクラッチを切ります。

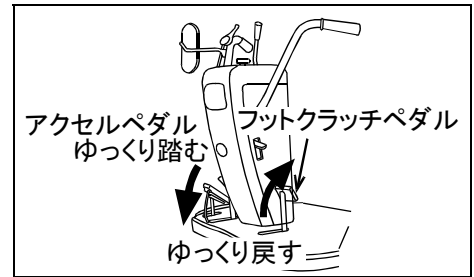
- (3) 変速レバーを希望する変速位置に入れます。

※変速レバーは慎重に操作し、希望する変速位置に確実に入っていることを確認してください。

- (4) フットブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキを解除します。



- (5) アクセルペダルでエンジン回転数を上げながらフットクラッチペダルをゆっくりと離します。



重要

- 走行中は、フットクラッチペダル、およびフットブレーキペダルから足を離してください。
- ベルトの寿命を伸ばすため、発進以外はできるだけ半クラッチ操作を避けてください。また速度調整をクラッチペダルで行なわないでください。

● 変速のしかた

変速のしかたについては、29 ページの変速レバー、走行クラッチレバーの項目をお読みください。

■ 旋回のしかた



警告

- 旋回するときは、できるだけエンジン回転を落とし、必要な場合は変速をして低速にしてください。高速で急旋回すると、ハンドル操作を誤ったりして事故につながり大変危険です。

■ 坂道での運転

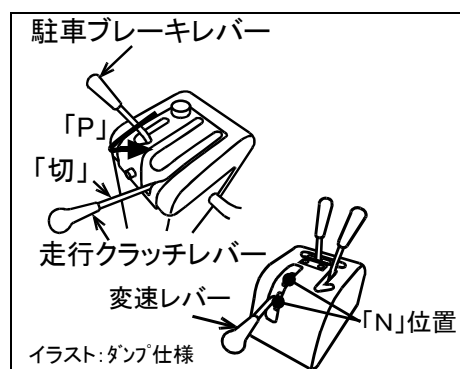


警告

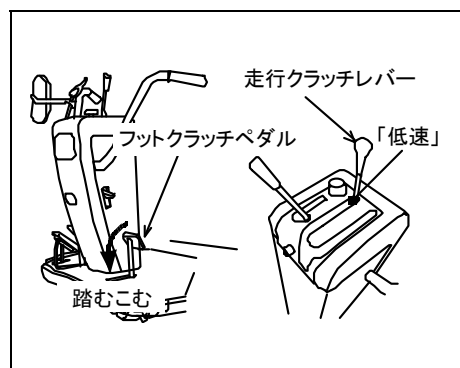
- 坂道では、急な旋回をしてはいけません。坂道途中での下回り旋回は、転倒事故の原因となり大変危険です。
- 坂の状況に応じた安全なスピードで走行してください。スピードを出しすぎると思わぬ傷害事故を引き起こす恐れがあります。
- 坂の途中では、クラッチを切ったり、変速レバーを中立にしないでください。また、下り坂では、エンジnbrakeを使用し、フットブレーキの多用はしないでください。これを怠るとスリップや転倒事故の原因になり大変危険です。

●急な上り坂での発進

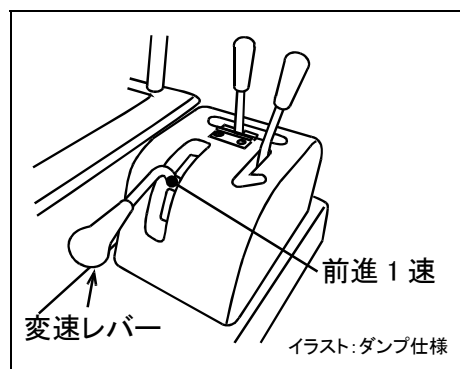
- (1) 走行クラッチレバーを「切」位置にし、
駐車ブレーキをかけ、変速レバーを「N」
位置にします。



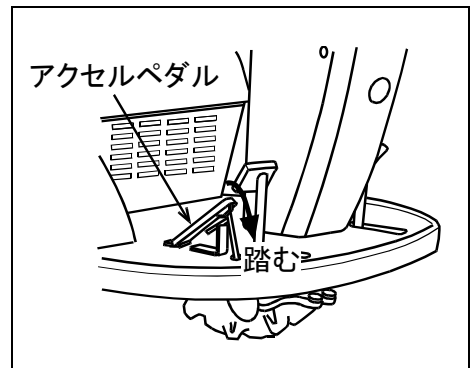
- (2) 走行クラッチレバーを「低速」位置に入
れて、フットクラッチペダルを踏み込ん
で、クラッチを切ります。



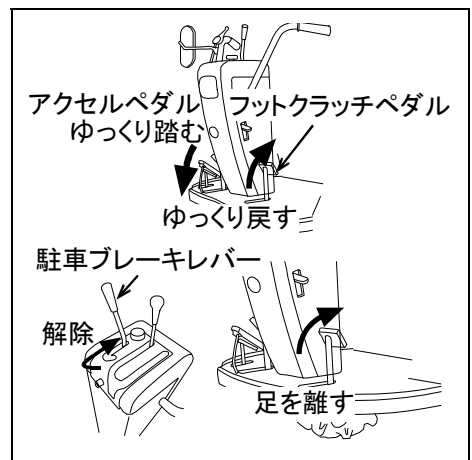
- (3) 変速レバーを 1 速位置に入れます。



- (4) アクセルペダルを踏み、エンジン回転数を中速程度に上げます。



- (5) フットクラッチペダルをゆっくりと離し、半クラッチ状態にします。
- (6) 同時に駐車ブレーキを解除しながら、アクセルペダルを踏み込みエンジン回転数を上げながら、駐車ブレーキを完全に解除すると同時に、フットクラッチペダルから足を離して発進します。

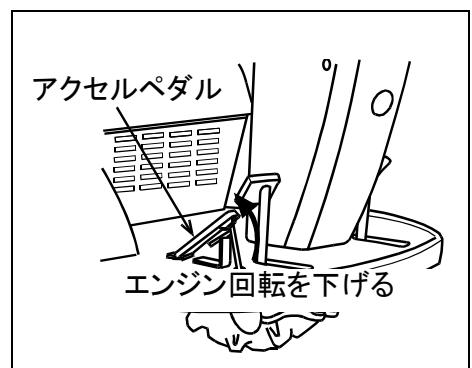


●下り坂での運転

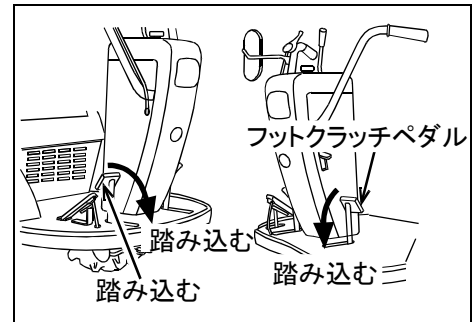
下り坂ではエンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで下るのは危険です。

■制動および駐車・停車

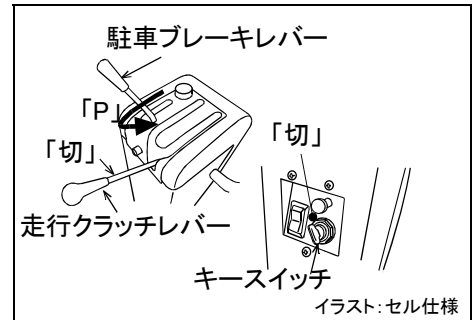
- (1) アクセルペダルを操作し、エンジン回転数を下げます。



- (2) クラッチペダルを踏み込むと同時にブレーキペダルを踏み込みます。



- (3) 車体が完全に停止してから駐車ブレーキをかけ、走行クラッチレバーを「切」位置にします。
- (4) キースイッチまたは、ストップスイッチを操作し、エンジンを停止してください。



警告

- 積荷や路面の状況により制動距離（停止距離）が変わります。ブレーキは早めに踏みましょう。
- 駐車・停止するときは、駐車ブレーキを確実にかけてください。
- 車両から離れる場合は、エンジンを停止し、キースイッチを抜き取り、駐車ブレーキをかけ車止めをしてください。止める所は、広い地面の硬い場所を選んでください。車両が自然に動きだしたりして大変危険です。
- 緊急時以外は、できるだけ急ブレーキをかけないでください。車体やトランスミッションに過大な力がかかり、機械の寿命を短くします。
- 車両を草や可燃物の上に止めてエンジンの空吹きをししたり、高速回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより、火災の原因になる恐れがあります。
- 乗車時に制動・停車する場合は、必ずフットブレーキペダルを使用し、駐車ブレーキレバー・走行クラッチレバーは使用しないでください。これを怠ると衝突事故や転倒、転落事故などの重大な事故を引き起こす恐れがあります。

積載要領

■最大作業能力



警告

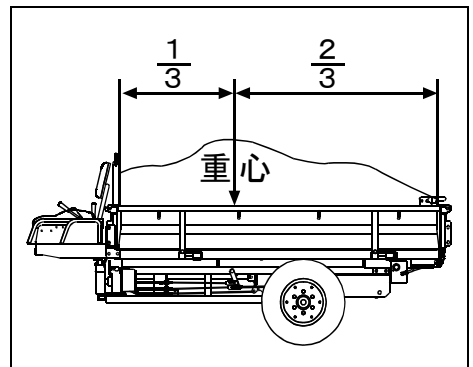
- 最大作業能力を厳守し、積過ぎないで下さい。積過ぎは車両バランスを悪くし、転倒事故の原因となり大変危険です。
- 積過ぎは、タイヤのパンク等の原因となり、ハンドル操作を誤り事故を起こす恐れがあり大変危険です。

最大作業能力は下表の通りです。必ず守って安全に作業を行なってください。

勾 配	圃 場
	最大作業能力 (k g)
平坦地 (0° ~ 5°)	6 0 0
5° ~ 1 5° 未満	3 0 0
1 5° 以上	積載・無積載に関わらず使用禁止

■バランス

安全に効率よく作業するため、バランスよく積載してください。積荷の重心は、荷台前端から荷台長さの1／3付近にあるときに最も安定します。



危険

- 荷動きしないようしっかりとロープ等で積荷を固定してください。これを怠ると、車両重心が変わりバランスをくずし転倒事故を起こしたり、積荷が落下したりして大変危険です。
- 荷物を高く積まないでください。重心が高くなり、積荷のバランスが悪くなり落下事故の原因となり大変危険です。

注意

- やむを得ず、積荷が高くなる場合は、荷くずれしないよう確実にロープ等で固定し、ゆっくりと低速で運転してください。
- 荷物を積んで走行する時には、積載量に応じて、ハンドルの操作荷重が変わります。十分注意して運転してください。

油圧操作

■ ダンプ操作（各型式のダンプ仕様）

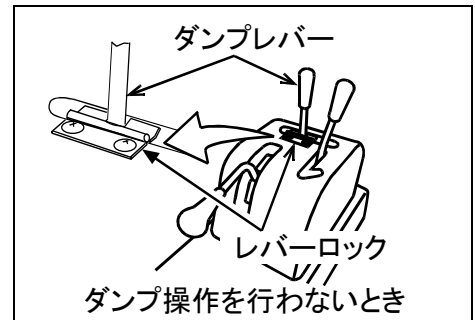
ダンプ操作は、上昇・下降いずれの場合にも、必ずエンジンをかけたままの状態
で車両から降りて行なってください。

● 操作方法

車両前進方向に向かって

荷台下降……ダンプレバーを左に倒す
（手前に引く）

荷台上昇……ダンプレバーを右に倒す
（車両座席側へ押す）



重要

- ダンプレバーはいっばいに操作し、途中で止めて操作しないでください。
- ダンプレバーのロックを外してからレバーを操作してください。また、使用しない場合は必ずレバーロックをしてください。
- 20秒以上連続してリリーフ弁を作動（ビーという音がします。）させないでください。油圧ポンプの破損につながります。



注意

- 足場の悪い所や傾斜地でのダンプ作業は避けてください。
- 周囲の安全を確認し、駐車ブレーキをかけ操作してください。
- ダンプレバーを操作してもリリーフ弁が作動（ビーという音がします。）して荷台がダンプしない場合は、積過ぎですから積荷を減らしてください。
- 降下防止をしたまま荷台を下げると破損します。荷台を下降させる前に降下防止をしたままでないか確認してから作業を行ってください。

警告

- 荷台をダンプ状態からエンジンをかけないで下降させると、シリンダ内が真空となり、スムーズな操作ができなくなります。また、オイルが油圧ポンプから噴き出し、オイルの減少の原因となります。
- 積荷が残ったまま、荷台を下降させる場合は、車体に衝突させないようにエンジン回転を落としゆっくりと下げてください。これを怠ると車体の破損の原因となるばかりでなく、思わぬ事故につながり大変危険です。
- 上昇させた荷台の下に身体をもぐり込ませないでください。荷台が下降し、はさまれる恐れがあります。修理・調整等やむを得ない場合は、必ず荷台が下降しないよう降下防止を施してください。作業が終わったら降下防止を解除し、荷台を下降させてください。機体の破損につながります。
- 走行中のダンプ操作は、油圧装置の破損につながるばかりでなく、ハンドル操作の誤りを引き起こし大変危険です。絶対にしないでください。
- 荷台と、座席背もたれの間に腕をはさまれる恐れがあります。ダンプ操作は必ず車両から降りて行なってください。

点検・整備

増し締め・・・作業前には、各部のボルト・ナット等の緩みがないか確認し、緩み箇所は締めなおしてください。

警告

- 給油および点検をするときは安全を確認して行なってください。
 - ① 車両を平坦な広い場所に置く。
 - ② エンジンを止める。
 - ③ 駐車ブレーキをかける。
 - ④ 荷台をダンプさせたときは降下防止をする。

※ 安全を確認しないで点検・整備を行うと、思わぬ傷害事故を引き起こすことがあります。

運転のしかた

< 定期点検整備箇所一覧表 >

本機を安全に使用するためにまた、事故を未然に防ぐために必ず点検・整備を行なってください。

○点検・整備 ◎補給 ☆初期交換 ●交換

点 検 箇 所		項 目	点 検 時 期 (目 安)				参 照 ペ ー ジ
			始 業 前	50h 毎	100h 毎	300h 毎	
本 体 部	ミッションオイル	油 量		☆	○	●	58～60
	フロントデフケース	油 量		☆	○	●	59・60
	フットクラッチペダル	遊 び	○				72・73
	フットブレーキペダル	遊び・効き具合	○				74・75
	各 レバ ー ペダル	作 動 ・ 機 能	○				66～79
	ブレーキシュー	磨 耗		○		●	76・78
	V ベ ル ト	伸 び ・ 亀 裂	○				—
	タ イ ヤ	空 気 圧 ・ 亀 裂	○				84
	グリースニップル	グ リ ー ス			○		62
	各スイッチ・ランプ	作 動 ・ 点 灯	○				26・27, 80～83
	各 支 点 ・ 摺 動 部	油 ・ グ リ ス		○			—
	各部ボルト・ナット	締 付 状 態	○				—
	バ ッ テ リ	液 量 ・ 接 続	○		○		64・65
	各 部 ワ イ ヤ	外 観 ・ 伸 び	○				—
	か じ 取 り 装 置 ボールジョイント	遊び・締付状態	○	○		○	—
	燃 料	量 ・ 燃 料 も れ	○				40
	燃 料 フ ィ ル タ	汚 れ	○		○	●	57
	燃 料 ホ ー ス	接続状態・亀裂	○				—
油 圧 部	油 圧 ポ ン プ	油 質 ・ 油 量		○	◎	●	60・61
	油 圧 ホ ー ス	接続状態・亀裂	○				—
	油 圧 シ リ ン ダ	油 漏 れ	○				—
エンジン部関係については、「エンジン取扱説明書」をご参照ください。							

重要

●年に1回はお求めの販売店にて点検整備を受けてください。

運転のしかた

＜給油箇所一覧表＞

給油箇所		油の種類	給油量		参照ページ
本体部	トランスミッション	ギヤオイル（８０Ｗ－９０）	SL51	3. 0 ℓ	58・59
			SL56	3. 2 ℓ	
	フロントデフ （SL56 の全仕様）	ギヤオイル（８０Ｗ－９０）	1. 1 ℓ		59
	グリスニップル	リチウム系一般グリス	適 量		62
	注油指示部 （黄色マーカ部）	ギヤオイルまたは リチウム系一般グリス	適 量		—
	各支点・摺動部	ギヤオイルまたは リチウム系一般グリス	適 量		—
油圧部	油圧ポンプ	ハイドロリックオイル TL IS032	0. 8 ℓ （シリンダ・ホース内含む）		60・61
	各支点・摺動部	ギヤオイルまたは リチウム系一般グリス	適 量		—
エンジンオイルや燃料等については「エンジン取扱説明書」をご参照ください。					

重要

- 機械にとって潤滑油は、人の血液にも相当する大切なものです。給油をおろそかにすると機械が円滑に動作しないばかりか、故障の原因となり、機械の寿命を短くします。常に点検し、早めに補給、または交換をしてください。
- 給油作業は、ゴミ・水等が入らないよう十分注意して行なってください。

■点検と清掃

⚠危険 ●火気厳禁

給油時は、エンジンを必ず停止して、高温部が冷えてから給油してください。

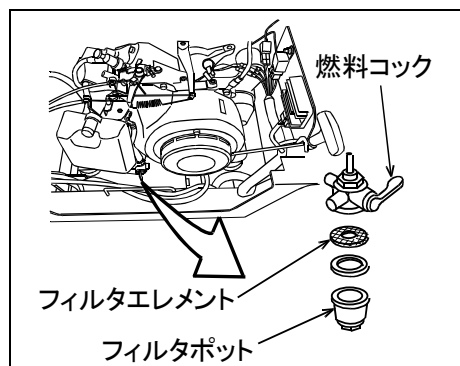
- 燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気は厳禁です。
引火・爆発・火災の原因になります。

燃料……自動車用無鉛レギュラーガソリン

- 燃料タンク内に水・ゴミ等が入らないよう注意してください。
- 燃料キャップが確実に締まっているか確認してください。

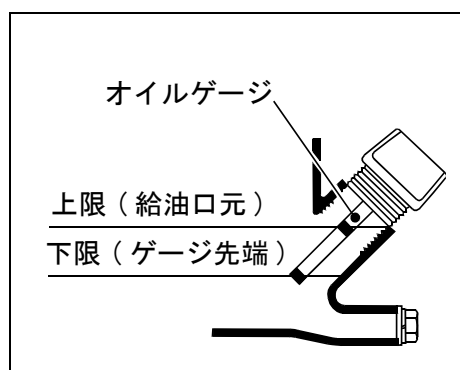
フィルタポットの清掃と交換

- (1) 燃料中に含まれる水・ゴミ等がフィルタポット内に沈殿していないか点検します。
- (2) 水・ゴミ等がたまっている場合は、燃料コックを閉じてフィルタポットを外し、フィルタエレメントおよびフィルタポット内部を洗油（白灯油）で洗浄してください。
- (3) 締付けの際は、燃料もれのないよう十分に注意してください。



エンジンオイル

- (1) 機体を水平にして、オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき、改めて差し込んでから再び抜き「上限と下限の間」にオイルがあるか調べます。
- (2) 「下限」以下の場合は、「上限」まで補給してください。



重要 ●エンジンオイルは「上限」以上に入れないでください。

※ オイル交換・エアクリーナの清掃等エンジンの保守点検につきましては、別冊で添付しております「エンジン取扱説明書」をお読みください。

ミッションオイルの給油・交換

●給油

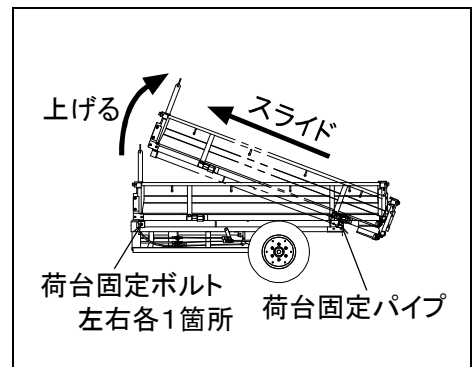
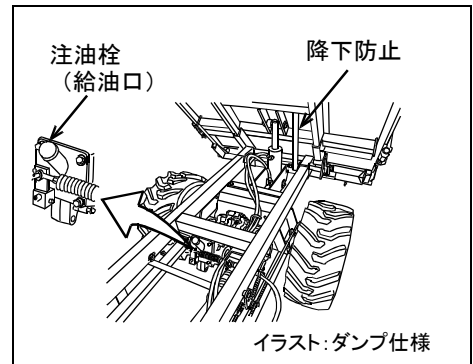
- (1) 機体を水平にして駐車してください。
荷台を上げ、給油口の注油栓を外します。
(荷台ダンプ仕様)
荷台を外し、給油口の注油栓を外します。
(荷台ダンプ以外)

●荷台ダンプ仕様

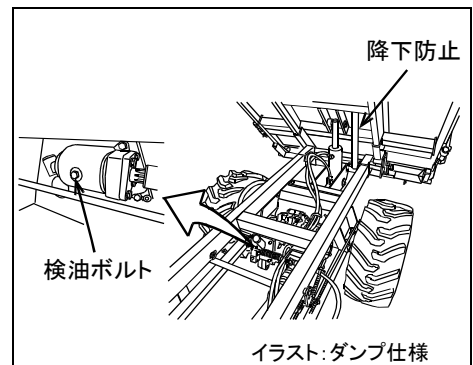
荷台をダンプさせます。
確実に降下防止を施し、エンジンを停止させてください。

●荷台ダンプ仕様以外

荷台固定ボルトを外し、荷台前方を上げます。前方斜め上方向へ荷台全体をスライドさせ、荷台固定パイプより荷台を外します。



- (2) トランスミッション側面の検油穴のボルトを抜き、オイルが出てくるか調べます。出ない場合は、検油穴からオイルが出てくるまで、給油口からオイルを補給させてください。
- (3) 給油後は、注油栓をしっかりと給油口へ差し込んでください。



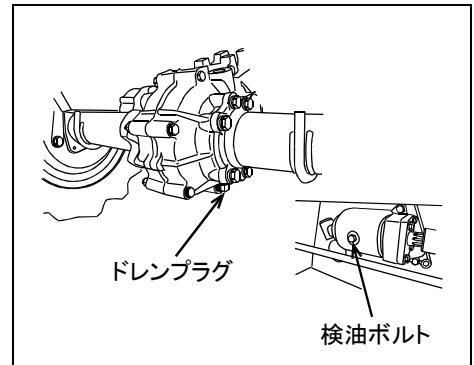
※ オイルの種類・量は56ページ参照

重要

●トランスミッションのオイルは、路面状態など走行条件により給油口よりにじみ出たり、注油栓のエア抜き穴から出る場合がありますので頻繁に点検し、補給してください。

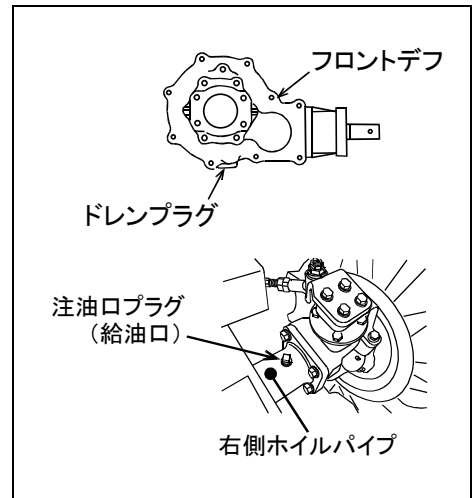
●交換

- (1) トランスミッション下部のドレンプラグを外し廃油を廃油受皿に排出します。
- (2) オイルが出なくなったらドレンプラグにシールテープを巻き、元のようにしっかりと締め込みます。
- (3) 検油穴の検油ボルトを外し、検油穴よりオイルが出るまで給油します。
- (4) 検油穴の検油ボルトを締め込み、注油栓を元のように差し込んでください。



フロントデフのオイル交換（S L 5 6 の全仕様）

- (1) フロントデフケース下部のドレンプラグを外し、廃油を廃油受皿に排出します。
- (2) オイルが出なくなったらドレンプラグにシールテープを巻き、元のようにしっかりと締め込みます。
- (3) 右前輪内側のホイールパイプ上部にある注油口プラグを外し給油口よりギヤオイルを1.1ℓ給油してください。
- (4) 給油後は注油口プラグを元のように締め込んでください。



※油の種類・量は56ページ参照



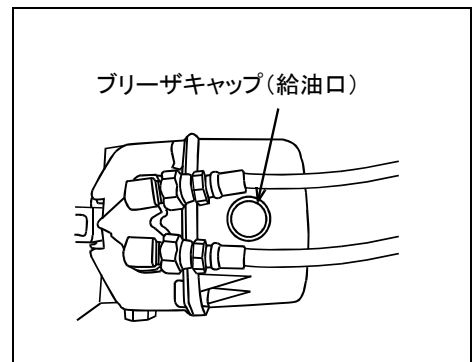
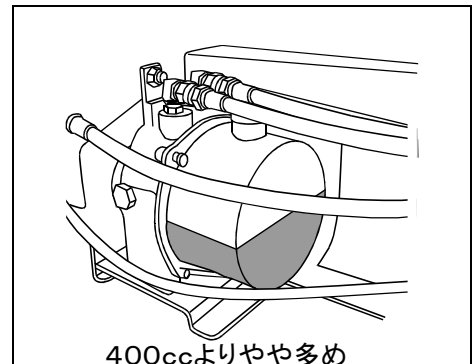
警告

- 廃油は廃油受皿等に取り、たれ流したりしないでください。公害のもととなります。
- 廃油受皿に排出したオイル内に鉄粉等が混入している場合は、ギヤの磨耗などミッション破損の前兆であり、トランスミッションの分解チェックを要します。お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

油圧ポンプへのオイルの給油・交換（各型式のダンプ仕様）

●給油

- (1) 機体を水平にして駐車してください。荷台を降ろした状態で、作動油がタンクの目盛400ccよりやや多めに入っているか点検します。
作動油が少ない場合は、不足しているオイル量を確認してください。
- (2) 荷台をダンプさせ、確実に降下防止を施し、給油口より（1）にて確認した不足分のオイルを給油してください。
- (3) 給油後、給油のため取り外したキャップは元のように取り付けてください。



重要

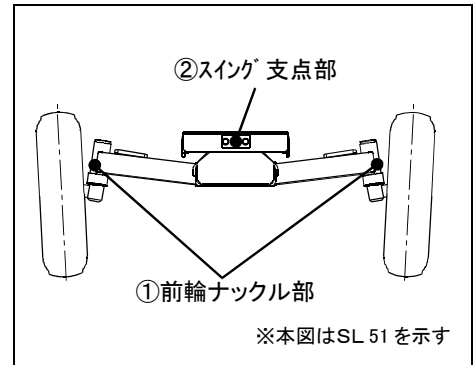
- 荷台をダンプさせた時と降ろした時では、シリンダ内の油量が異なります。油量は必ず荷台を降ろした状態で点検してください。
- 油量が多いとブリーザキャップのエア抜き穴より、オイルが吹き出る場合があります。
- 作動油の早期減少は異常ですから、お買い上げいただいた販売店で点検整備を受けてください。
- 廃油は廃油受皿等に取り、たれ流しにしたりしないでください。公害のもととなります。

グリスニップルへのグリス注入

市販のグリスガンにて、下記注油箇所
にグリスを注入してください。

S L 5 1 ①, ②

S L 5 6 ②



■電気系統の点検と清掃

電気配線の点検と清掃

⚠注意

- 配線の端子や接続部の緩みおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり、火災事故になる恐れがあり大変危険です。痛んだ配線は、早めに交換・修理をしてください。
- バッテリー、電気配線およびマフラやエンジン周辺部の可燃物・ゴミなどは取除いてください。これを怠ると火災の原因となります。
- 1年に1回、販売店での定期点検を受けてください。また、安心して運転できるよう電気配線は、2年毎に交換することをお勧めします。

下記の項目につき、定期的に点検してください。

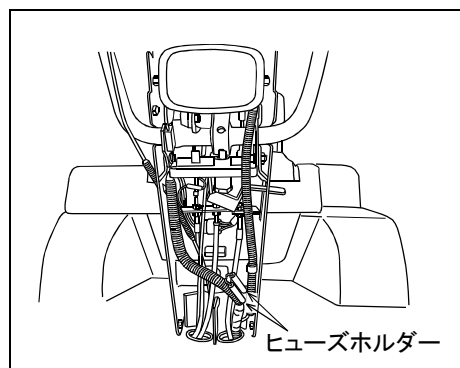
- (1) 配線の損傷がないこと。配線被覆が破れているときは、ビニールテープを巻き、補修してください。
- (2) 配線のクランプの緩みがないこと。配線がクランプより外れているときは、所定のクランプに配線をセットしてください。
- (3) ターミナル、カプラの接続部の緩みがないこと。
- (4) 各スイッチが確実に作動すること。

重要

●バッテリー、エンジンのまわりの電気配線、電装部品等に圧力水をかけないでください。電気部品の故障の原因となります。

ヒューズの取扱い

ヒューズは、ハンドルフレーム内メインコードのヒューズホルダーの中に入っています。ヒューズが切れた場合は、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。大容量のヒューズをつけると焼損の原因となります。



重要

●ヒューズが切れた場合は、切れた原因を調べ、修理後同容量のヒューズと交換してください。絶対に針金等で代用しないでください。

■バッテリーの点検と取扱い



警告

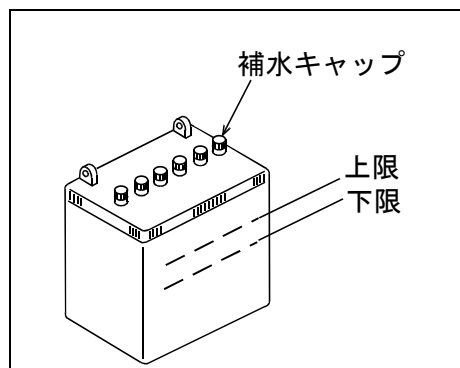
- ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は風通しのよい所で行なってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用を続けたり充電を行なうと、容器内各部位の劣化の進行が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となる恐れがあります。
- バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。バッテリー液を体や服につけないようにしてください。失明ややけどをすることがあり大変危険です。もし、目・皮膚・服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。
- ブースターケーブル使用時には、危険のないように取扱ってください。（23ページ参照）

バッテリーの液量点検

- (1) バッテリー液がバッテリーケース液面レベルの上限線から下限線の間にあるか、バッテリーが水平になる姿勢で確認してください。
- (2) 不足している場合はキャップを外し、上限まで蒸留水を補充してください。

●液が自然に減ったときは、蒸留水を補給します。

●液をこぼしたときは、希硫酸を補給します。



重要

- バッテリー液が不足すると、バッテリーを傷め、多過ぎると液がこぼれ車体を腐蝕させます。

バッテリーの取扱い

- 気温が低下すると、バッテリーの性能も低下します。冬季は特にバッテリーの管理に注意してください。
- バッテリーは使用しなくても自己放電しますから補充電を行なってください。
夏季…………… 1 カ月毎 冬季…………… 2 カ月毎
- 本機を長期格納する場合は、バッテリーを取り外し、日光のあたらない乾燥した場所に保管してください。どうしても本機に取付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（⊖側）を外してください。
- 新品のバッテリーと交換する場合は、必ず指定した型式のバッテリーを使用してください。

指定バッテリー型式…………… 3 4 A 1 9 R

重要

- バッテリーは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線等を傷めることがあります。
- バッテリーの急速充電はバッテリーの寿命を短くしますから、できるだけ避けてください。
- 充電はバッテリーの⊕を充電器の⊕に、⊖を充電器の⊖にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行なってください。
- バッテリーを外し、再度取付けるときは、バッテリーの⊕・⊖のコードを元通りに配線し、まわりに接触しないように締付けてください。
- バッテリーコード（端子）を取外すときは、⊖コードを先に外します。バッテリーコードを取付けるときは、⊕コードを先に取付けます。これを怠るとショートして火花が飛んだりして危険です。

各部の調整



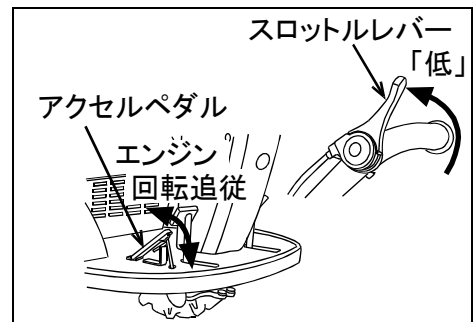
警告

- 各部の点検・調整を行なう場合は、必ずエンジンを停止させ、平坦地で作業してください。
- 荷台下部の点検・調整を行なう場合は、必ず降下防止を施してください。

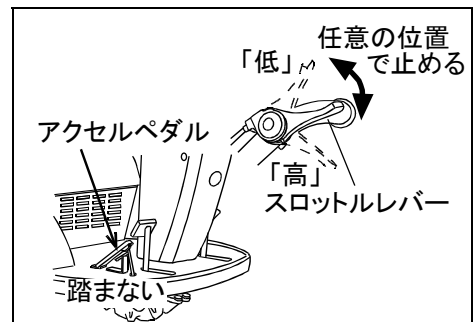
■スロットルレバーとアクセルペダルの点検と調整

●点検

- (1) スロットルレバーが「低」位置のとき、エンジン回転がアクセルペダルの動きに追従していることを確認してください。



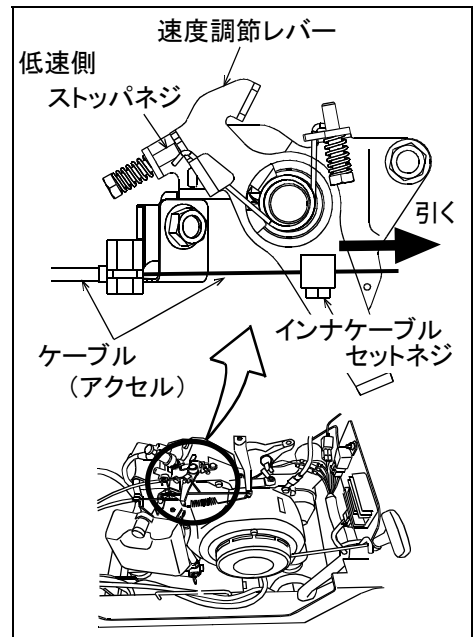
- (2) アクセルペダルを踏まないで、スロットルレバーの動きにエンジン回転が追従し、スロットルレバーを任意の位置で止めたとき、エンジンの回転を維持できることを確認してください。



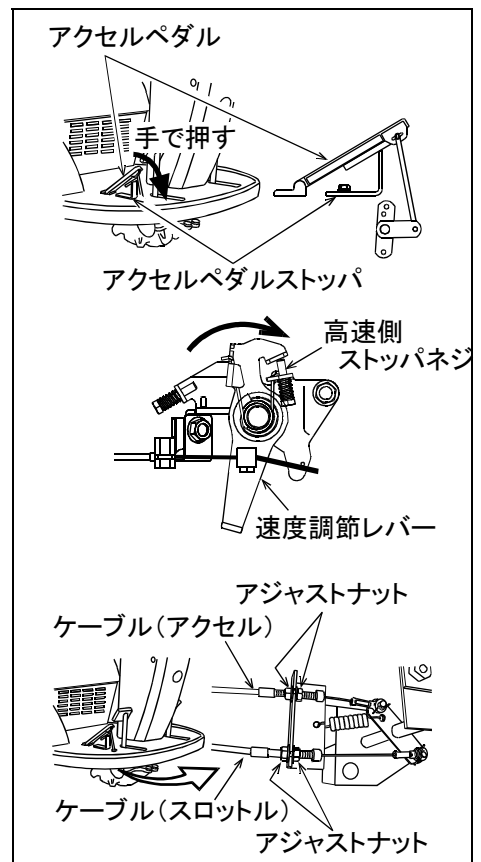
●調整

ワイヤの伸び等で、スロットルレバーおよびアクセルペダルの動きにエンジン回転数が追従しない場合は、各ケーブルのアジャストナット等にて調整を行なってください。

- (1) スロットルレバーを「低」位置にします。
- (2) エンジン側のケーブル（アクセル）のインナケーブルセットネジを緩めます。
- (3) エンジンの速度調節レバーが低速側の、ストップネジに当たった位置でケーブル（アクセル）のインナーケーブルをプライヤー等で引っ張り、遊びを無くしインナケーブルセットネジを締め込みます。

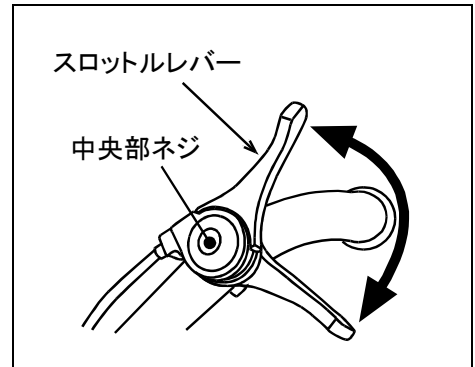


- (4) アクセルペダルを手で押さえ、アクセルペダルストップに当たった状態のとき、エンジンの速度調節レバーが、高速側のストップネジに当たっているか確認します。
 - (5) (4) にて高速側のストップネジにあたっていない場合は、ケーブル（アクセル）のアジャストナットにて調節してください。
 - (6) ケーブル（スロットル）のたわみがなくなるよう、ケーブル（スロットル）のアジャストナットにて調整してください。
- ※ スロットルレバーのみ調整を行なうときは、(1) と (6) の手順のみで行なってください。



2. スロットルレバーが任意の位置で保持できない
(振動で位置がずれる) 場合

- スロットルレバー中央部のネジの締め込み加減を調整し、スロットルレバーの動きのかたさを調整してください。

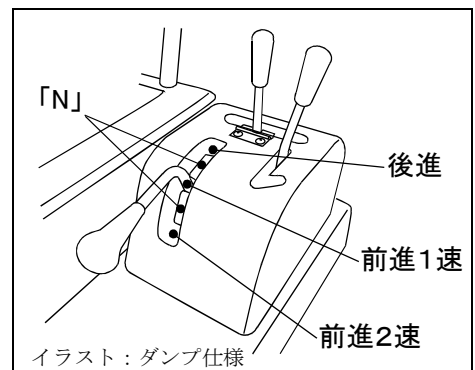


- 重要**
- アクセルペダルは必ずアクセルペダルストッパにて踏み込み量を規制してください。これを怠ると、エンジンの速度調節レバーの変形、インナーケーブルの抜け等が発生し、故障の原因となります。
 - 調整後は、スロットルレバーおよびアクセルペダルの動きにエンジン回転数が追従することを確認してください。

■変速レバーの点検・調整

●点検

変速レバーを操作した時、確実にギヤチェンジができ、チェンジガイドの各変速位置に、確実にレバーが入ることを確認します。
ズレている場合は調整が必要です。



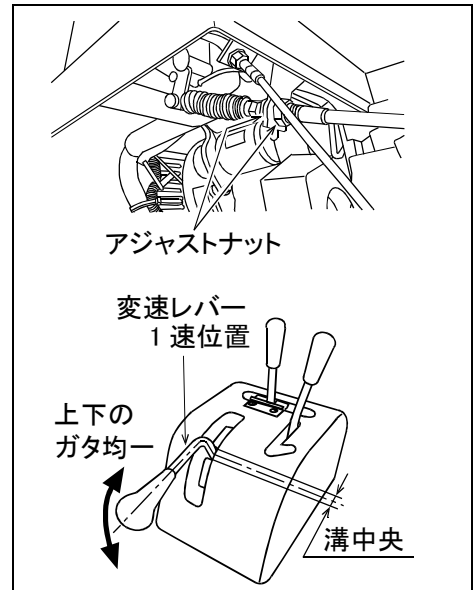
- 重要**
- 変速レバーは、使用していると各部のへたりやケーブルの伸び等によりチェンジガイドとのズレやガタ等を生じます。これを放っておくと変速ミス、ギヤ抜け、さらにはトランスミッションの破損につながります。頻繁に点検を行い、正しく調整してください。

●調整

- (1) 変速レバーを「1 速」位置にします。
- (2) この位置でケーブル（チェンジ）のアジャストナットを緩め変速レバーが「1 速」位置のチェンジガイド溝中央になるよう調整してください。

変速レバーを軽く動かし、変速レバーのガタが上下方向とも均一になっていることを確認し、アジャストナットを確実に締め付けてください。

- (3) 変速レバーを操作します。確実にギヤチェンジができ、チェンジガイドの各変速位置に確実にレバーが入ることを確認してください。



重要

●ブレーキがかかった状態のとき、チェンジギヤの歯の噛み合いによりスムーズに変速できないことがあります。無理に変速しようとする、チェンジ機構等を破損する恐れがあります。チェンジ操作がスムーズに行えない場合は、走行クラッチレバーを少しだけ「入」の状態にし、すぐ「切」位置に戻し、再度変速レバーを操作してください。

■走行クラッチレバーの点検・調整



警告

- 点検・調整はエンジンを止めて、平坦地で行なってください。これを怠ると、衣服の巻き込みなどによる傷害事故の原因となります。
- エンジン停止後すぐに点検・調整を行なうと、マフラーなどの高温部による火傷の原因となります。高温部が冷えてから行なってください。

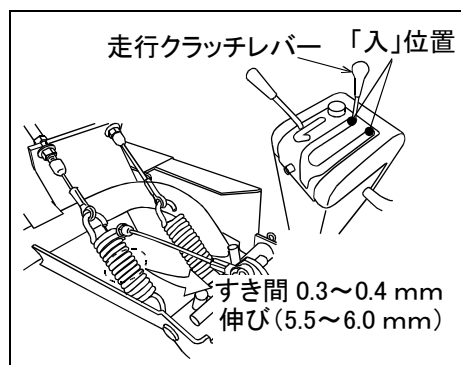
●走行クラッチは、ベルトテンション式のダブルクラッチです。点検・調整の方法は高速側・低速側ともに同様ですので、片側のみ記載します。

必ず高速側・低速側ともに同様の点検・調整を行なってください。

●点検

走行クラッチレバーを「入」位置にします。この時のスプリング中央部のすき間が、0.3～0.4 mm（伸び5.5～6.0 mm）となっているか確認してください。

すき間が確保できていない場合は調整が必要です。



●調整

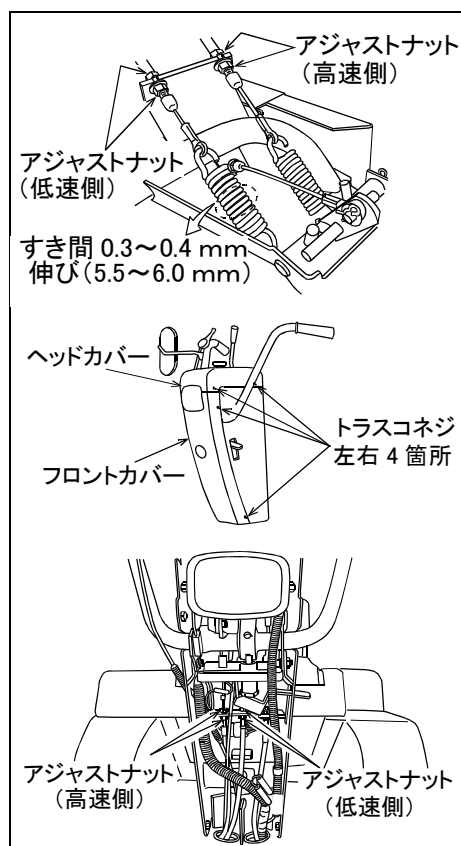
- (1) スプリング中央部のすき間が、0.3～0.4 mm（伸び5.5～6.0 mm）になるように、各変速ケーブルのアジャストナットにて調整してください。

※（１）にて調整が出来ない（調整代が足りない）場合は（２）～（４）にて調整を行なって下さい。

- (2) ヘッドカバー、フロントカバーを取り外してください。

- (3) ハンドルフレーム内の各変速ケーブルのアジャストナットにて調整してください。
※調整値（スプリングのすき間）は（１）と同様です。

- (4) 調整後は必ずアジャストナットを締め込み、取り外したカバーを元通りに取り付けてください。



●交換

スイッチベースを取り外して交換を行なってください。

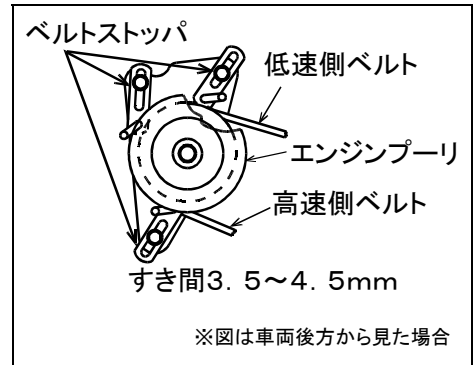
（37ページのスイッチベースの項参照）

■走行ベルトのベルトストップ調整

- (1) 各プーリの、ベルトストップの位置を調整します。

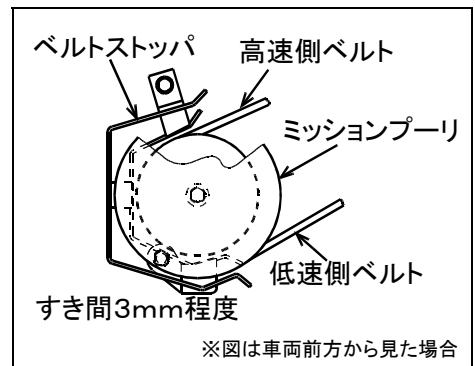
●エンジンプーリ側

右図の位置にストップがあり、(3箇所) 走行クラッチレバーを「入」位置に入れた時、ベルトとのすき間が3.5～4.5mmとなるように調整します。

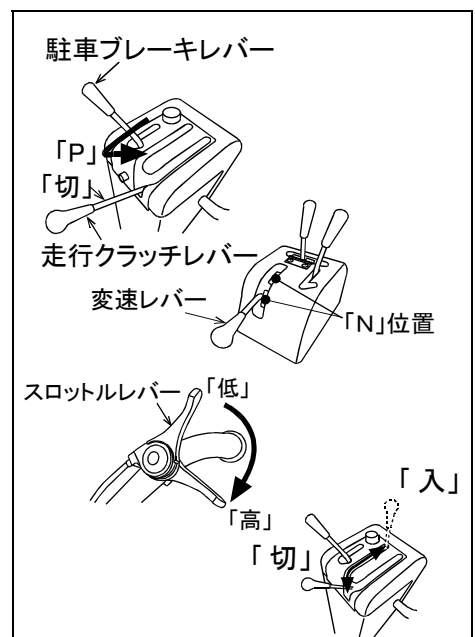


●ミッションプーリ側

ベルトとのすき間が均一に3mm程度となるように調整します。



- (2) 変速レバーを「N」位置にし、確実に駐車ブレーキがかかっていることを確認しエンジンを始動させてください。
スロットルレバーを「高」位置にし、エンジン回転を上げます。
この状態で走行クラッチレバーを「入」⇄「切」し、レバー「切」位置では確実にベルトが止まっていること。
レバー「入」位置では動力が伝達されており、クラッチが切れている方の走行ベルトがツキ回りしていないことを確認してください。ベルトがツキ回りしている場合は、エンジンを停止させ、もう一度(1)の手順にてベルトストップの調整を行ってください。



- (3) エンジンを停止させてください。調整のために外したカバー類を元の通りに取り付けてください。

重要 ●走行クラッチレバーおよびベルトストoppaの調整が悪いと、ベルトのツキ回りやスリップ等が起き、ベルトの早期磨耗・異音の原因となります。

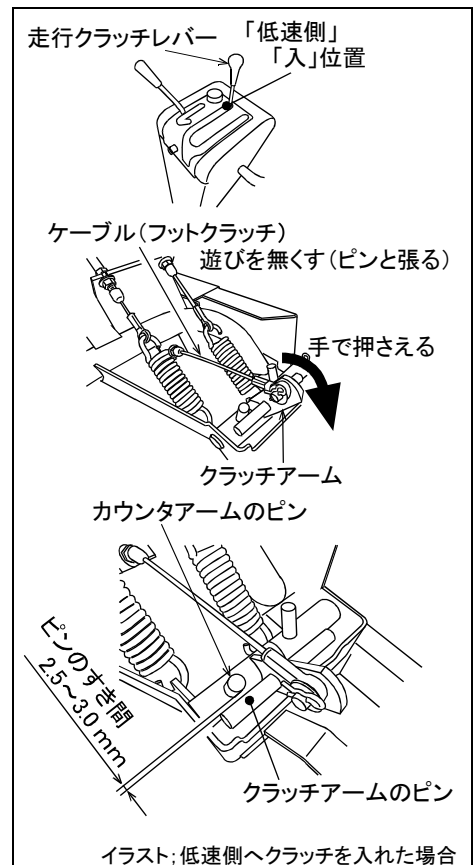
■フットクラッチペダルの点検・調整

警告 ●クラッチの調整が悪いと、クラッチ切れ不良やスリップを起こす等思わぬ事故につながり大変危険です。

重要 ●フットクラッチペダルの調整は、必ず走行クラッチレバーの調整をしてから行なって下さい。これを怠ると走行クラッチレバーを操作してもエンジンからの動力が十分に伝達されなかったり、ベルトのスリップ等が起き、ベルトの早期磨耗・異音の原因となります。

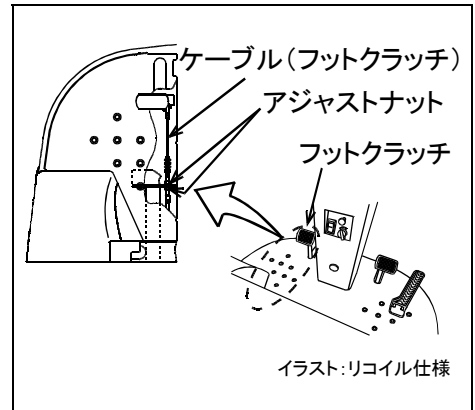
●点検

- (1) 走行クラッチレバーを「低速側」に入れ、クラッチアームを手で押さえて、ケーブル（フットクラッチ）の遊びを無くします。
- (2) (1)の状態のままカウンタアームのピンと、クラッチアームのピンのすき間（距離）を測定します。
- (3) (1)、(2)と同様の手順にて「高速側」の測定を行ないます。
- (4) (2)、(3)の測定値を比較し、すき間の狭い変速側の、カウンタアームのピンとクラッチアームのピンのすき間が2.5～3.0mmとなっているか確認してください。
すき間が確保できていない場合は調整が必要です。



●調整

- (1) 点検時に、すき間の狭かった変速側の、カウンタアームのピンとクラッチアームのピンのすき間が2.5～3.0mmとなるようケーブル（フットクラッチ）のアジャストナットにて調整してください。
- (2) 調整後、ケーブルのアジャストナットを確実に締め付けてください。



※ 調整のためケーブルのクランプ等を外した場合は、必ず元のように取り付けてください。

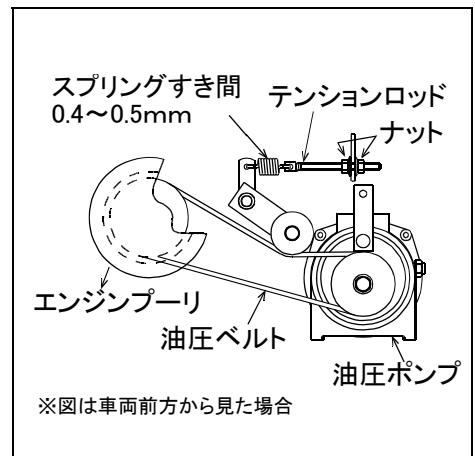
■油圧ポンプ駆動ベルトの点検・調整（各型式のダンブ仕様）

●点検

スプリングのすき間が0.4～0.5mm（伸び2.5～3.0mm）になっているか確認します。すき間が確保できていない場合は調整が必要です。

●調整

- (1) スプリングのすき間が0.4～0.5mm（伸び2.5～3.0mm）になるようにテンションロッドのナットを緩めて調整してください。（参考；はがきの厚さは0.2mmです。）
- (2) 調整後、テンションロッドのナットを確実に締め付けてください。



■ブレーキ系統の点検・調整



警告

●ブレーキ調整を行なう際は、ブレーキが解除の状態になりますので、水平な場所で車止めを施して行なってください。これを怠ると、車両が自然に動き出し、思わぬ事故が起き大変危険です。

●ブレーキ系統の損傷や、整備不良があると、車両が暴走し大変危険です。頻繁に点検・調整を行なってください。

特にぬかるみや、悪路を走行した時には、細心の注意をはらって点検・調整を行なってください。また、少しでも異変を感じた際には、お買い上げいただいた販売店または指定サービス工場にて点検をお受けください。

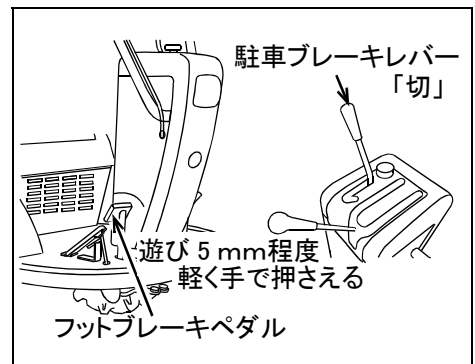
重要

●ブレーキペダル、駐車ブレーキレバー等、ブレーキの調整を行なった後は、必ず駐車ブレーキレバーを解除して、変速レバー「N」位置、走行クラッチレバー「切」位置にて、車体を押して動くことを確認してください。

フットブレーキペダルの点検・調整

●点検

- (1) 駐車ブレーキレバーを「切」位置にしてください。
- (2) フットブレーキペダルを軽く手で押さえ、ペダル先端の遊び量が5 mm程度になっているか確認してください。
遊び量が大きい場合は調整が必要です。



重要

●ペダルの遊び量が大きくなるとブレーキの効き具合が悪くなります。また、ペダルの遊びがまったく無い場合は、半ブレーキ状態となり、ブレーキシューの早期磨耗の原因となります。

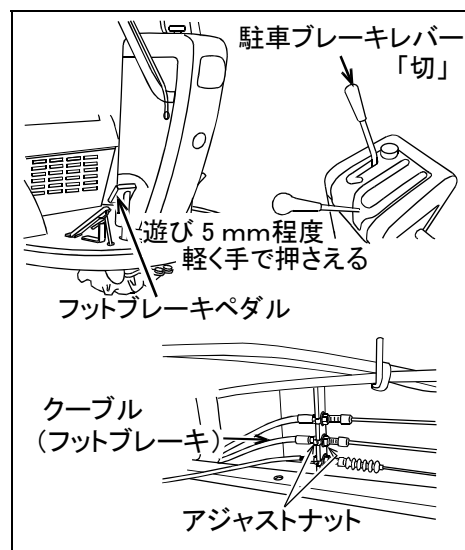
●調整

(1) 駐車ブレーキレバーを「切」位置にしてください。

(2) ケーブル（フットブレーキ）のアジャストナットを緩め、ペダル先端の遊び量が5 mm程度になるよう、荷台下のケーブル（フットブレーキ）のアジャストナットにてケーブルを張って調整します。

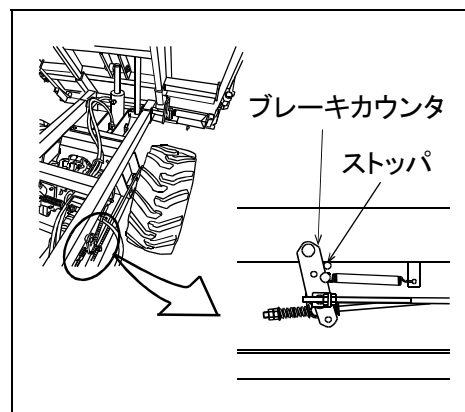
※ この時、ケーブルの遊びが0～1 mm程度となっていることも合わせて確認してください。

(3) 調整後、ケーブルのアジャストナットを確実に締め込んでください。



重要

●ケーブル（フットブレーキ）を張り過ぎてブレーキカウンタのアームがストッパから離れてしまわないように注意してください。

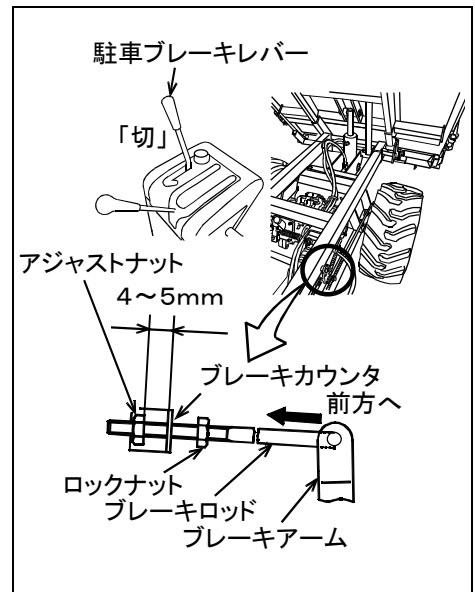


後輪のブレーキロッドの調整

警告 ● ホイルブレーキは左右の後輪それぞれに設けられています。
ブレーキロッドの調整は左右同時に行なってください。これを怠ると、ブレーキが片効きになり、傷害事故を引き起こす恐れがあります。

ブレーキシューの磨耗により、フットブレーキペダルの調整を行ってもブレーキの効きが悪くなった場合は、この調整が必要です。

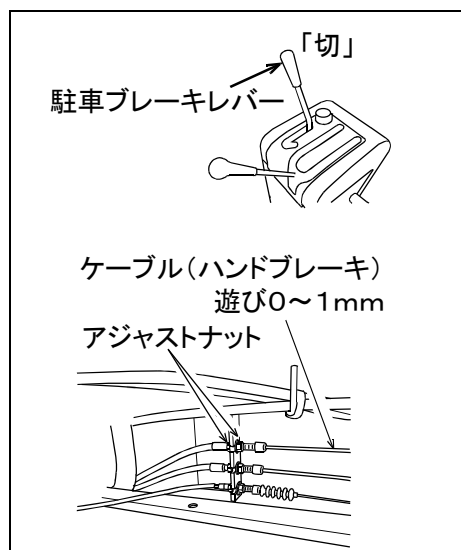
- (1) 駐車ブレーキレバーを「切」位置にしてください。
- (2) ブレーキロッドのロックナットを大きく緩め、ブレーキアームを前方へ押し倒してください。
- (3) ブレーキカウンタとアジャストナットの間隔が4～5mmになるよう、アジャストナットを調整してください。
- (4) 手を離し、ロックナットだけを回し確実に締め込んでください。



重要 ● ブレーキロッドによる調整ができなくなった場合は、ブレーキシューの交換を要します。お買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

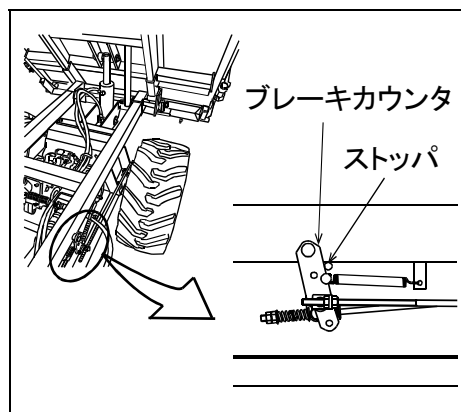
駐車ブレーキレバーの調整

- (1) 駐車ブレーキレバーを「切」位置にし、
ください。
- (2) 駐車ブレーキレバーへつながる、ケーブル
（ハンドブレーキ）遊びが0～1 mm
になるよう荷台下のケーブル（ハンドブ
レーキ）のアジャストナットにてケーブ
ルを張って調整します。
- (3) 調整後、ケーブルのアジャストナットを
確実に締め込んでください。



重要

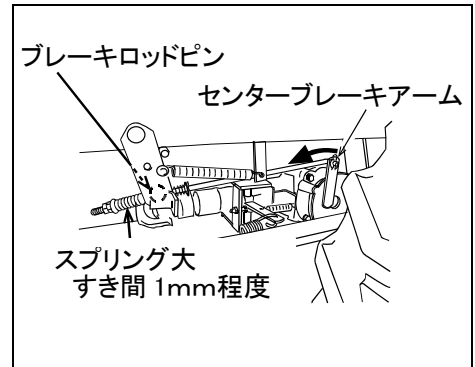
- ケーブル（ハンドブレーキ）を張り過ぎてブレーキカウンタのアームがストッパから離れてしまわないように注意してください。



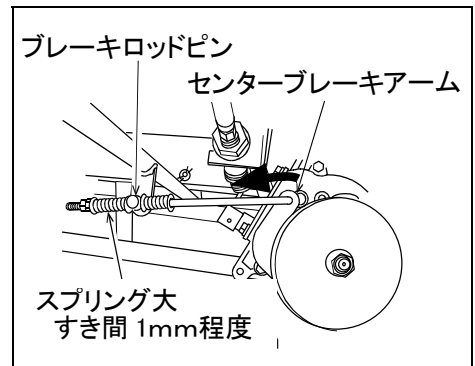
センターブレーキの調整

ブレーキカウンタのアームがストッパにあたっているか確認します。

- (1) センターブレーキアームを手で矢印方向に押し、センターブレーキを効かせます。
- (2) このとき、スプリング大とブレーキロッドピンとのすき間が1 mm程度になるようにアジャストナットで調整します。
- (3) 調整後は、調整位置をずらさないよう注意して確実にナットを締め込んでください。



【SL56全仕様】



【SL51全仕様】

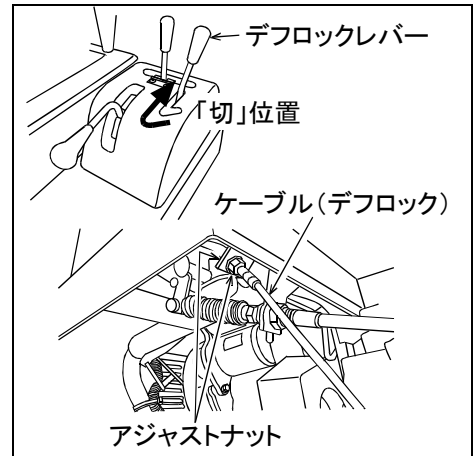
重要

- 調整後、駐車ブレーキが確実にかかること、およびブレーキが正常に作動することを確認してください。
- センターブレーキは、ホイールブレーキよりもブレーキシューの磨耗が早い傾向があります。ブレーキロッドによる調整ができなくなったときは、ブレーキシューの交換を要します。お買い上げの販売店へご連絡ください。

■デフロックレバーの調整（S L 5 1の全仕様）

ケーブルの伸び等で、デフロックの切換え不良となった場合は、ケーブル（デフロック）のアジャストナットにて調整を行ってください。

- (1) デフロックレバーが「切」位置のとき、ケーブル（デフロック）の遊びが無いようにアジャストナットにて調整してください。

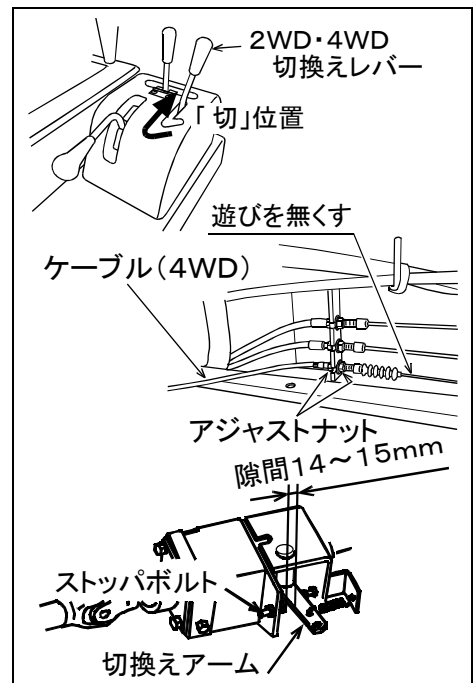


- (2) 調整後、アジャストナットを確実に締め込んでください。

■2WD・4WD切換えレバーの調整（S L 5 6の全仕様）

ケーブルの伸び等で、2WD・4WDの切換え不良となった場合は、ケーブル（4WD）のアジャストナットにて調整を行ってください。

- (1) 切換えレバーが「2WD」の位置のとき、ケーブル（4WD）の遊びが無いように、アジャストナットにて調整してください。
- (2) 切換えレバーが「2WD」の位置で、切換えアームが2WD状態の時、切換えアームとストッパボルトの最短距離が14～15mmになるようにストッパボルトを調整してください。



- (3) 調整後、アジャストナット・ストッパボルトを確実に締め込んでください。
(※ ストッパボルトは、本機出荷時に調整済みです。)

■安全スイッチの点検と調整

- ⚠ 注意** ●安全スイッチは、誤操作した時に、「エンジンが始動しない」または「エンジンが自動停止」するためのスイッチです。始業前には、必ず点検を行なってください。
- 安全スイッチの点検時は、誤動作によりケガをする恐れがあります。必ず座席に座って点検を行なってください。

- ⚠ 警告** ●安全スイッチを取り外したり、配線の改造をしないでください。安全スイッチが作動せず思わぬ事故を招く恐れがあります。

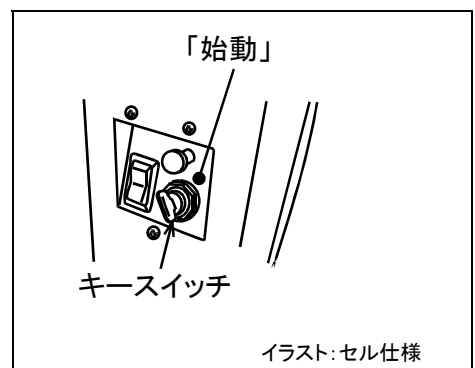
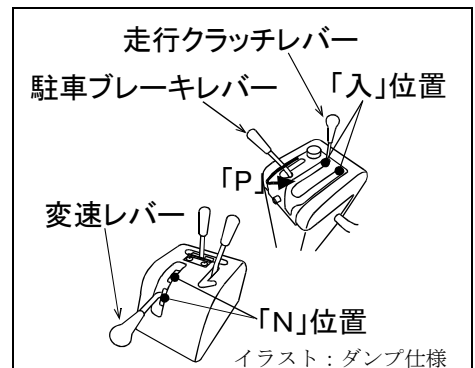
走行クラッチの安全スイッチの点検と調整

●点検

- (1) 駐車ブレーキをかけ、変速レバーを「N」位置にし、走行クラッチレバーを「入」位置に入れてください。

- (2) エンジン始動の操作をします。
セル仕様…キーを「始動」位置まで回します。
セル仕様以外…ストップスイッチをON位置にし、リコイルスタータを引きます。

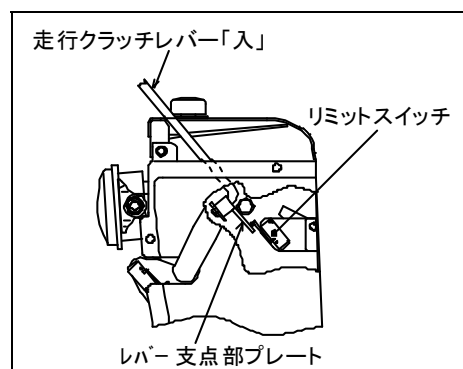
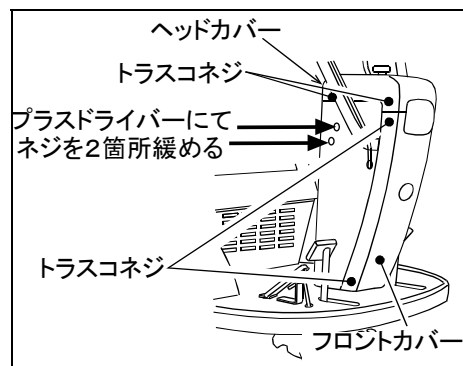
正常な場合、エンジンは始動しません。
(セルモータは回りません…セル仕様)
始動した場合は、調整が必要です。



●調整

1. 走行クラッチの安全スイッチの調整

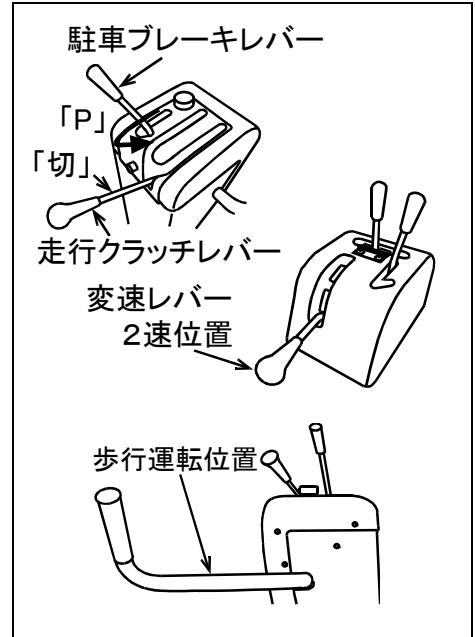
- (1) ヘッドカバー、フロントカバーを取り外します。
- (2) ハンドルフレーム横のリミットスイッチ調整のための穴よりプラスドライバーを入れてネジを2箇所緩めます。
- (3) 走行クラッチレバーを「入」位置に入れ、レバー支点部のプレートが、スイッチを確実に押している状態となるようにスイッチの位置を調整しネジを締め込んでください。
- (4) 調整のために取り外したカバー類を元のとおりに取り付けてください。



歩行運転位置の安全スイッチの点検と調整

●点検

- (1) 駐車ブレーキをかけ、走行クラッチレバーを「切」位置にします。
- (2) 変速レバーを「2速」位置にし、ハンドルセットレバーを操作してハンドルを歩行運転位置にしてください。
- (3) エンジン始動の操作をします。
セル仕様・・・キーを「始動」位置まで回します。
セル仕様以外・・・ストップスイッチをON位置にし、リコイルスタータを引きます。

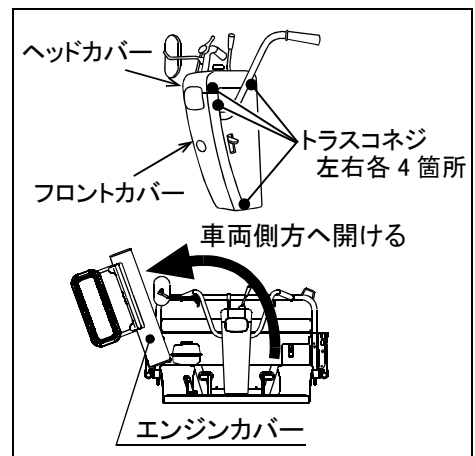


正常な場合、エンジンは始動しません。

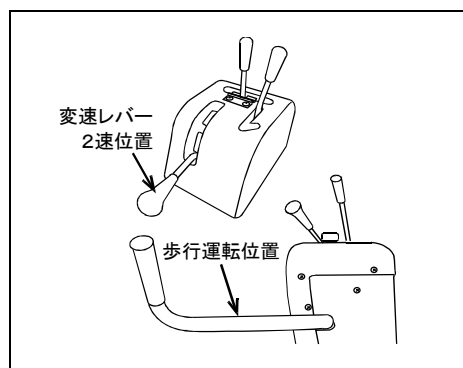
※セル仕様は、セルモータは回ります。これは故障ではありませんのでセルモータを回し過ぎないでください。セルモータ損傷の原因となります。

●調整

- (1) ヘッドカバーとフロントカバーを取り外し、エンジンカバーを開けます。

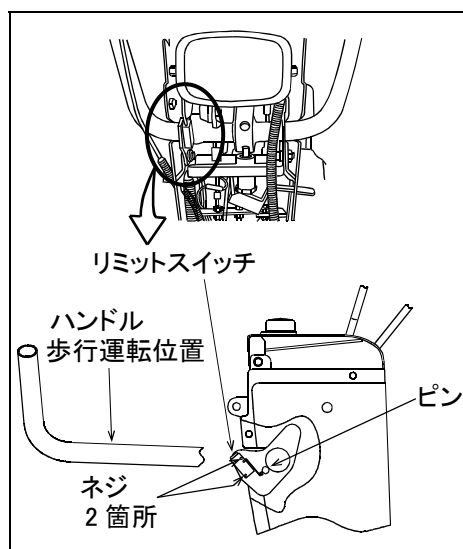


- (2) 変速レバーを「2 速」位置にし、ハンドルを歩行運転位置にします。
- (3) 変速レバー側、ハンドル側それぞれのリミットスイッチのネジを緩めて調整します。



●ハンドル側

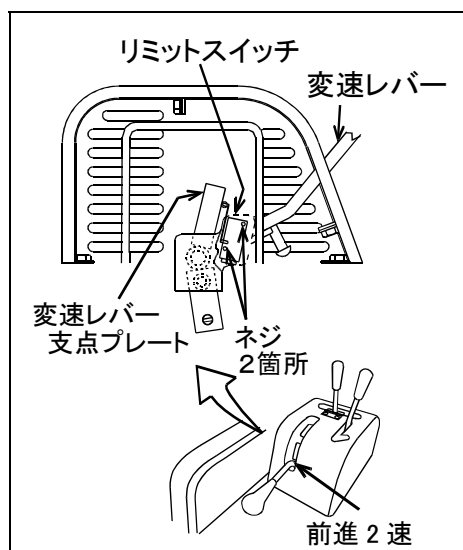
歩行運転位置のとき、ハンドルに溶接されたピンが、スイッチを確実に押している状態となるように、スイッチの位置を調整しネジを締め込んでください。



●変速レバー側

変速レバー「2 速」位置のとき変速レバー支点部のプレートが、スイッチを確実に押している状態となるように、スイッチの位置を調整しネジを締め込んでください。

- (4) 調整のために取り外したカバー類を元のとおりに取り付けてください。



■タイヤ空気圧の点検と調整

安全と性能を確保するため、タイヤ空気圧を適正に保つことは、非常に大切です。使用前には、必ず点検し、適正值に調整してください。

●標準空気圧

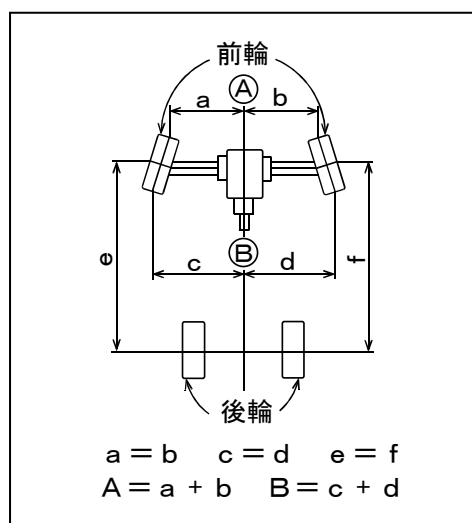
	S L 5 1		S L 5 6	
	タイヤサイズ	空気圧 (kPa) [kgf/cm ²]	タイヤサイズ	空気圧 (kPa) [kgf/cm ²]
前輪	AG400-8-4PR	(240) [2.4]	AG400-8-4PR	(240) [2.4]
後輪	AG19X8.00-10-4PR	(240) [2.4]	AG19X8.00-10-4PR	(240) [2.4]

■トーインの調整

トーインの調整が悪いと、タイヤが偏摩耗するばかりでなく、ハンドルを取られたり、直進性が悪くなったりします。調整はお買い上げいただいた販売店またはサービス工場で行なってください。

●点検・調整

- (1) 車体を真っ直ぐにしたとき前輪の前幅 ㉠と後幅 ㉡を計測し、 $\text{㉡} - \text{㉠} = 0 \sim 6 \text{ mm}$ になっているかを調べます。計測値が $0 \sim 6 \text{ mm}$ の範囲にない場合は調整が必要です。



■後枠開閉フックの点検・調整（各型式のダンプ仕様）

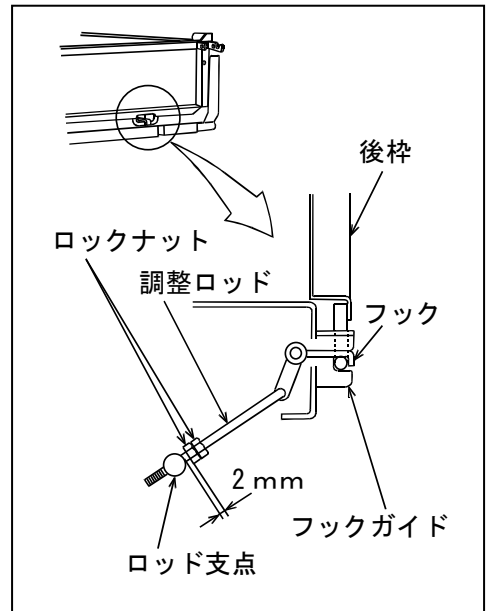
●点検

荷台を30°程度ダンプさせたとき、後枠がフックから外れ、荷台を下まで降ろしたとき、後枠がフックで固定されていることを確認します。

うまく動作しない場合は、調整が必要です。

●調整

- (1) 荷台を下まで降ろします。
- (2) ロッド支点と調整ロッドのロックナットのすき間を2mmに調整し、ロックナットを確実にロックします。
- (3) 荷台を上下させ、フックがフックガイド等に干渉しないことを確認します。

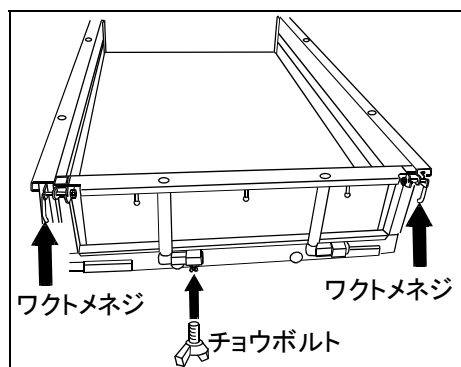


重要

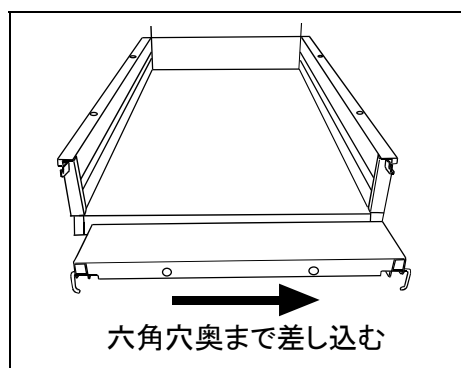
- 調整が悪いと後枠が開かなかったり、振動し異音が起こることがあります。また、フックがフックガイドなどに干渉し、フックや調整ロッドの変形につながります。

■ウシロワク水平（ダンブ仕様以外）

- (1) ウシロワク左右のワクトメネジを外し、
チョウボルトを緩めてウシロワクが倒れる
ようにします。

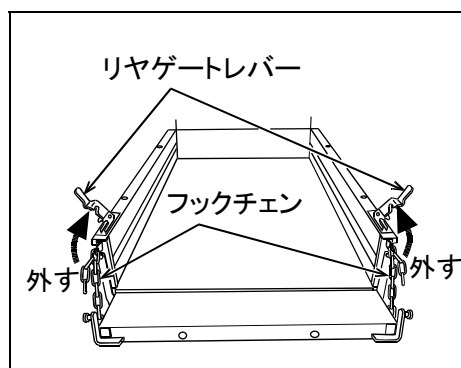


- (2) ウシロワクを水平付近まで倒し、ウシロワク
支点の六角部を荷台側六角穴に奥ま
で差し込んで、(1)で緩めたチョウボルト
をしっかり締め込み、ズレないように
しっかりと固定します。



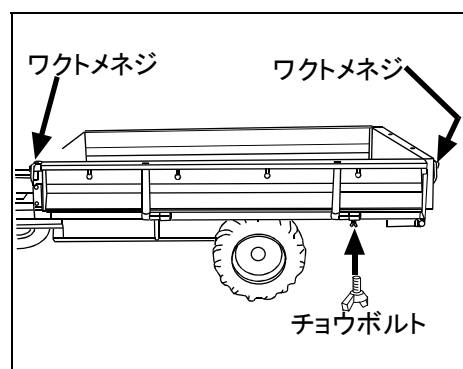
■ウシロワク水平（ダンブ仕様以外）

- (1) ヨコワク後方左右のリヤゲートレバーを
外し、ウシロワクに取付けているフック
チェンをヨコワクのフックに引っ掛け保
持します。

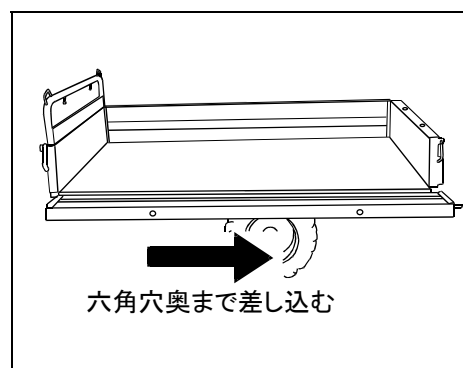


■ワク三方向水平（ダンプ仕様以外）

- (1) 前後、左右のワクトメネジを外し、左右のチョウボルト（3箇所）を緩めて、ヨコワクが倒れるようにします。



- (2) ヨコワクを水平付近まで倒し、ヨコワク支点の六角部を荷台側六角穴に奥まで差し込んで、(1)で緩めたチョウボルトをしっかりと締め込み、ズレないようにしっかりと固定します。



- (3) 86ページのウシロワク水平（ダンプ仕様以外）の項を参照し、ウシロワクを水平にします。

重要

- ヨコワク・ウシロワクを水平保持した状態では、重量物をヨコワクだけウシロワクだけに乗せないで必ず荷物の重心が荷台側になるように乗せてください。荷物の重心が枠側になっていると、走行中の振動等で破損する場合があります。

手入れと格納

⚠危険 ●火気のある場所、および高温な場所に本機およびバッテリー、燃料等を格納しないでください。火災の原因になります。

⚠警告 ●作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、高温部分が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になり大変危険です。

■日常の格納

日常の格納および短期間の格納は、次の要領で行なってください。

- (1) 車両はきれいに清掃しておきましょう。特に圃場での作業や悪路走行後は、きれいに洗車してください。
- (2) 燃料タンク内防錆のため、燃料は満タンにしておいてください。
- (3) 荷台は必ず降ろしてください。(ダンプ仕様)
- (4) 格納はできる限り屋内にしてください。
- (5) 駐車ブレーキを必ずかけてください。
- (6) 厳寒時はバッテリーを外し、暖かい室内などに保管すると始動時に効果があります。

重要 ●洗車の際は、エンジン・樹脂部品・電装品、およびマーク貼付部などには高圧水をかけないでください。特に、エンジンの点火プラグ付近には水が直接かからないようにしてください。高圧水をかけると、故障の原因となったり、マークのはがれ、部品の変形を起こしたりします。

■長期格納

長い間 30 日以上使用しない場合は、きれいに清掃し、次の要領で格納してください。

- (1) 車両はきれいに清掃しておきましょう。
- (2) 不具合箇所は整備してください。
- (3) エンジンオイルを新しいオイルと交換し、5 分程エンジンをアイドリング回転にて運転し、各部にオイルをゆきわたらせます。
- (4) 各部の給油を必ず行なってください。
- (5) 荷台は必ず降ろしてください。(ダンプ仕様)
- (6) 各部のボルト・ナットの緩みを点検し、緩んでいれば締めてください。
- (7) 格納場所は、周囲に紙など燃えやすいものがない、雨のかからない乾燥した場所を選んでください。
- (8) 走行クラッチレバーを「切」位置にし、駐車ブレーキはかけないで後輪に歯止め(車止め)をしておいてください。
- (9) エンジン部は、燃料タンク・気化器内のガソリンを完全に抜いて格納してください。 ※「エンジン取扱説明書」参照
- (10) バッテリーは、外して補充電を行ない、液面を正しく調整して日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。どうしても取り付けたま保管しなければならないときは、必ずアース側(⊖側)を外しておいてください。

重要

●バッテリーを外さないときは、最低限バッテリーの⊖端子を外してください。ねずみが配線をかじり、ショートして火災が発生することがあります。

●キースイッチのキーは必ず抜いておいてください。(セル仕様)

■長期格納後の使用

長期格納後の再使用は、特に次の内容に注意してください。

- 始業点検を確実に行なってください。
- エンジンの寿命・性能を保つため、エンジン始動後はアイドリング回転で 5 分程、運転してください。

不調時の対応のしかた

■エンジン関係

重要 ●参照ページの欄に※マークがある項目については、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

故 障 状 況	原 因	処 置	参照ページ
キースイッチを回してもセルモータが回らない (セル仕様)	●バッテリーの過放電	●バッテリーの充電または交換	64・65
	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
	●ヒューズ切れ	●ヒューズの交換	63
	●キースイッチの故障	●キースイッチの交換	※
	●セルモータの故障	●修理または交換	※
	●リミットスイッチの作動不良または故障	●リミットスイッチの調整または交換	80・81
	●走行クラッチレバーが入っている	●走行クラッチレバーを切る	29・30
セルモータの回転があがらない (セル仕様)	●バッテリーが弱い	●バッテリーの充電または交換	64・65
	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
セルモータは回るがエンジンがかからない (セル仕様)	●チョークレバーを操作していない	●チョークレバーを引く	42
	●燃料が供給されない	●燃料コックを開ける	41
	●燃料フィルタのつまり	●フィルタの清掃または交換	57
	●点火プラグの不良	●点火プラグの清掃または交換	エンジン取説
	●気化器のつまり	●気化器の清掃または交換	※
	●エンジン緊急停止スイッチが停止位置になっている	●運転位置にする	26
	●ハンドルが歩行運転位置かつ変速レバーが2速位置の条件となっている。	●条件を解除する	34・35
	●エンジン本体の不具合	●エンジンを修理または交換	※

不調時の対応のしかた

故障状況	原因	処置	参照ページ
エンジンの始動が困難である (リコイルスタート仕様)	●チョークレバーを操作していない	●チョークレバーを引く	42
	●走行クラッチレバーが入っている	●走行クラッチレバーを切る	29・30
	●ストップスイッチが「OFF」になっている	●ストップスイッチを「ON」にする	26
	●緊急停止スイッチが「停止」位置になっている	●「運転」位置にする	26
	●ハンドルが歩行運転位置かつ変速レバーが2速位置の条件となっている。	●条件を解除する	34・35
	●エンジン本体の不具合	●エンジンを修理または交換	※
エンジン回転が不規則である	●燃料フィルタのつまり	●フィルタの清掃または交換	57
	●ホース系の燃料もれまたはエアー混入	●クランプの締付け調整またはホース交換	※
	●点火プラグの不良	●点火プラグの清掃または交換	エンジン取説
	●気化器のつまり	●気化器の清掃または交換	※
エンジンを低速にすると停止する	●点火プラグの不良	●点火プラグの清掃または交換	エンジン取説
	●気化器のつまりおよび調整不良	●気化器の清掃または交換	※
	●スロットル調整不良	●スロットルの調整	エンジン取説 66～68
運転中に突然、エンジンが停止した	●燃料不足	●燃料補給	エンジン取説 40
	●エンジンオイル不足	●エンジンオイルの補給	エンジン取説 57・58
	●オイル不足または潤滑不良によるエンジン焼付	●エンジンの修理または交換	※

不調時の対応のしかた

故障状況	原因	処置	参照ページ
運転中に突然、エンジンが停止した	●プラグキャップの緩み	●プラグキャップを正しく取付ける	エンジン取説
マフラから異常な煙がでる	●エアクリーナが目詰まり	●エレメントの清掃または交換	エンジン取説
	●エンジンオイル量が多い	●点検し適正量にする	エンジン取説 57・58
	●燃料供給量不良	●気化器の調整	※
	●燃料がよくない	●正規の燃料に入れ換える	エンジン取説 40・57
エンジン出力不足	●積載量が多すぎる	●積載量を減らす	51
	●気化器の調整不良	●気化器の調整	※
	●点火プラグ不良	●点火プラグの清掃または交換	エンジン取説
	●エンジンオイル量の不適	●エンジンオイル量を点検し適正量にする	エンジン取説 57・58
	●エアクリーナが目詰まり	●エレメントの清掃または交換	エンジン取説
	●エンジンオイルが汚れている	●エンジンオイルの交換	エンジン取説
	●タンクキャップの空気穴の詰まり	●空気穴の清掃	エンジン取説
	●エンジン本体の不具合	●エンジンの修理または交換	※
	●エンジンの過熱	●小休止	—
		●吸気部の清掃	エンジン取説

不調時の対応のしかた

■クラッチ関係

故 障 状 況	原 因	処 置	参照ページ
クラッチがすべる	●走行ベルトのスリップ	●走行クラッチレバーおよびフットクラッチペダルの調整	69・70 72・73
	●走行クラッチレバーの調整不良	●走行クラッチレバーの調整	69・70
	●フットクラッチペダルの調整不良	●フットクラッチペダルの調整	73
	●走行ベルトの摩耗	●走行ベルトの交換	71・72 ※
クラッチが切れない	●走行クラッチレバー、ベルトストッパの調整不良	●走行クラッチレバー、ベルトストッパの調整	69～72
	●フットクラッチペダルの調整不良	●フットクラッチペダルの調整	72・73
	●ケーブル（フットクラッチ）の損傷	●ケーブル（フットクラッチ）の交換	※

■ブレーキ関係

故 障 状 況	原 因	処 置	参照ページ
ブレーキの効きが悪いまたは片効きである	●フットブレーキペダルの遊びが大きすぎる	●フットブレーキペダルの遊び量を調整する	74・75
	●左右ブレーキロッドの不良	●左右ブレーキロッドの調整	76
	●ブレーキシューの摩耗	●ブレーキシューの交換	※
フットブレーキペダルの戻りが悪い	●ブレーキ戻しスプリングの破損	●ブレーキ戻しスプリングの交換	※
	●各摺動部のグリス切れ	●錆び落としおよびグリス・アップ	—
	●ケーブルの調整不良	●フットブレーキペダルの調整	74・75
駐車ブレーキの効きが悪い	●駐車ブレーキレバーの調整不良	●駐車ブレーキレバーの調整	77
	●ブレーキシューの摩耗	●ブレーキシューの交換	※

不調時の対応のしかた

■アクセル・スロットル関係

故障状況	原因	処置	参照ページ
アクセルペダルが戻らない	●スロットルレバーが「高」位置にある	●スロットルレバーを「低」位置にする	28
	●リターンスプリングの破損	●リターンスプリングの交換	※

■チェンジ・伝動関係

故障状況	原因	処置	参照ページ
変速レバーが各変速位置に入らない	●変速レバーがズレている	●変速レバーの調整	68・69
	●変速レバーの変形	●変速レバーの交換	※
走行クラッチレバーを「入」にしても走らない	●走行ベルトのスリップ	●走行クラッチレバーの調整	69・70
	●走行ベルトの摩耗	●走行ベルトの交換	71・72 ※
	●駐車ブレーキのロック	●駐車ブレーキの解除または調整	31・77
走行クラッチレバーを「切」にしても停止しない	●走行ベルトのつき回り	●走行クラッチレバーの調整	69・70
		●ベルトストッパの調整	71・72

■操行関係

故障状況	原因	処置	参照ページ
ハンドルが重い ハンドルがとられる	●トーインが正しくない	●トーインの調整	※
	●左右のタイヤ空気圧が不揃い	●左右共に規定空気圧にする	84
	●各タイロッドにガタがある	●増し締めまたは修理・交換	※
	●タイヤがパンクまたは摩耗している	●タイヤの交換	※

不調時の対応のしかた

■油圧関係（ダンブ仕様）

故 障 状 況	原 因	処 置	参照ページ
ダンブレバーを操作しても動かない	●油圧駆動ベルトのスリップ	●ベルトの張り調整または交換	7 3 ・ ※
	●荷物の積み過ぎ	●積載量を減らす	5 1
能力がでない	●作動油の減少・質の低下	●作動油の補給または交換	6 0 ・ ※
	●シリンダ内にエア混入	●エア抜き	※
油もれがする	●配管結合部の緩み	●増し締め	—
	●シールの劣化・摩耗	●シールの交換	※
	●油圧ホース亀裂	●油圧ホースの交換	※

不調時の対応のしかた

■電装関係

故 障 状 況	原 因	処 置	参照ページ
バッテリーが充電されない	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
	●ヒューズ切れ	●ヒューズの交換	6 3
	●レギュレータ不良	●レギュレータの交換	※
	●エンジン発電不良	●エンジンの修理	※
	●バッテリーの機能不良	●端子の緩み、腐食、電解液の不足などを修正またはバッテリーの交換	—
ランプが暗い	●バッテリーの性能低下	●バッテリーの充電または交換	6 4 ・ 6 5
	●エンジン発電不良	●エンジンの修理	※
ランプが点灯しない	●電球切れ	●電球の交換	—
	●ヒューズ切れ	●ヒューズの交換	6 3
	●端子の接触不良	●端子およびコネクタの点検清掃	—
ホーンが鳴らない	●ホーンボタンの故障	●ホーンボタンの交換	※
	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
	●ホーンの損傷	●ホーンの交換	※

農作業を安全におこなうために

農林水産省より、安全に農作業に従事できるように、農業機械を使用するときの注意事項が「農作業安全基準」として定められています。ここに、ホイール型運搬車を使用される方のために、特に重要な項目を「農作業安全基準」より抜粋しております。熟読の上、事故のない楽しい農作業のためにお役立てください。

一般共通事項

(1) 適用範囲

一般共通事項は、農業機械を使用して行う作業に従事する者が農作業の安全を確保するための注意すべき事項を示すものである。

(2) 就業条件

①安全作業の心得

農業機械を使用して行う作業（以下、「機械作業」という）に従事する者は機械の操作の熟練に努め、自己の安全を図ると共に、補助作業者及び他人に危害をおよぼさないように、機械を正しく運転することに努めること。

②就業者の条件

次に該当する者は、危険を伴う機械作業に従事しないこと。

- 精神病患者
- 酒気をおびた者
- 若年者
- 未熟練者
- 過労・病気・薬物の影響その他の理由により正常な運転操作ができない者。

激しい作業が続く場合には、特に健康に留意し、適当な休憩と睡眠をとること。
妊娠中の者は、振動を伴う機械作業に従事しないこと。

③特殊温湿度環境下の安全

暑熱、寒冷及び高湿の環境における作業に際しては、安全を確保するため作業時間及び方法等を十分に検討すること。

(3) 子供に対する安全配慮

機械には、子供を同乗させないこと。また、機械には子供を近寄らせないように注意すること。

(4) 安全のための機械管理

① 日常の点検整備

農業機械は、使用の前後に日常の点検整備を行い、常に機械を安全な状態に保つこと。

② 防護装置の点検

●機械作業に従事する者は、機械の操縦装置、制御装置、防護装置等危険防止のために必要な装置を点検整備して常に正常な機能が発揮できるようにしておくこと。

●機械に取り付けられた防護装置等を機械の点検整備または修理等のために取り外した場合は、必ず復元しておくこと。

③ 掲げ装置の落下の防止

作業機を上げた位置で点検調整等を行う場合には、ロック装置のあるものについて、必ずこれを使用し、かつ、ロック装置の有無にかかわらず作業機について落下防止の措置を講じること。

④ 整備工具の管理

点検整備に必要な工具類を適正に管理し、正しく利用すること。

(5) 火災・爆発の防止

① 引火・爆発物の取り扱い

引火または、爆発の恐れのある物質の貯蔵・補給等にあたってはその取り扱いを適正にすること。特に火気を厳禁すること。

② 火災予防の措置

火災の恐れがある作業場所には、消火器を備え、喫煙場所を決める等火災予防の措置を講じること。

(6) 服装および保護具の使用

次の農作業に際しては、適正な服装及び保護具を用い、危険のないよう作業に従事すること。

① 頭の傷害防止の措置

機械からの墜落及び、落下物の恐れのある大きい場合、交通頻繁な道路での運行の場合等では、頭部保護のために適正な保護具を用いること。

② 巻き込まれによる傷害防止の措置

原動機若しくは動力伝動装置のある作業機または駆動する作業機を使用する場合には、衣服の一部、頭髮、手拭き等が巻き込まれないように適正な帽子および作業衣等を使用すること。

③足の障害及びスリップ防止の措置

機械作業において、作業機等の落下、土礫の飛散、踏付け、踏抜き及びスリップ等の恐れのある場合は、これらの事故を防止するために適正な履物を用いること。

④粉じん及び有害ガスに対する措置

多量の粉じん及び有害ガスが発生する作業にあつては、粉じん及び有害ガスによる危害防止のための適正な保護具を使用すること。

⑤農薬に対する措置

防除作業においては、呼吸器、眼、皮膚等からの農薬による障害防止のために適正な保護具（保護衣を含む）を使用すること。

⑥激しい騒音に対する措置

激しい騒音の伴う作業にあつては、耳を保護するための適正な保護具を使用すること。

⑦保護具の取り扱い

安全保護具を常に正常な機能を有するように点検し、正しく使用すること。

移動機械共通事項

(1) 適用範囲

移動機械共通事項は、地上を移動しながら作業するトラクターその他の移動機械を使用して行う作業に従事する者が注意すべき事項を示すものである。

(2) 作業前の注意事項

①機械の点検整備

- 機械の点検整備を十分行い、その使用にあたっては、常に安全を確保すること。
- 機械の点検整備、手入れ及び作業機の装着等は、交通の危険がなく平坦である等、安全な場所であつ安全な方法で確実に行うこと。特に、屋内で内燃機関を運転しながら点検整備等を行う場合は、換気に注意すること。

②防護装置の保全

- 機械に取り付けられた防護装置は、常に有効に作用する状態に保っておくこと。
- 機械の点検整備等のために防護装置を取り外した場合は、必ず復元し、その機能を十分に発揮できるようにしておくこと。

③悪条件下における作業

土地条件、気象条件等により機械作業に対する条件がよくない場合の作業については、実施の判断、作業方法及び装備の選択等に注意すること。

(3) 作業中の注意事項

①乗車等の禁止

- 機械作業に際して機械には、指定の箇所以外に他人を乗せないこと。また、指定箇所においても定員以上に乗車させないこと。
- 非常の場合を除いて、運行または作業中の機械に飛び乗り、またはこれから飛び降りないこと。
- 機械作業中は、作業関係者以外の者を機械に近寄らせないこと。

②前方及び後方の安全確認

- 運転中または作業中は、常に機械の周囲に注意し、安全を確認すること。特に、発進時に注意すること。

③転倒落下の防止

- 傾斜地における機械作業においては、機械の転倒を防ぐために速度、旋回、作業方法等に注意して運転操作を行うこと。
- 圃場への出入り、溝また畦畔の横断、軟弱地の通過等には、機械の転落を防ぐために、特に注意すること。
- 機械の積み降ろしに際しては、機械の転倒及び落下を防ぐための適切な措置を講じ、十分注意して行うこと。

④傷害の防止

- 動力伝導装置・回転部等の危険な部分には、作業中接触しないように注意すること。

⑤道路走行の安全

- 道路走行にあたっては、関係法規を守り、安全に運転すること。
- 道路走行にあたっては、他の自動車走行の妨げとならないように留意すること。
- 悪条件の道路での高速運転の禁止
凹凸のはげしい道路、曲折のはげしい道路等においては、高速で運転しないこと。
- 坂道時は、必ずエンジンプレーキを用いること。また、操向クラッチを使用しないこと。登坂時における発進では、前輪の浮上りに注意すること。

⑥夜間における安全

夜間作業においては、とくに安全に注意し、的確な照明を行うこと。
夜間給油を行う場合は、裸火等を使用せず、安全な照明のもとで安全かつ確実に給油すること。

⑦作業中の点検調整等における安全措置

機械の点検調整は、必ず原動機を止め、安全な状態で行うこと。
休けい等で機械を離れる場合は、機械を安定した場所におき、作業機を下し、かつ、安全な停止状態を保つように注意すること。やむを得ず傾斜地に機械を置く場合は、さらに車止めを施して、自然発車等の危険が生じないように注意すること。

(4) 終業後の注意事項

①終業後の点検整備

作業終業後は、必ず次の作業のため機械の点検整備を行うこと。

②機械の安全管理

作業終了後は、作業機をはずし、または降ろし、機械を安定した場所に置き、かつ、安全な停止状態を保つように注意すること。
また、危険と思われる機械は、格納庫に保管するかおおいをかけるなどして安全な状態におくこと。

サービス資料

主要諸元

名 称				ホイール型運搬車 (小型特殊自動車「ホイール・キャリヤ」)		
型 式				SL56EA	SL56DEA	
最 大 作 業 能 力 (kg)				600		
乗 車 定 員 (人)				1		
車 体	質 量 (kg)			410	450	
	全 長 (mm)			2945～3210	2950～3215	
	全 幅 (mm)			1210		
	全 高 (mm)			1150		
荷台内寸 (長×幅×枠高) (mm)				1830×1080×240		
荷 台 面 地 上 高 (mm)				520		
走 行 部	走 行 形 式			4輪／4輪駆動 (パートタイム)		
	操 向 形 式			アッカーマンジャント式		
	ブ レ ー キ 形 式			内拵式 (後2輪 φ180、センターブレーキ φ80)		
	タ イ ヤ サ イ ズ	前 輪		AG4.00-8-4PR A250		
		後 輪		AG19×8.00-10-4PR		
	ト レ ッ ド (mm)	前 輪		850		
		後 輪		770		
	ホ イ ール ベ ース (mm)			1510		
	変 速 段 数			前進-4速, 後進-2速		
	走 行 速 (km/h)	前 進	1 速	高	4.7	
			低	2.9		
			2 速	高	13.0	
低				8.1		
後 進		1 速	高	3.9		
		低	2.4			
最 低 地 上 高 (mm)				145		
最 小 回 転 半 径 (m)				2.65		
エ ン ジ ン	型 式 名			FJ180G-CE51		
	種 類			空冷4サイクル1気筒OHVエンジン		
	総 排 気 量 (L {cc})			0.179 {179}		
	出力/回転速度 (kW {PS} /rpm)			ネット値 3.4 {4.6} /1800 (最大 4.4 {6.0} /2000)		
	使 用 燃 料			自動車用無鉛ガソリン		
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)			3.2		
	始 動 方 式			リコイルスタータ、セルモータ併用		
	発 電 装 置			12V-25W・レギュレータ		
作 業	名 称			—	油圧ダンブ	
	最 大 能 力 (kg)			—	500	
	装 置 仕 様			—	複動シリンダ	
	ダ ン プ 角 度 (度)			—	60	
登 録 型 式				アテックス SL42		
型 式 認 定 番 号				特2203		

サービス資料

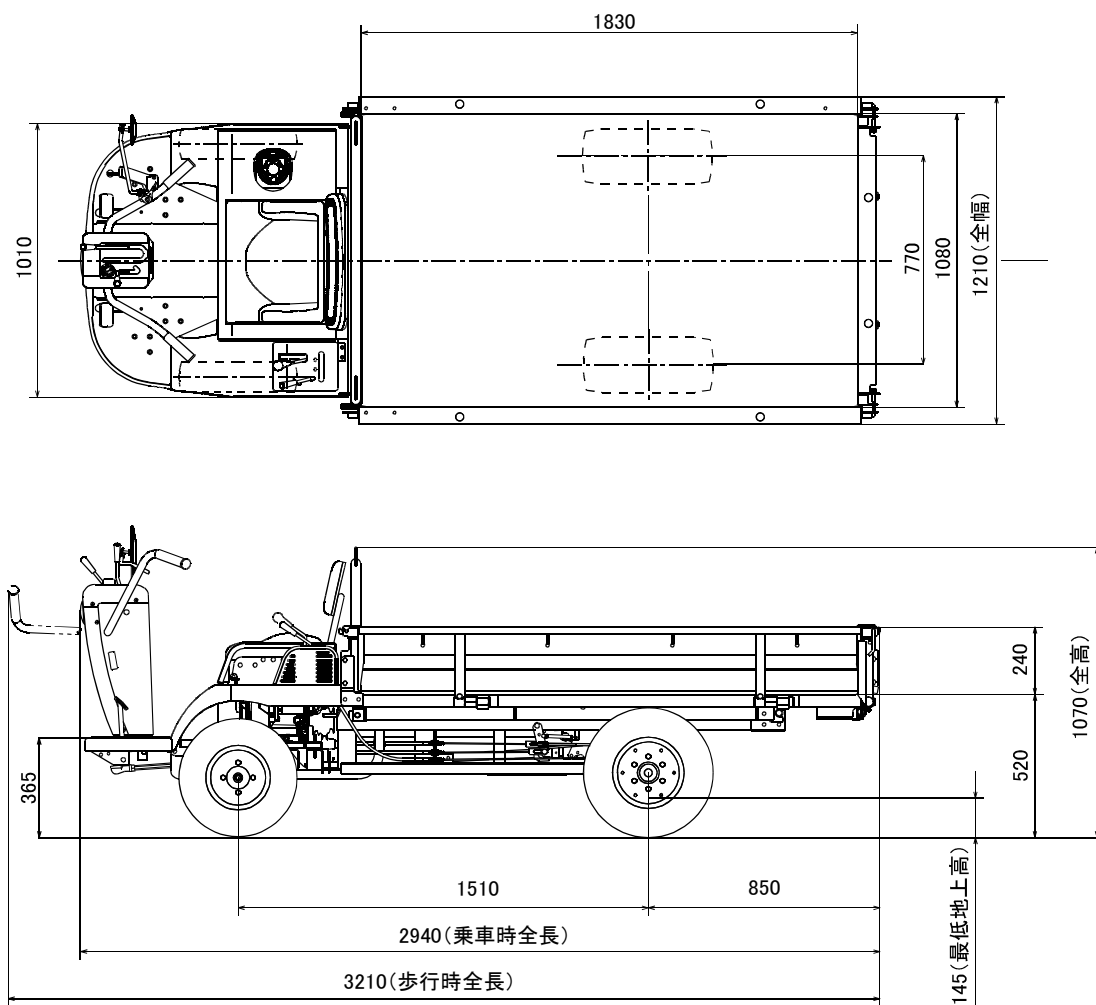
名 称				ホイール型運搬車（小型特殊自動車「ホイール・キャリヤ」）				
型 式				S L 5 1 D A		S L 5 1 D E A		
最 大 作 業 能 力 (k g)				6 0 0				
乗 車 定 員 (人)				1				
車 体	質 量 (k g)			3 9 5		4 0 0		
	全 長 (mm)			2 9 5 0 ～ 3 2 1 5				
	全 幅 (mm)			1 2 1 0				
	全 高 (mm)			1 1 5 0				
荷台内寸（長×幅×枠高）(mm)				1 8 3 0 × 1 0 8 0 × 2 4 0				
荷 台 面 地 上 高 (mm)				5 2 0				
走 行 部	走 行 形 式			4 輪 / 後 2 輪 駆 動				
	操 向 形 式			ア ッ カ ー マ ン ジ ャ ン ト 式				
	ブ レ ー キ 形 式			内 拡 式 (後 2 輪 φ 1 8 0、セ ン タ ー ブ レ ー キ φ 1 1 0)				
	タ イ ヤ サ イ ズ		前 輪	A G 4. 0 0 - 8 - 4 P R			H F 2 0 9	
			後 輪	A G 1 9 × 8. 0 0 - 1 0 - 4 P R				
	ト レ ッ ド (mm)		前 輪	8 5 0				
			後 輪	7 7 0				
	ホ イ ー ル ベ ー ス (mm)			1 5 1 0				
	変 速 段 数			前 進 - 4 速, 後 進 - 2 速				
	走 行 速 (km/h)	前 進	1 速	高	4. 7			
				低	2. 9			
			2 速	高	1 3. 0			
				低	8. 1			
		後 進	1 速	高	3. 9			
				低	2. 4			
最 低 地 上 高 (mm)			1 4 5					
最 小 回 転 半 径 (m)			2. 3					
エ ン ジ ン	型 式 名			FJ180G-CE52		FJ180G-CE51		
	種 類			空 冷 4 サ イ ク ル 1 気 筒 O H V エ ン ジ ン				
	総 排 気 量 (L { c c })			0. 1 7 9 { 1 7 9 }				
	出 力 / 回 転 速 度 (kW { P S } / r p m)			ネ ッ ト 値 3. 4 { 4. 6 } / 1800 (最 大 4. 4 { 6. 0 } / 2000)				
	使 用 燃 料			自 動 車 用 無 鉛 ガ ソ リ ン				
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)			3. 2				
	始 動 方 式			リ コ イ ル ス タ ー タ 式		リ コ イ ル ス タ ー タ、セ ル モ ー タ 併 用		
発 電 装 置			1 2 V - 2 5 W ・ レ ギ ュ レ ー タ					
作 業	名 称			油 圧 ダ ン プ				
	最 大 能 力 (k g)			5 0 0				
	装 置 仕 様			複 動 シ リ ン ダ				
	ダ ン プ 角 度 (度)			6 0				
登 録 型 式			ア テ ッ ク ス S L 4 2					
型 式 認 定 番 号			特 2 2 0 3					

サービス資料

名 称				ホイール型運搬車（小型特殊自動車「ホイール・キャリヤ」）				
型 式				S L 5 1 A		S L 5 1 E A		
最 大 作 業 能 力 (k g)				6 0 0				
乗 車 定 員 (人)				1				
車 体	質 量 (k g)			3 5 5		3 6 0		
	全 長 (mm)			2 9 4 5 ～ 3 2 1 0				
	全 幅 (mm)			1 2 1 0				
	全 高 (mm)			1 1 5 0				
荷台内寸（長×幅×枠高）(mm)				1 8 3 0 × 1 0 8 0 × 2 4 0				
荷 台 面 地 上 高 (mm)				5 2 0				
走 行 部	走 行 形 式			4 輪 / 後 2 輪 駆 動				
	操 向 形 式			アッカーマンジャント式				
	ブ レ ー キ 形 式			内 拡 式 (後 2 輪 φ 1 8 0、センターブレーキ φ 1 1 0)				
	タ イ ヤ サ イ ズ		前 輪	A G 4. 0 0 - 8 - 4 P R			H F 2 0 9	
			後 輪	A G 1 9 × 8. 0 0 - 1 0 - 4 P R				
	ト レ ッ ド (mm)		前 輪	8 5 0				
			後 輪	7 7 0				
	ホ イ ー ル ベ ー ス (mm)			1 5 1 0				
	変 速 段 数			前 進 - 4 速, 後 進 - 2 速				
	走 行 速 (km/h)	前 進	1 速	高	4. 7			
				低	2. 9			
			2 速	高	1 3. 0			
低				8. 1				
後 進		1 速	高	3. 9				
			低	2. 4				
最 低 地 上 高 (mm)				1 4 5				
最 小 回 転 半 径 (m)				2. 3				
エ ン ジ ン	型 式 名			FJ180G-CE52		FJ180G-CE51		
	種 類			空 冷 4 サ イ ク ル 1 気 筒 O H V エ ン ジ ン				
	総 排 気 量 (L { c c })			0. 1 7 9 { 1 7 9 }				
	出力/回転速度 (kW {PS} /rpm)			ネ ッ ト 値 3. 4 { 4. 6 } / 1 8 0 0 (最 大 4. 4 { 6. 0 } / 2 0 0 0)				
	使 用 燃 料			自 動 車 用 無 鉛 ガ ソ リ ン				
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)			3. 2				
	始 動 方 式			リ コ イ ル ス タ ー タ 式		リ コ イ ル ス タ ー タ、 セルモータ併用		
作 業	発 電 装 置			1 2 V - 2 5 W ・ レ ギ ュ レ ー タ				
	名 称			—				
	最 大 能 力 (k g)			—				
	装 置 仕 様			—				
ダ ン プ 角 度 (度)				—				
登 録 型 式				ア テ ッ ク ス S L 4 2				
型 式 認 定 番 号				特 2 2 0 3				

[illegible]

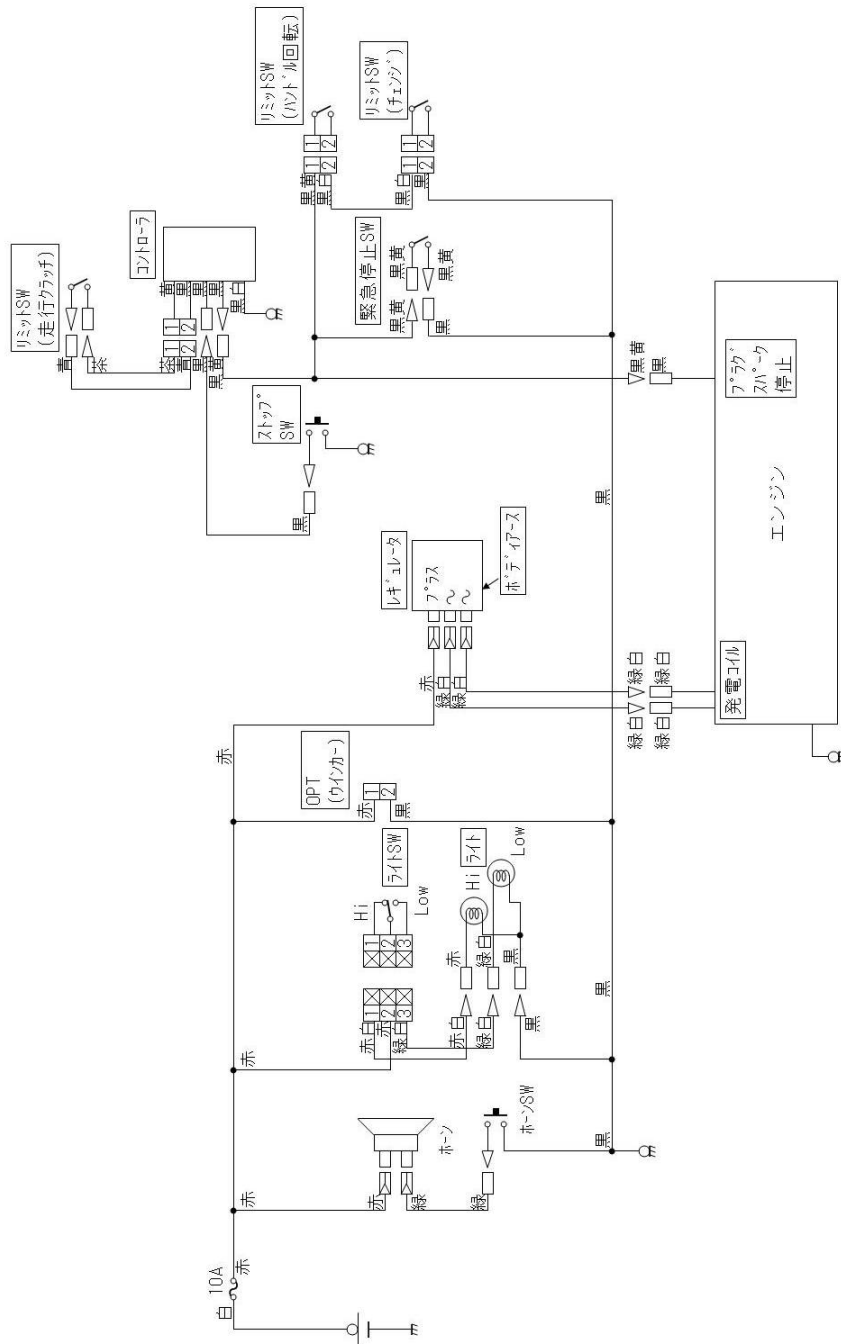
(SL56EA, SL51EA, SL51A)



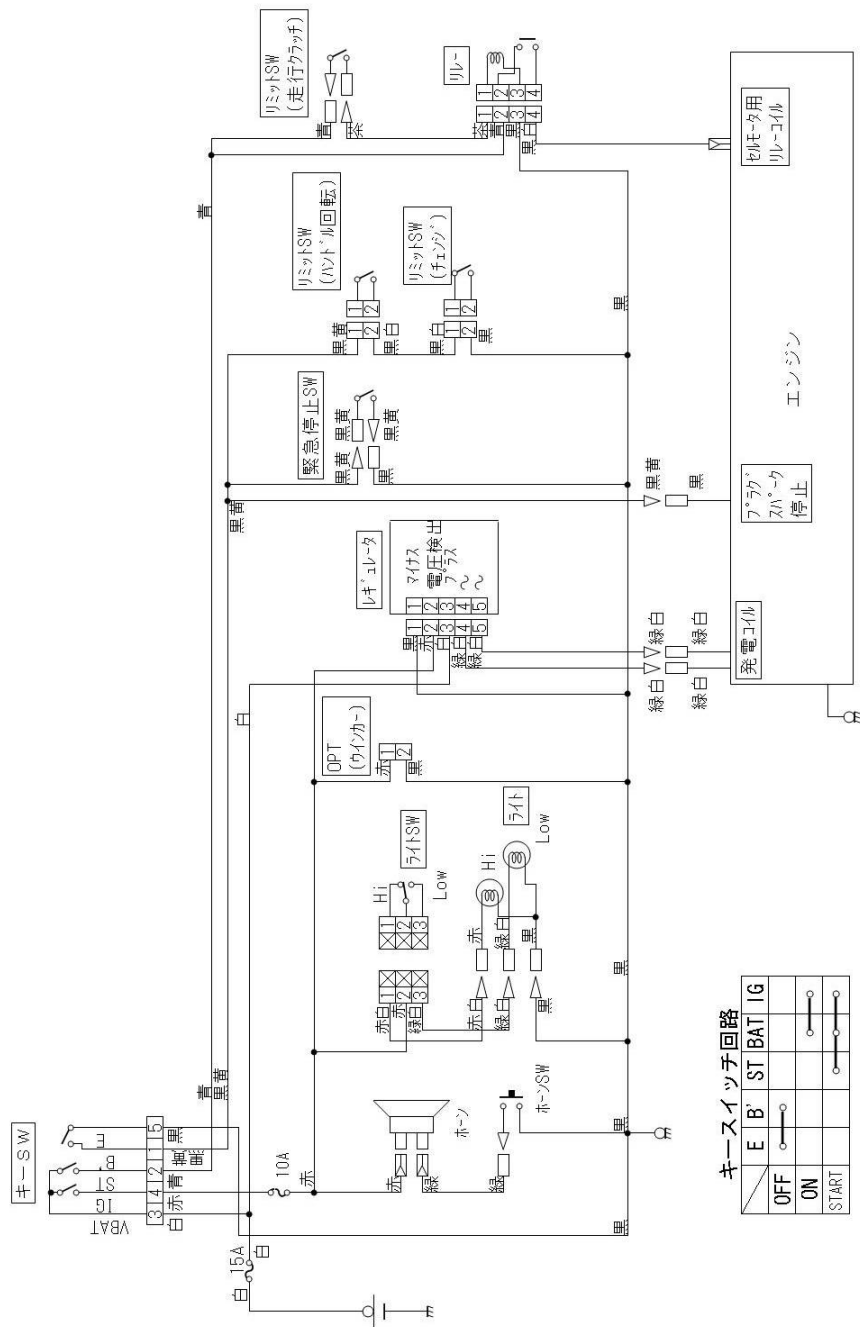
イラスト：SL51EA

配線図

(リコイルスタータエンジン仕様)



(セルスタータエンジン仕様)



主な消耗部品

消耗部品のご注文は、部品番号をお確かめの上、お買い上げいただきました販売店にご注文ください。

項 目	該当型式	使用箇所	品 名	部 品 番 号
タイヤ	S L 5 1 (全仕様)	前 輪	ゼンリン (4PR) 2WD COMP	0456-321-200-0A
	S L 5 6 (全仕様)	前 輪 (L) 側	ゼンリン (4PR) 4WD LCOMP	0458-321-200-0
		前 輪 (R) 側	ゼンリン (4PR) 4WD RCOMP	0458-321-210-0
	全型式	後 輪 (L) 側	タイヤ (19-800) L	0437-340-200-0
		後 輪 (R) 側	タイヤ (19-800) R	0437-340-210-0
Vベルト	全型式	走行用 (高速)	コグベルト (SB32HP4)	0347-510-012-0
		走行用 (低速)	ベルト (V コグ B34)	P115-511-021-0
	ダンブ仕様	油圧ポンプ	Vベルト (SA-29)	0457-520-011-0
ヒューズ	全型式	電気配線	ヒューズカン (10A)	P115-430-302-0A
	セル仕様		ヒューズカン (15A)	P115-430-301-0A
ブレーキシュー	全型式	後 輪	ブレーキシュー	0439-330-201-0
	S L 5 1 (全仕様)	トランスミッション センターブレーキ	ブレーキシュー S E T	0400-102-300-0
	S L 5 6 (全仕様)		ブレーキシュー S E T	0457-180-014-0
バッテリー	全型式	バッテリー	バッテリー 34A (G)	0453-455-011-2B

索引

あ	アクセルペダル	28・66	な	長期格納	21・89
	アユミ板	16		チョークレバー	42
	安全スイッチ	80～83		積み込み、積み降ろし	15・16・17
	安全のポイント	8		停車	49・50
	安全表示ラベル	3・4		デフロックレバー	32・79
	後枠開閉フック	85		点検整備	54
	運転免許証	7		電気系統の点検と清掃	62
	エンジンオイル	57		トーイン	84
	エンジン型式	6・24		ナンバープレート	5
	エンジンカバー	36		2WD・4WD 切換えレバー	32・79
	エンジンの始動	11・41		日常の格納	88
	エンジンの停止	44		燃料コック	41
か	外観図	105・106	は	配線図	107・108
	キースイッチ	26		発進・走行のしかた	46
	給油	40・58・60		バッテリー	64・65
	緊急停止スイッチ	26		ハンドルセットレバー	34
	グリス	55・56・62		ヒューズ	63・109
	小型特殊自動車	5		フィルタポット	57
さ	最大作業能力	51	ゆ	フットクラッチペダル	30・72
	坂道での運転	47		フットブレーキペダル	30・74
	始業点検	38・39		ブレーキシュー	78・109
	重要・安全ポイント	2		ブレーキロッド	76
	主要緒元	102～104		フロントエンジンカバー	36
	乗車定員	12		フロントデフのオイル交換	59
	消耗品	109		変速レバー	29・69
	スイッチベース	37		ホーンボタン	27
	ストップスイッチ	26		手入れと格納	88
	スロットルレバー	28		保険	7
	制動	49・50		保障とサービス	24
	製造番号	24	ら	油圧操作	53
	積載要領について	51・52		ランプスイッチ	27
	旋回のしかた	47			
	センターブレーキ	78			
	走行のしかた	46・47			
た	走行クラッチレバー	29・30			
	タイヤ	84・109			
	ダンプレバー	33			
	駐車	49・50			
	駐車ブレーキレバー	31・77			

困ったり、わからないことがあれば

販売店

住所 〒 —

Tel — —

担当；

までご連絡ください。

型 式	
製造番号	

ご購入日	
------	--

※ご使用になる前にメモしておく、万一、修理の依頼をされるときに役立ちます。

豊かさを創造し、未来へ挑戦する 株式会社アテックス

本 社	愛媛県松山市衣山 1 丁目 2 - 5 TEL (089) 924-7161 (代) FAX (089) 925-0771 TEL (089) 924-7162 (営業直通) お客様ダイヤル 0120-870866 E-mail: atexhome@atexnet.co.jp ホームページ: http://www.atexnet.co.jp	〒791-8524
東 北 営 業 所	岩手県花巻市北湯口第 2 地割 1 - 1 4 TEL (0198) 29-6322 (代) FAX (0198) 29-6323 E-mail: touhokugrp@m2.atexnet.co.jp	〒025-0301
関 東 支 店	茨城県猿島郡五霞町元栗橋 6 6 3 3 TEL (0280) 84-4231 (代) FAX (0280) 84-4233 E-mail: kantogrp@m2.atexnet.co.jp	〒306-0313
中 部 営 業 所	岐阜県大垣市本今 5 丁目 1 2 8 TEL (0584) 89-8141 (代) FAX (0584) 89-8155 E-mail: kansaigrp@m2.atexnet.co.jp	〒503-0931
中 四 国 支 店	愛媛県松山市衣山 1 丁目 2 - 5 TEL (089) 924-7162 FAX (089) 925-0771 E-mail: chuushikokugrp@m2.atexnet.co.jp	〒791-8524
九 州 営 業 所	熊本県菊池郡菊陽町大字原水 1 1 5 6 - 1 7 TEL (096) 292-3076 (代) FAX (096) 292-3423 E-mail: kyushugrp@m2.atexnet.co.jp	〒869-1102
部品センター	愛媛県松山市馬木町 8 9 9 - 6 TEL (089) 979-5910 (代) FAX (089) 979-5950 E-mail: partsgrp@m2.atexnet.co.jp	〒799-2655

部品コード	0457-942-011-2B
-------	-----------------